



第7回

日本聴覚障害学生

高等教育支援シンポジウム

2011.11.6 SUN つくば国際会議場

**主催：日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)
国立大学法人 筑波技術大学**

**後援：文部科学省
独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO)**

❁ もくじ

開催要項	2
挨拶	3
プログラム	6
会場案内	8
分科会	
分科会 1 基礎講座「4年間を通して学生を支えるために ー筑波技術大学の実践からー」	1 2
分科会 2 「みんなで考えよう!聴覚障害学生の望む通訳とは? ーよりよい手話通訳・パソコンノートテイクのためにー」	2 6
分科会 3 「体験しよう!コーディネーターの業務ー支援プラン作りに挑戦ー」	3 4
分科会 4 「支援の質を高める組織的实践ー事例から学ぶ様々な取り組みー」	3 7
ランチセッション	
聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2011	4 9
聴覚・視覚障害学生支援に関する機器展示	5 0
全体会	
特別講演「障害学生の支援について」	5 4
パネルディスカッション「震災時に求められる聴覚障害学生支援のあり方とは? ー東日本大震災後の現状と課題からー」	5 5
参考資料	
日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) 活動紹介	7 0
PEPNet-Japan 連携大学・機関の紹介	7 7
筑波技術大学の紹介	9 5
聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 発表内容紹介	9 9



❁ 開催要項

名 称 : 第7回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム開催要項

目 的 : 高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生への支援については、近年多くの大学が聴覚障害学生の受講する授業に対してノートテイクを配置するなどの体制作りを進めている。日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）では、筑波技術大学を中心に、特に聴覚障害学生への支援体制が充実し、積極的な取り組みを行ってきている大学・機関と共同で、聴覚障害学生支援に関するノウハウを積み重ね、先駆的な事例の開拓を行ってきた。
本シンポジウムでは、全国の大学における支援実践に関する情報を交換するとともに、PEPNet-Japanの活動成果をより多くの大学・機関に対して発信することで、今後の支援体制発展に寄与することを目的とする。

期 日 : 2011年11月6日（日）10:00～17:00

会 場 : つくば国際会議場（茨城県つくば市竹園2-20-3）

主 催 : 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）
国立大学法人筑波技術大学

後 援 : 文部科学省
独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）

大会長 : 村上芳則（筑波技術大学 学長）

実行委員長 : 石原保志（筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター長）

事務局長 : 白澤麻弓（筑波技術大学 准教授）

実行委員 : 松崎丈（宮城教育大学）

吉川あゆみ（関東聴覚障害学生サポートセンター）

岡田孝和（日本社会事業大学）

渡部安雄・及川力・小林正幸・佐藤正幸・中嶋靖雄・大杉豊・三好茂樹・

河野純大・蓮池通子・萩原彩子・中島亜紀子・磯田恭子・石野麻衣子・

大橋弘依・関口紘未（筑波技術大学）



第7回シンポジウムの開催にあたって

国立大学法人 筑波技術大学長

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク 代表
村上 芳則

「日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」が回を重ね、4年ぶりに本学の所在地「つくば」で開催されることになりました。参加者の皆様のつくばへの来訪を心より歓迎致します。

近年、聴覚、視覚障害者の大学進学が益々増加し、数多くの大学等において教育環境や情報保障の改善、そして授業担当教員による教育方法の工夫がなされるようになってきました。しかし、新たに障害者を受け入れた大学のみならず、現場では様々な疑問や問題点、悩みを抱えているのが実情です。また、今年は大震災の発生により、被災時の大学における障害学生支援や情報保障等について、新たに解決すべき疑問や問題点が提起されています。

このような状況の中で今回のシンポジウムでは、これまでの現場での様々な疑問や問題点、悩みに対応したテーマに加え、震災関連のテーマを設定し、東日本大震災以降の大学支援の取り組みの報告と東北地区の大学の現状報告が用意されています。また、近年増加している学生参加者に向けて、参加型の分科会が企画されています。参加された皆様にとって有意義な1日となりますことを確信しています。

さて、本学も聴覚、視覚障害者のみを受け入れる我が国で唯一の高等教育機関、3年制短期大学としてスタートして以来24年が経過しました。これまでに、1418名の卒業生を社会に送り出すなど、社会参画・貢献できる人材の育成に多くの成果を上げています。6年前に4年制大学として再出発し、昨年4月には4年制大学としての第1期生の卒業に合わせ「大学院」がスタートしました。また、本年4月には学生からの要望の多い「教職課程」を開設しました。さらに、研修生、留学生、特に韓国からの「留学生」受け入れのための体制、制度の整備に取り組み、『多様な教育の需要』、言い換えれば『多様な教育の課題』に応えられる大学を目指しています。

ところで、本学の重要な機能の一つに他大学支援があり、開学以来、「障害者高等教育研究支援センター」が中心となって、本学の教育・研究活動の成果及び経験を広く提供するとともに、障害者の教育環境や情報保障の改善に関して支援を行ってきました。加うるに、昨年、教育関係共同利用拠点としての認定を受けた本学と他の高等教育機関との連携をさらに発展させ、障害学生に対する学修支援の一層の充実を図るとともに、将来的には、この支援センターが担う大学院の専攻を設置し、障害者の教育方法や情報保障方法・機器などについての専門家を育成したいと考えています。



本学が「日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）」の中で、独立行政法人日本学生支援機構と手を携え、障害学生の支援活動を行っていること、また、聴覚、視覚障害者のみを対象とする大学が86の国立大学法人の中で大学院のある大学、教職課程のある大学、留学生を受け入れる大学として位置づくことは、我が国のみならず、特にアジアの障害者の高等教育の在り方、障害のある人々のより良い社会自立の実現に大きな影響を与えています。

その中で、多数の参加者のもとで「第7回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム」が開催されますことは、大変意義深いことであり、開催に協力いただいた皆様にこの場をお借りして心からお礼申し上げます。

第7回シンポジウムの開催にあたって

独立行政法人日本学生支援機構 学生生活部長 平野 俊彦

第7回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムの開催を心よりお慶び申し上げます。はじめに、東日本大震災で被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。

さて、高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生への支援については、筑波技術大学を中心に、積極的に取り組まれている大学・機関が協力され、平成17年度から運営されている日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）の先駆的な活動によりまして、たいへん大きな成果を挙げられており、全国の障害のある学生への支援に取り組む日本学生支援機構（JASSO）といたしましても、厚く感謝を申し上げる次第であります。

また、このたびの東日本大震災において、PEPNet-Japan が聴覚障害学生支援に積極的に取り組まれている全国の大学・機関と連携され、被災により聴覚障害学生に対する情報保障体制を整えることが困難な大学に対して、「モバイル型遠隔情報保障システム」により、遠隔での情報保障支援をされていることは、今後の災害時における障害学生支援のあり方を考える上でも、たいへん先見的で有意義な取組みとして、高く評価できるものと考えております。

JASSOにおきましては、平成16年度からの約8年間にわたる障害学生支援の取り組みにおいて、全国的な障害学生支援ネットワーク事業等、筑波技術大学にもご協力いただき展開していく中で、さまざまな啓発事業や情報提供等を行なってまいりました。政府においては、障害者の権利に関する条約の批准に向けた施策の整備等が進められ、過日、障害者基本法が改正されたところであり、障害学生支援のための取り組みは、全ての国民が分け隔てなく共生する社会を実現していく上で、たいへん重要なものとなってきております。JASSOといたしましても、障害学生支援ネットワーク事業をさらに充実、展開し、障害学生支援を推進してまいりますので、皆様のご理解、ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

最後に、本日のシンポジウムが、ご出席の皆様お一人おひとりに実りの多いものとなり、ここでの成果を持ち帰られ、実践に活かされることを期待申し上げますとともに、PEPNet-Japan、また、筑波技術大学をはじめ関係の大学・機関、本日ご参集の皆様の、益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

❁ プログラム

《第1部》10:00~12:15 分科会

(中会議室 202、中会議室 201、大会議室 101、大会議室 102)

■分科会 1 基礎講座「4年間を通して学生を支えるために」

—筑波技術大学の実践から—

企画コーディネーター：石原保志氏

司会：及川力氏（筑波技術大学）

アドバイザー：渡部安雄氏（筑波技術大学）

細谷美代子氏（筑波技術大学）

石原保志氏（筑波技術大学）

松森果林氏（ユニバーサルデザインコンサルタント

筑波技術短期大学卒業生）

■分科会 2 「みんなで考えよう！聴覚障害学生の望む通訳とは？」

—よりよい手話通訳・パソコンノートテイクのために—

企画コーディネーター：吉川あゆみ氏

司会：吉川あゆみ氏（日本社会事業大学）

アドバイザー：中野聡子氏（広島大学）

窪田祥子氏（産経新聞社）

山本綾乃氏（群馬大学学生）

■分科会 3 「体験しよう！コーディネーターの業務—支援プラン作りに挑戦—」

企画コーディネーター：PEPNet-Japan 事務局

司会・アドバイザー：林智義氏（関西学院大学）

アドバイザー：磯垣節子氏（京都精華大学）

太田琢磨氏（愛媛大学）

田中啓行氏（早稲田大学）

■分科会 4 「支援の質を高める組織的实践—事例から学ぶ様々な取り組み—」

企画コーディネーター：岡田孝和氏

司会：岡田孝和氏（日本社会事業大学）

話題提供：真銅正宏氏（同志社大学）

青柳まゆみ氏（筑波大学）

徳田真二氏（関西学院大学）

《ランチセッション》 12:15~14:00 (2階大ホール前ホワイエ)

聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト2011 (担当者説明時間: 12:20~13:50)

聴覚・視覚障害学生支援に関する機器展示 (担当者説明時間: 12:20~13:50)

PEPNet-Japan 紹介展示

PEPNet-Japan 連携大学・機関活動紹介展示

筑波技術大学紹介展示

《第2部》 14:00~17:00 全体会 (大ホール)

14:00~14:10 開会式

14:10~14:40 特別講演「障害学生の支援について」

講師: 黒部敦之氏

(文部科学省高等教育局学生・留学生課厚生係・就職指導係 係長)

14:40~14:50 休憩

14:50~16:20 パネルディスカッション

「震災時に求められる聴覚障害学生支援のあり方とは？」

—東日本大震災後の現状と課題から—

企画コーディネーター: 松崎丈氏

司会: 浅井純二氏 (日本福祉大学)

講師: 藤井克美氏 (日本福祉大学)

松崎丈氏 (宮城教育大学)

白澤麻弓氏 (筑波技術大学)

16:20~16:30 休憩

16:30~16:50 聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト2011 表彰式

16:50~17:00 閉会式

❁ 会場案内

時間	内容	会場
10:00~12:15	分科会 ①「基礎講座 4年間を通して学生を支えるために -筑波技術大学の実践例から-」 ②「みんなで考えよう!聴覚障害学生の望む通訳とは? -よりよい手話通訳・パソコンノートテイクのために-」 ③「体験しよう!コーディネーターの業務 -支援プラン作りに挑戦-」 ④「支援の質を高める組織的実践-事例から学ぶ様々な取り組み-」	中会議室 202 中会議室 201 大会議室 101 大会議室 102
12:15~14:00	昼食 ※昼食には分科会の会場をご利用ください。またランチセッション会場にも多少のスペースを設けていますのでご利用いただけます。 ランチセッション 聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2011 聴覚・視覚障害学生支援に関する機器展示 PEPNet-Japan 連携大学機関 活動紹介 (パネル展示) 等	各分科会会場等 2階大ホール前 ホワイエ
14:00~17:00	全体会 開会式 特別講演「障害学生の支援について」 パネルディスカッション「震災時に求められる聴覚障害学生支援のあり方とは? -東日本大震災後の現状と課題から-」 聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2011 結果発表 閉会式	大ホール

<緊急時の対応について>

○地震

- ・揺れている間は、椅子の間、机の下に身を屈めるなどして頭部を守ってください。
- ・ガラス壁から離れてください。
- ・階段を使って避難してください。

○火災

・サイレンと館内放送が流れ、防火扉が閉まり、スプリンクラーから散水されます。防火扉は手で押すと開きます。

※音声の情報はスタッフが手話や文字でお伝えします

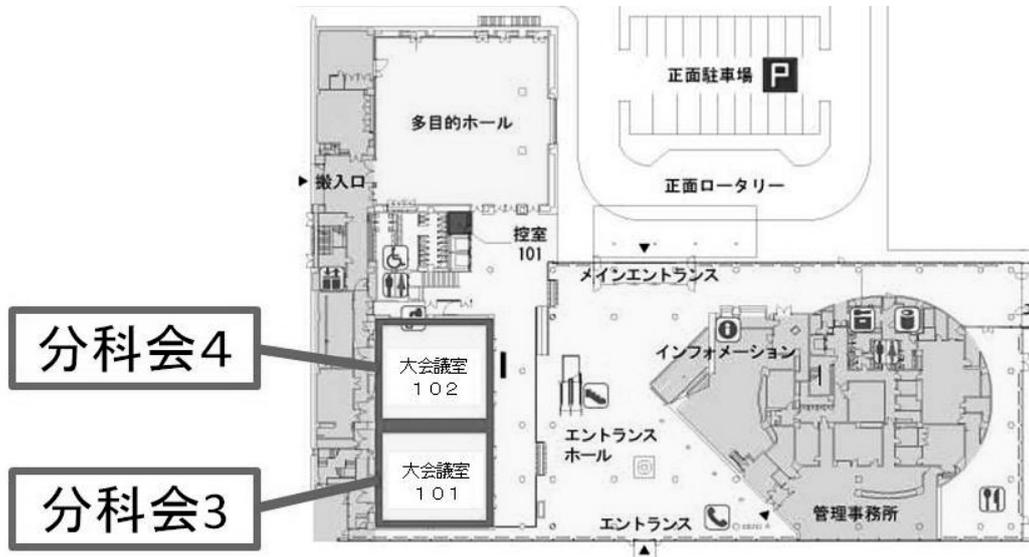
- ・階段を使って避難してください。
- ・会議場職員又は主催者の誘導に従ってください。

○けがや病気

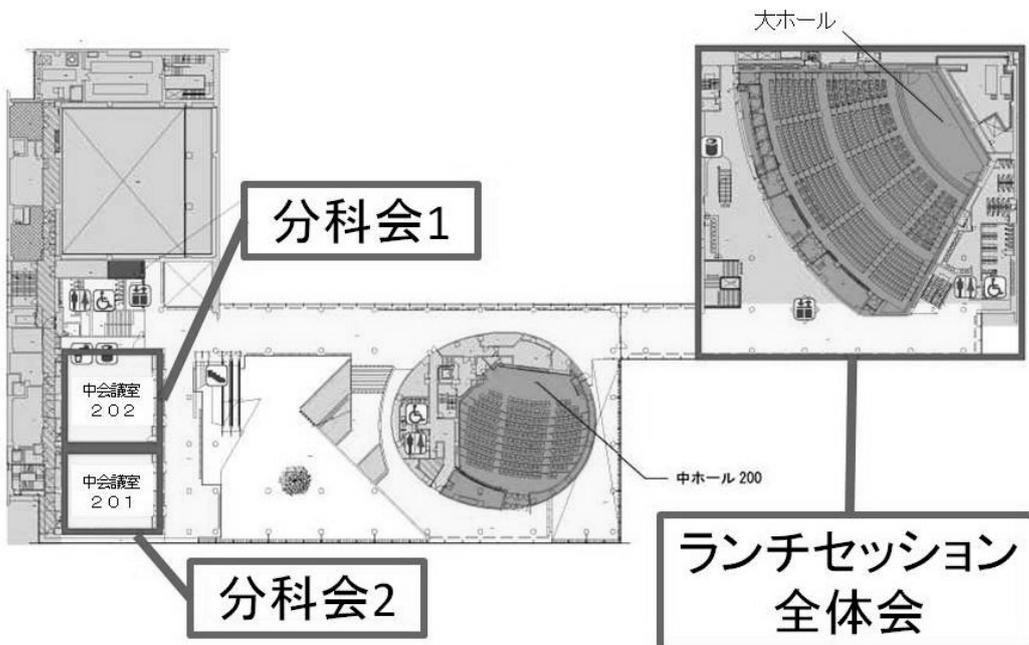
- ・けがをしたり、体調が悪い時にはお近くのスタッフにお声がけください。
- ・AEDは1、3階に設置されています。

(つくば国際会議場「緊急時の案内」より抜粋、一部加筆)

【1階】



【2階】



A decorative floral frame with intricate scrollwork and leaf-like patterns, surrounding the central text.

分科会

【分科会 1】

基礎講座 「4年間を通して学生を支えるために —筑波技術大学の実践例から—」

企画コーディネーター：石原保志氏

司 会：及川 力氏(筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター教授)

話題提供：渡部安雄氏(筑波技術大学 産業技術学部長)

細谷美代子氏(筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター教授)

石原保志氏(筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター長)

松森果林氏(ユニバーサルデザインコンサルタント)

筑波技術短期大学卒業生)

企画趣旨

本分科会では、初めて聴覚障害学生を受け入れる大学の教職員や、保護者、学生などを対象とした基礎講座として、聴覚障害学生支援のあり方、支援を活用した教育のあり方の基本的な内容を検討する。

聴覚障害学生支援の必要性や、その手法について議論される機会は増えてきているが、「支援技術」への注目の高まりと同時に、支援を活用して学ぶ聴覚障害学生の学生生活全体を通じたサポート体制や、キャリア支援の必要性についても考えられるようになってきた。

そこで、本分科会では聴覚障害学生の教育・支援を一体的に行っている筑波技術大学の実践事例から、一般の大学等でも活用できる取り組みを探る。筑波技術大学が開学当時から蓄積している、障害に配慮したカリキュラムと指導法、新入生への対応方法、非常勤講師の授業における情報保障、キャリア発達や就職に関する支援などの事例を通し、聴覚障害学生に対する教育的な関わり方やその考え方を紹介する。

「新入生への支援」

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 細谷美代子氏

第7回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム 分科会1
 4年間を通して学生を支えるために
 — 筑波技術大学の実践から —

2011.11.6 於 つくば国際会議場

細谷 美代子 miyoko@atsukuba-tech.ac.jp
 筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 障害者基礎教育研究部

新入生への支援

1. オリエンテーションで 入学式前後の支援	単発
2. フレッシュマンセミナーで 1年1学期の支援	3カ月
3. いつでもどこでも 4年間の基礎を造る支援	通年

新入生への支援 1. オリエンテーションで

二つのオリエンテーション

入学式前日の寄宿舎オリエンテーション
 新しい生活空間・環境への導き

入学式当日午後のオリエンテーション
 「大学」という組織・システムへの導き

新入生への支援 2. フレッシュマンセミナーで

テーマ例

- ・大学で学ぶ意義
- ・相互理解と集団の形成
- ・心身の健康管理
- ・安全な生活の進め方
- ・効果的な学習方法
- ・進路選択

大学生になる

新入生への支援 2. フレッシュマンセミナーで

テーマ例

- ・大学で学ぶ意義
- ・相互理解と集団の形成
- ・心身の健康管理
- ・安全な生活の進め方
- ・効果的な学習方法
- ・進路選択

4月集中
入学式後
の2日間

新入生への支援 2. フレッシュマンセミナーで

テーマ例

- ・大学で学ぶ意義
- ・相互理解と集団の形成
- ・心身の健康管理
- ・安全な生活の進め方
- ・効果的な学習方法
- ・進路選択

分からない時は
分からない
と言おう！

コミュニケーション

新入生への支援 2.フレッシュマンセミナーで

テーマ例

- ・大学で学ぶ意義
- ・相互理解と集団の形成
- ・心身の健康管理
- ・安全な生活の進め方
- ・効果的な学習方法
- ・進路選択

学習技法考察
長所短所点検
チェックシート
学習方法改善

新入生への支援 2.フレッシュマンセミナーで

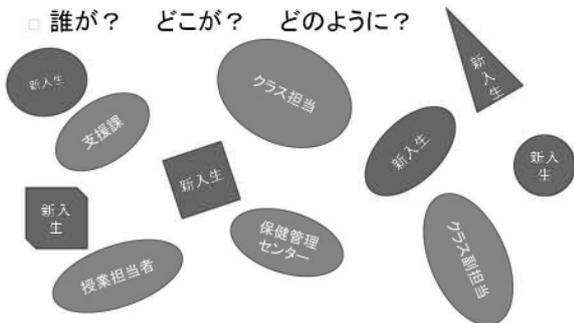
テーマ例

- ・大学で学ぶ意義
- ・相互理解と集団の形成
- ・心身の健康管理
- ・安全な生活の進め方
- ・効果的な学習方法
- ・進路選択

上級生との交流
「4年間」の生活設計
「卒業後」への関心

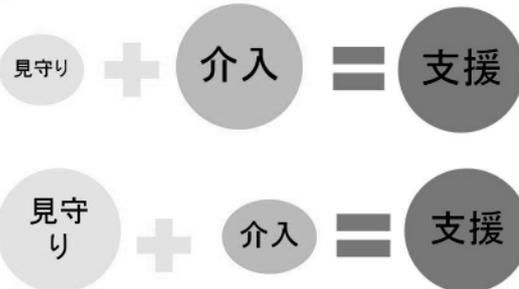
新入生への支援 3. いつでもどこでも

□ 誰が? どこが? どのように?

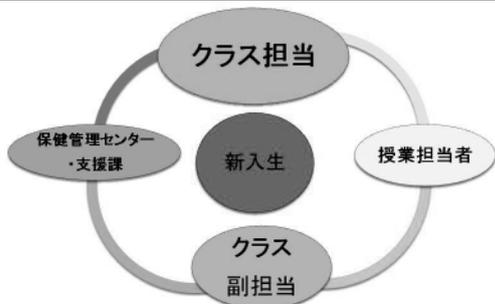


新入生への支援 3. いつでもどこでも

□ バランスの見きわめ



新入生への支援 3. いつでもどこでも



障害者高等教育研究支援センターで行っている支援

- ・学修支援
 - カリキュラム→障害関係教育科目の開設
 - 情報保障→リアルタイム字幕提示、PC要約筆記
 - 個別学習支援
 - ビデオ教材への字幕挿入
- ・コミュニケーション支援
 - 個別コミュニケーション指導／手話指導／聴覚管理と補聴相談
- ・キャンパス生活支援
 - CATVシステムによる学内連絡広報／文字による警報システム
- ・キャリア支援
 - 就職に関する支援、指導

コミュニケーション支援科目

手話コミュニケーション技術

□ 指文字や手話を用いた視覚的な情報授受の方法について、基礎となる言語コミュニケーションの理論を理解した上で、実際の伝達能力の向上と習熟を図る。

出典『開設授業科目一覧』

情報保障技術とコミュニケーション

□ 次の領域について実習を主体とした活動を行い理解を深める。聴覚活用に関する領域、発音発語に関する領域、手話コミュニケーションに関する領域、情報保障機器システムに関する領域。

出典『開設授業科目一覧』

学修支援体制

情報保障支援

◆ 外部講師担当科目における情報保障

リアルタイム字幕提示
PC要約筆記
手話通訳

個に応じた支援

◆ チューターによる補習

英語・理数科目など

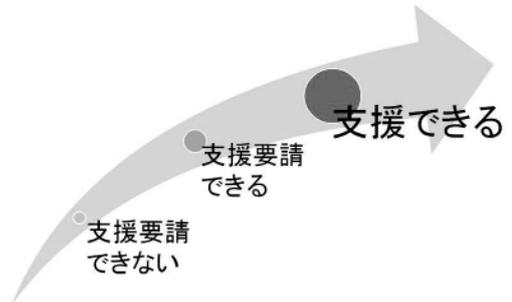
空気のような支援を目指して 新入生に与える三つの課題

自己に向き合う — 自分とは何者か

他者に向き合う — コミュニケーション

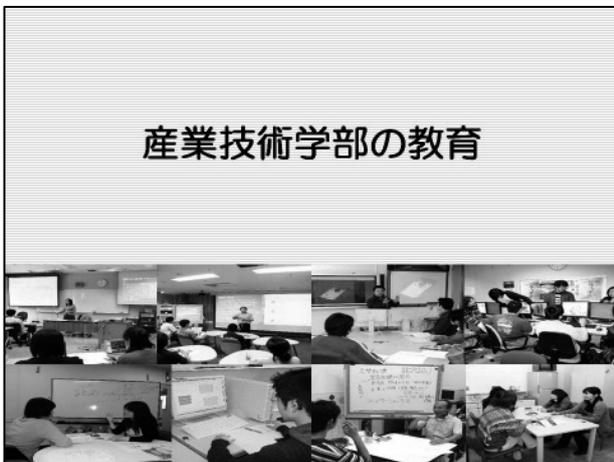
未来に目を向ける
— 今、何をなすべきか

筑波技術大学はどういう学生を育てるのか



「筑波技術大学産業技術学部の教育」

筑波技術大学 産業技術学部長 渡部安雄氏



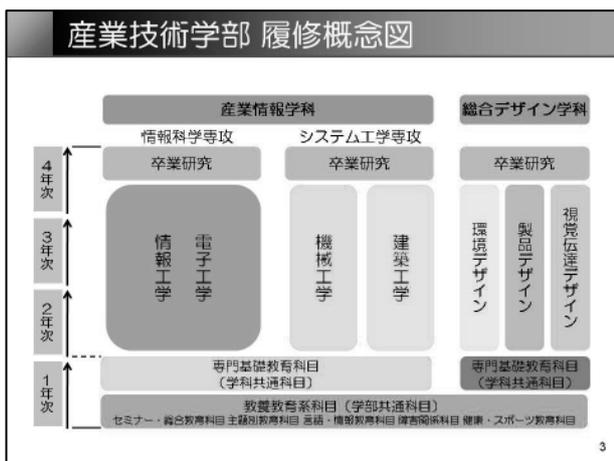
産業技術学部の教育

産業技術学部

聴覚障害者が社会で活躍できる
「技術」を身に付けます

- > 産業情報学科（入学定員35人）
 - ・ 情報科学専攻（情報・電子：募集人員20人）
 - ・ システム工学専攻（機械、建築：募集人員15人）
- > 総合デザイン学科（入学定員15人）
 - ・ デザイン（環境、製品、視覚伝達）

2



3

本学の先生の授業の様子

視覚的に理解できる方法で行われます。

- プリント配布資料
- パソコン文字・画像
- 板書
- 手話、指文字など



4



産業情報学科

産業情報学科は

- > ものづくりの専門知識と情報技術を備えた技術者を養成する学科です。
- > 技術で社会に貢献をできる人材を育成します。
- > 頭を使って、何をつくるか、どうすれば作れるかを考えます。



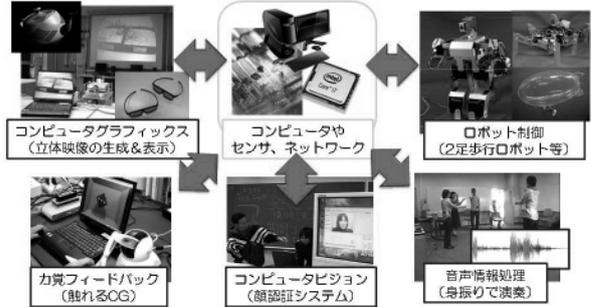
6

産業情報学科（入学定員35名）

- > 情報科学専攻（入学定員20名）
 - ・適性や志望に合わせて選択科目を履修していくことで専門の内容を決めます（情報工学・電子工学）
- > システム工学専攻（入学定員15名）
 - ・2年次進級の際に希望や適性で専門領域の配属を決めます
 - ・機械工学領域
 - ・建築工学領域

7

情報科学専攻の教育

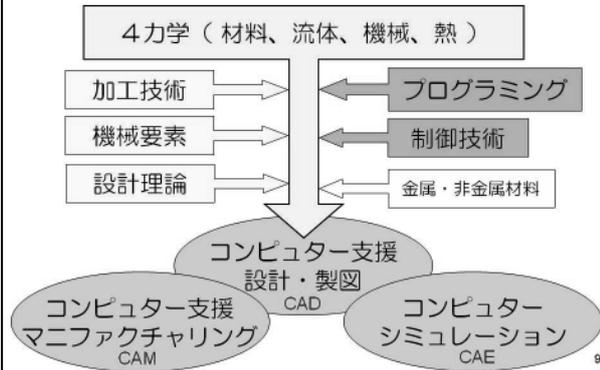


コンピュータのハードウェアからソフトウェアまで幅広く学びます！

8

システム工学専攻（機械工学）の教育

教育内容



9

システム工学専攻・建築工学領域の教育

建築は、人間の生活と社会活動の場であり、我々が生存するためになくてはならない存在です。快適性・安全性・利便性・環境調和性・芸術性などが要求されます。したがって、優れた建築物を創出するために「建築計画」「建築構造工学」「環境工学」の知識をマスターしなければなりません。



10

総合デザイン学科



総合デザイン学科では

> 人間の生活を人間・社会・自然の関係から考え3つのデザイン専門領域を設けています



12

総合デザイン学科

- > 入学定員15名
- > 2年進級時に3つの領域の1つを選択・配属
4年まで専門領域の学習に進みます
- > 領域選定の方法
各自の希望をもとに、適正・能力・成績などを
学科の教員会議において総合的に検討し配属します。

13

環境デザイン領域の対象



製品デザイン領域の対象



15

視覚伝達デザイン領域の対象



16

学部教育

- > 産業情報学科 ⇒ 工学
- > 総合デザイン学科 ⇒ デザイン学
- > カリキュラム上の配慮
 - ・ 基礎学力の向上と定着（1年次）
数学、物理、専門基礎科目
 - ・ 専門科目をくさび形に配置
2・3年 基礎基盤領域科目
3・4年 中核領域科目
 - ・ 講義と演習、実験の組み合わせ
体験的に理解
- > 少人数教育
個別指導 ⇒ 補習、オフィスアワー

17

学部教育

- > 授業内容の理解
理解させる特別な方法はない
 - ・ 基礎学力（数学・物理等）
 - ・ 自学自習
 - +
 - 情報保障
- 授業内容の吟味（教員側）

18

学部教育

> クラス担当教員（2年次以上の学生）

- ・ 10の専門コースに各1名
15～20名の学生を担当
- ・ 生活面、学習面等の相談、助言
- ・ 親との連絡、相談窓口

学科、コース会議を定期的実施

学生の状況等の情報交換

⇒ 情報共有

19

「聴覚障害学生を対象としたキャリア教育と就職支援」

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 石原保志氏

聴覚障害学生を対象とした キャリア教育と就職支援

筑波技術大学
障害者高等教育研究支援センター
石原保志

1

キャリア教育

2

》 筑波技術大学の聴覚障害学生

- 全国各地から入学
- 入学生の聾学校、一般校の比率は半々(後期中等教育)。Uターン、Iターン歴を持つ入学生が増加。
- 入学時のコミュニケーション特性は多様(手話、聴覚活用、口話のスキル及び人間関係構築力)
- キャリア発達の基盤となる経験や心理的発達の状況は多様。

受動的な意識のまま社会に出て、周囲に働きかけることができず、ストレスから精神的な病に陥る者が増えている。

3

》 心理的発達と就労レディネスへの発展

意志決定の基盤となる知識・情報

1. 多様な場面の直接的体験・間接的体験
2. 目標の設定
3. 意思決定
4. 成功体験、失敗体験、克服体験
5. 自信から生じる自己肯定感
6. 自己の将来像、モチベーション
7. 精神的自立

• 依存的心理状態からの脱却
• 自己および社会の客観的認識
• 障害認識とエンパワメント
• セルフアドボカシー

就労レディネス

4

》 間接的体験(例:家庭)

- 子どもは家族どうし、あるいは家族と他者との会話を聞いて、色々な情報を得ています。
- このことが、自分が行動したり判断する際の基準になっています。

間接的体験

5

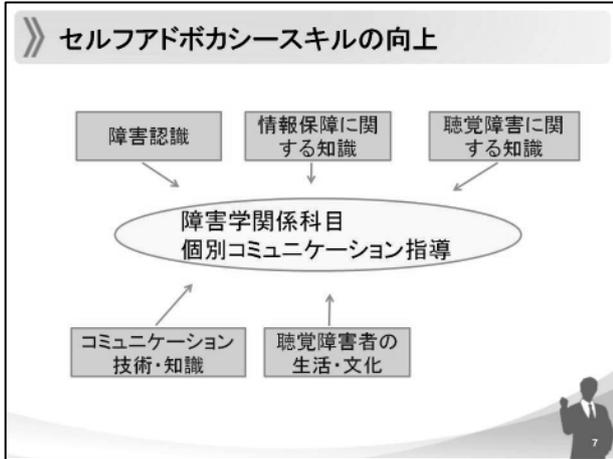
》 体験の補完

1. 間接的体験
 - 個人的体験の共有
 - 社会人聴覚障害者の講話
 - 卒業生の体験(卒業生調査)

キャリア教育関係科目
就職ガイダンス・セミナー
2. 直接的体験
 - 職場体験
 - 社会体験

インターンシップ関係科目
国際交流・サークル活動等

6



》 キャリア教育関連科目

キャリア教育科目
「キャリア発達論」「聴覚障害と就労」「企業と社会」「インターンシップ」等

障害学関係科目
「情報保障とコミュニケーション」「デフコミュニティと社会参加」「ろう文化研究」「聴覚科学」「手話学」等

就職支援

》 障害者雇用率制度

法定雇用障害者数
(常用雇用労働者数 - 除外率相当数) × 障害者雇用率

- 民間企業
 - 一般の民間企業 1.8%
 - 特殊法人等 2.1%
- 国・地方
 - 2.1% (一定の教育委員会 2.0%)

》 本学における就職活動の流れ

- 学校推薦
(職場実習) → 教員の推薦
→ (職場実習) → 入社試験 → 内定
- 自由応募 & 学校紹介
集団面接会, 会社説明会 → 応募
→ 入社試験 → 内定
教員の推薦・紹介 ↑

》 学校推薦枠の確保(企業等との連携)

- 企業向け大学説明会(毎年度)の実施と人事担当者に対する障害啓発

↓

- 本学を会場とした会社説明会、面接会の実施

聴覚障害学生雇用に関するパンフレット、冊子の配布

自由応募(障害者対象集団面接会の案内)

- ・ハローワーク主催
全国各地のハローワーク主催障害者対象合同面接会、会社説明会
- ・民間主催(一部)
サーナ就職フェスタ
クローバー就職フォーラム
ゼネラルパートナーズ主催
その他

13

就職支援体制

- ・就職委員会
各学科、コースの教員及び支援センター教員で構成。企業向け大学説明会等の実施、学生の就活情報の交換等。
- ・学部教員による就職指導、支援
学校推薦のための企業等との連携。学生に対する就活指導。
- ・支援センター教員による就職指導、支援
面接指導、ガイダンス、履歴書の添削等。
- ・就職支援員
大学教員OBによる就活指導、ガイダンス。

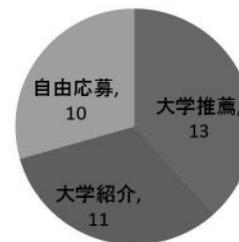
14

卒業生の就職先(平成22年度卒業生)

- ・産業情報学科情報系
トランスコスモス(株)(2名)／東芝ソリューションズ(株)／(株)東芝／鉄道情報システム(株)／JRシステム／(株)NTTデータMSE／イーデザイン損害保険(株)／(株)富士通ビー・エス・シー／パナソニックITS(株)／(株)日立情報制御ソリューションズ／楽天ソシオビジネス(株)／オムロン(株)
- ・産業情報学科システム系
昭和電工(株)／三菱ふそうトラック・バス(株)／東京セキスイハイム(株)／オムロン(株)／日本軽金属(株)／大成建設(株)／新日本空調(株)／楽天ソシオビジネス／三井物産ビジネスパートナーズ(株)／前田建設工業(株)
- ・総合デザイン学科デザイン系
(株)HIS／キヤノンソフトウェア(株)／(株)岡村製作所(2名)／(株)日本経済新聞社／ソフトバンクモバイル(株)／リコーITソリューションズ(株)／(株)廣済堂長田広告／パナソニック電工／南都銀行本店

15

就職に至る経緯



16

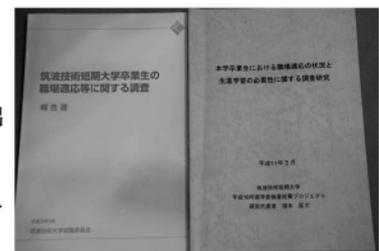
卒業生支援



17

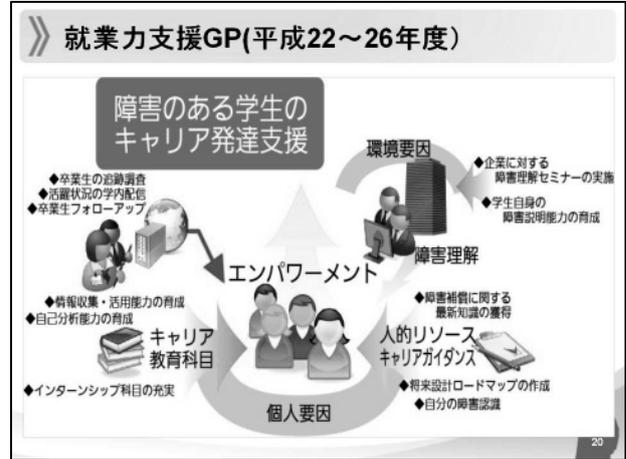
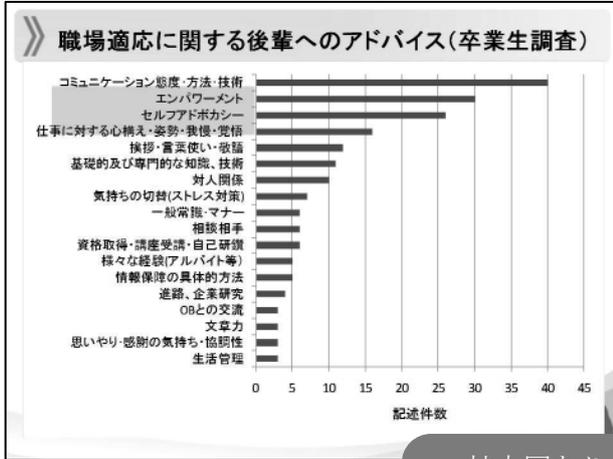
卒業生に対する支援

- ・個別相談対応(本人または就労先企業等)
- ・卒業生対象の出前講座(平成15年～毎年度)
- ・職場適応に関する調査(対面調査及び質問紙調査)

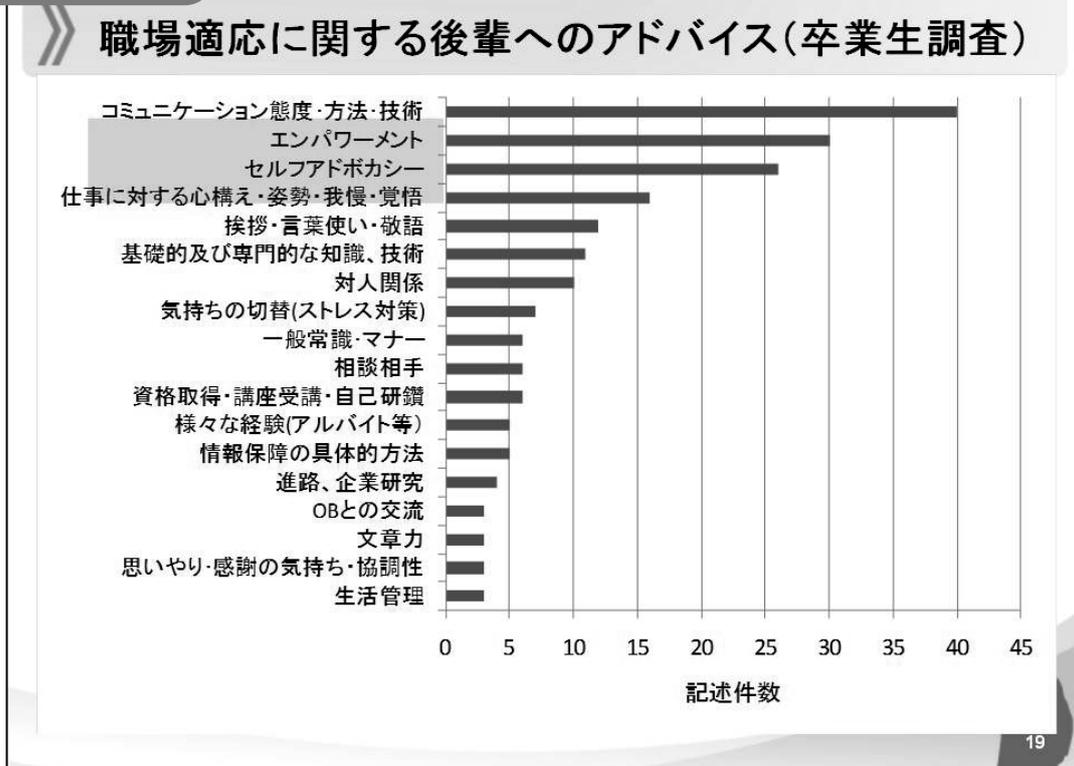


職場適応等に関する卒業生調査(平成10年度・20年度)

18



スライド 19 拡大図



「筑波技術短期大学で学んだこと一聞こえないことを強みにするチカラ」
ユニバーサルデザインコンサルタント／筑波技術短期大学卒業生 松森果林氏

2011年11月06日

筑波技術短期大学で学んだこと

一聞こえないことを強みにするチカラ

松森果林

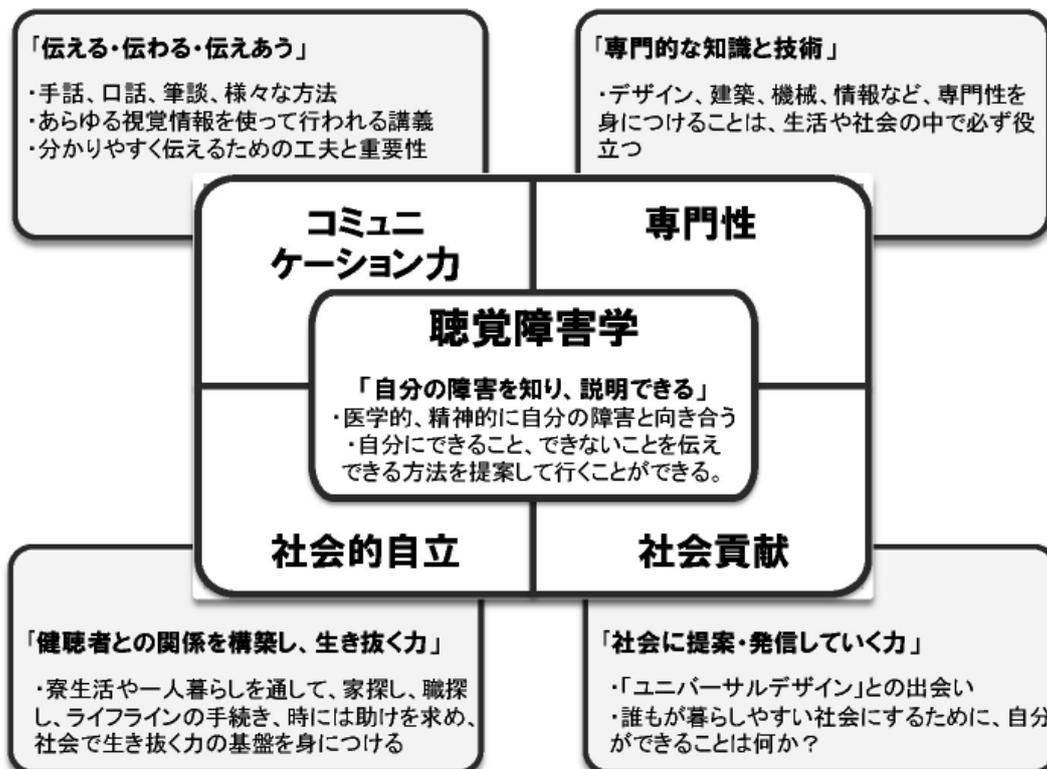
「私の強みは聞こえないこと」

いまや私のセールスポイントともなっているこの強みは、筑波技術短期大学(以下技短)で培ったものです。聴覚障害学をはじめ、コミュニケーション方法、社会にはさまざまな多様性があること、聞こえないからこそできることがあるということ。全て三年間で学び、今の自分に繋がっていることです。

小学校から高校時代まで、少しずつ聴力を失った私にとって、技短は人生を再構築する原点となりました。人生の途中で障害を負うというのは、身体の機能の一部を失うというだけでなく、それまで築き上げてきた関係性、信頼感、価値観をも失うということです。そこからは計り知れない絶望感を生み出します。それでもなお生きなければならないという現実、どう向き合っていくのか。

それらを学び、体験する環境がすべて技短には整っていました。

自分の聴覚障害を受容するきっかけ、それはまさに自分の障害を知ること、自分以外の聴覚障害者の存在を知ることだったのです。



決して優等生だったわけではなく、大学生らしく遊び明かして講義に出席したり、年に四回の海外旅行、一人暮らしから段ボール生活まで、やればできる！ということを体感し、たくましくなりました。

「ユニバーサルデザイン」との出会い**きっかけは情報伝達方法論で行なった「東京ディズニーランドを10倍楽しむための提案」調査****●不満を訴えるのではなく、どうした良いか提案すれば、必ず社会は変わる**

聞こえないと楽しめないことは何かを調査し、楽しめるようになるための工夫をクラスメイトと提案。

これがもとになって「手話のできるキャスト」「アトラクションの字幕表示システム」「手話パフォーマンス」など実現したものが多くある

聞こえない立場からの提案**香りで情報を伝える商品開発 - (株)シームス 商品企画顧問としての取り組み -****●わさびの臭いで火災を知らせる臭気警報装置 → 2011年 イグ・ノーベル賞受賞**

携帯電話の着信を香りで知らせるストラップの提案→三年間で五億円弱の売上に

火災を臭いでも知らせる警報装置の提案、2003年より研究着手、臨床試験、2009年商品化、そして今年、イグ・ノーベル賞を受賞！

聞こえない立場からの講演活動、執筆活動**「聞こえない世界」をもっと知ってもらいたい！****●聞こえる世界と聞こえない世界を疑似体験するHP「音カタログ」**

社会活動のひとつとして、「共用品ネット」で、「音カタログ」というHPを制作し、普及啓発につとめている。

◆音カタログ <http://kyoyohin-net.com/oto/index.html>**ユニバーサルデザインコンサルタントとして****羽田空港新国際ターミナルユニバーサルデザイン検討委員****●誰もが使いやすい空港にするために**

車いす利用者、視覚障害者、聴覚障害者、妊婦さん、知的障害、内部障害者、外国人、専門家や設計者、メーカーなど、様々な人と一緒に参加して使いやすい空港について議論。運用開始後も、事後検証委員として関わる。

まとめ**「聞こえないこと」を強みとしつつ、聴覚障害を超えて…****●一誰もが楽しく自分らしく暮らせる社会づくりを**

技短では「聴覚部」と「視覚部」があり、交流する機会もあり、これが視覚障害者とのコミュニケーションを考えるきっかけともなった。仕事で、多様な人と関わる機会が多くあるがこうしたチャンスを活かし、今後は聴覚障害という枠を超えて活動していきたいと思う。

松森果林 <エッセイスト、ユニバーサルデザイン(UD)コンサルタント>

小学四年から高校時代にかけて聴力を失う。

大学卒業後、株式会社オリエンタルランド勤務を経て、現在は大学講師、株式会社シームス商品企画顧問 香りマーケティング協会 顧問。

聞こえる世界、聞こえない世界両方を知る立場から、UD普及活動、執筆、講演等を行う。

羽田空港新国際線ターミナルのUD設計についても、アドバイザーとして参加し、現在は東京国際空港国際線旅客ターミナルビルユニバーサルデザイン検討委員として、事後評価にも関わる。

著書に『星の音が聞こえますか』(筑摩書房)

『音を見たことがありますか？』(小学館)

『ゆうことカリンのバリアフリーコミュニケーション』(小学館)

『誰でも手話リンガル』(明治書院)

【分科会2】

「みんなで考えよう！聴覚障害学生の望む通訳とは？ —よりよい手話通訳・パソコンノートテイクのために—」

企画コーディネーター：吉川あゆみ氏

司 会：吉川あゆみ氏(日本社会事業大学)

アドバイザー：中野聡子氏(広島大学 アクセシビリティセンター)

窪田祥子氏(産経新聞社 編集局整理部)

山本綾乃氏(群馬大学 教育学部教育人間科学系)

障害児教育専攻 2年)

- 分科会の柱**
- ①聴覚障害学生は情報保障に対してどのようなニーズを持っているのか
 - ②学術的内容の高度専門化によって情報保障に対するニーズは変化するのか
 - ③聴覚障害学生のニーズに対応するために、支援学生・通訳者・障害学生支援コーディネーターにはどのような対応が求められるのか

企画趣旨

高等教育機関における聴覚障害学生に対する情報保障の取り組みは広がりを見せており、比較的導入しやすいノートテイクだけでなく、パソコンノートテイク、手話通訳の利用も拡大傾向にある。しかしながら、聴覚障害学生の情報保障に対するニーズや、高等教育において必要な通訳技術の妥当性は、十分に検討されていない現状がある。

PEPNet-Japan 情報保障評価事業では、これまでに情報保障の評価に関する研究を行ってきた。その中で、特に手話通訳に関する研究では、学部生・大学院生(修士課程)・大学院生(博士課程)の聴覚障害学生がそれぞれ異なるニーズを持ち、学術的内容の高度専門化に伴ってニーズも段階的に変化していくことが明らかになっている。

そこで本分科会では、様々なタイプのモデルパソコンノートテイク、モデル手話通訳を視聴し、これらをもとに参加者、及び、学部生、修士課程修了者、博士課程修了者のアドバイザーで、情報保障のニーズに関する議論を行う。これにより、聴覚障害学生が望む通訳像を明らかにし、支援学生・通訳者・障害学生支援コーディネーターにはどのような対応が求められるのかを検討する。

参考文献

石野麻衣子・吉川あゆみ・松崎 丈・白澤麻弓・中島亜紀子・蓮池通子・中野聡子・岡田孝和・太田晴康(2011)学術的内容の高度専門化に伴う聴覚障害者の手話通訳に対するニーズの変化. 日本特殊教育学会第49回大会発表論文集, 363.

吉川あゆみ・石野麻衣子・松崎 丈・白澤麻弓・中野聡子・岡田孝和・太田晴康(2011)高等教育における手話通訳の活用に関する研究—学術的内容の高度化に対応するための手話通訳の技術的ニーズに着目して—. 日本社会福祉学会 第59回秋季大会 発表要旨集.

スケジュール

趣旨説明 (5分)



アドバイザー自己紹介 (15分)



パソコンノートテイクを考える (45分)

モデルパソコンノートテイクA・B・C視聴 (10分)

チェックシート記入 (5分)

意見の共有 (5分)

アドバイザーディスカッション (15分)

参加者からアドバイザーへの質疑、応答 (5分)

パソコンノートテイクまとめ (5分)



手話通訳を考える (45分)

モデル手話通訳D・E・F視聴 (10分)

チェックシート記入 (5分)

意見の共有 (5分)

アドバイザーディスカッション (15分)

参加者からアドバイザーへの質疑、応答 (5分)

手話通訳まとめ (5分)



総括ディスカッション (10分)



質疑応答[全体に対して] (10分)



まとめ (5分)

アドバイザー プロフィール

中野聡子氏(広島大学 アクセシビリティセンター)

【学歴】

博士課程修了

【手話を覚え始めた時期】

大学1年

【初めて情報保障を利用した時期】

パソコン通訳 大学3年くらい?(学外の研究会等で)

手話通訳 大学1年

【在学時、及び、現在の様子】

在学時 チューター制度を利用。手話サークルの学生、同級生らによる手話通訳+ノートテイク。すべての授業、ゼミで情報保障を受けていた。

現在の仕事内容 教育、研究。授業は外部の手話通訳者を雇用し、読みとり通訳で。会議等は内部及び外部の手話通訳者を利用。センター内ミーティングはチャットシステム利用で全員文字入力。センター内各所に約 20 台筆談器が設置されており、スタッフ及び学生とのやりとりは筆談が多い。週1回手話勉強会を開催しており、スタッフ及び学生も手話の会話が少しずつ増えてきている。ゼミでは、学生の手書き要約筆記、PC 要約筆記、音声認識字幕通訳を利用することも。発表者は発表内容の読み上げ原稿を用意する。

【情報保障に求めること】

正確さ、情報量、リアルタイム性。話者の意図やニュアンスを伝えられる通訳。話しことばから書きことば、もしくは手話に変換するにあたって、言語特性の違いを意識した通訳(主語のつけたし、語順など)。

窪田祥子氏(産経新聞社 編集局 整理部)

【学歴】

修士課程修了

【手話を覚え始めた時期】

大学1年

【初めて情報保障を利用した時期】

パソコン通訳 大学1年

(初めて受けたのは高校1年の終わりごろ筑波大学の高校生体験講座で)

手話通訳 大学3年

【在学時、及び、現在の様子】

在学時 入学したばかりのときは FM マイクを使用してパソコン通訳とノートテイク(手書き)を時々見るというスタイルを取っていた。聴力低下や高校までとは違う大学の講義の難しさ(講義時間の長さ、授業スタイル、テストなど)を実感したことで、1年生の後半からはパソコン、ノートテイクを中心に講義を受けることもあった。手話通訳は手話を読み取れるようになってきた3年生のときから、発表会や演習などの場で利用するようになった。

現在の仕事内容 現在の仕事内容は、2つの仕事を兼務している。1つは取材記者の記事を写真やグラフ、地図などと合わせてレイアウトを考え見出しをつける仕事、もう1つが、デザインという言葉の通り、新聞に載せる地図やグラフなどを作成する仕事である。入社したばかりなので先輩や上司からいろいろ教えていただいている段階にある。部に1人で配属されたのでマンツーマンで指導が受けており、音声でまず説明を受け、実際に作業または復唱して伝わっていない場合、書いていただくこともある。社内の情報保障としては、研修などに手話通訳派遣をお願いしている。今の課題としては、部の会議の情報保障である。重要性がまだ分からず、とりあえず近くにいる知り合いに情報を書いている状態にある。早めに上司や先輩に相談しようと思いつつも、現状で満足してしまっている部分がある。

【情報保障に求めること】

通訳者に求めること その時の通訳者の雰囲気も私にとっては情報になる(不安そうな顔、止まってしまう手など)。通訳者にはもっと自信を持って！と応援したい。

聴覚障害学生に求めること 入社して再確認したのだが、自分にとって最適な情報保障は場面、状況に応じて変わってくる(研修中に手話通訳だけでなく、通訳がつかない場面で同期が時間交代で書いてくれた)。最適な情報保障を自分で知っているかどうか、必要性をアピールできるかどうかは学生時代の経験の有無で違ってくると思っている。通訳を受ける聴覚障害学生には学内だけでなく、もっと幅広く情報保障を経験してもらいたいと考えている。

山本綾乃氏(群馬大学 教育学部 教育人間科学系 障害児教育専攻 2年)

【学歴】

学部在籍(2年生)

【手話を覚え始めた時期】

中学部1年(それまでは指文字のみ)

【初めて情報保障を利用した時期】

パソコン通訳 大学1年

手話通訳 大学1年

【現在の様子】

主にパソコンテイクが中心。

体育や音楽などの実技系、ガイダンスは手話通訳を利用している。

【情報保障に求めること】

- ・その内容に対して、専門的な知識を持っている方が情報保障して下さると心強い。
(例えば、英語の授業には英語専攻の学生、障害児教育の授業は、障害児教育の内容を理解している先輩方など。専門的な教育の授業には、できるだけ教育学部の学生にして欲しいと思っている。一般教養は、他学部の学生でも構わない。)
- ・情報保障者(特に手話通訳者)との距離感が難しい。情報保障者がいると、友達も任せきりになってしまい、話しにくい環境が生まれてしまう。パソコンテイクが中心になるのもそれが大きな理由であると思う。今後どのように解決していくかが自分の課題である。

モデル通訳 原文(パソコンノートテイク)

講義名: 哲学

テーマ: 福祉国家の優生学

えー、ナチズムですね。ナチス・ヒトラーですね。皆さん方も、えー、ヒトラーのですね、映画だとかいろいろ観ると思います。それからシンドラーのリストだとかっていうですね、映画なんかを観ると思うんですが、えー、私たちがですね、陥りやすいのはですね、こういう考え方なんです。優生思想っていうのは、私たちの考え方とは関係なくて、ナチス・ヒトラーがやったことではないかっていうふうに、よく考えられてしまいます。ナチス・ヒトラーはですね、やったこと、ま、これからお話をしますけれども、えー、いろんなことをやるんですけども、その中で、その一、ナチス＝優生思想、っていうふうにですね、我々は短絡的に考えてしまって、自分とは無縁だというふうに考えている。しかし、よく考えてみるとですね、ある意味では、このナチズムっていうのは、この近代的な思想の中で、起こるべくして起こったというふうに考えてもいいものですね。つまり、近代的な、この、人間観の中に、いわばナチスをこう、まあ、引き起こしてくるような、そういうその考え方が実は、えー、ある、ということですね。

モデル通訳 原文(手話通訳)

講義名: 哲学

テーマ: 福祉国家の優生学

福祉国家の前提になっているのは生の偶然性ですね。つまり、私たちが生きている人生ではどういことが起きるかわからない。順風に依っている人でも、えー、交通事故にあつて障害を被るかもしれない。あるいは何らかの形で、例えばですね、専業主婦で万歳だーなんて思っていたら、離婚されて、シングルマザーで生きていかざるをえない。という風になる場合だって起こる。あるいは男性だって失業が起こる、という、そういうその生の偶然性ですね。で、これが、あるから、生の保障をしよう、っていうことですね。

チェックシート(パソコンノートテイク)

1. パソコンノートテイクを見て気付いたことを書いてください。

パソコンノートテイク A

パソコンノートテイク B

パソコンノートテイク C

2. アドバイザーはどの通訳での受講を希望すると思えますか？

当てはまるものに○をつけてください。

中野聡子氏	<u>パソコンノートテイク</u>	A	・	B	・	C
窪田祥子氏	<u>パソコンノートテイク</u>	A	・	B	・	C
山本綾乃氏	<u>パソコンノートテイク</u>	A	・	B	・	C

チェックシート(手話通訳)

1. 手話通訳を見て気付いたことを書いてください。

手話通訳 D

[]

手話通訳 E

[]

手話通訳 F

[]

2. アドバイザーはどの通訳での受講を希望すると思えますか？
当てはまるものに○をつけてください。

中野聡子氏	<u>手話通訳</u>	<u>D</u>	<u>・</u>	<u>E</u>	<u>・</u>	<u>F</u>
窪田祥子氏	<u>手話通訳</u>	<u>D</u>	<u>・</u>	<u>E</u>	<u>・</u>	<u>F</u>
山本綾乃氏	<u>手話通訳</u>	<u>D</u>	<u>・</u>	<u>E</u>	<u>・</u>	<u>F</u>

【分科会3】

「体験しよう！コーディネーターの業務 — 支援プラン作りに挑戦 —」

企画コーディネーター： PEPNet-Japan 事務局

司会・アドバイザー： 林 智義氏(関西学院大学 総合支援センター)

アドバイザー： 磯垣節子氏(京都精華大学 学生課障がい学生支援室)

田中啓行氏(早稲田大学 障がい学生支援室)

太田琢磨氏(愛媛大学 教育学生支援部学生支援課

バリアフリー推進室)

- 分科会の柱**
- ①「障害学生支援コーディネーター」とはどのような仕事か、どのような仕事を担っているかについて理解を深める
 - ②聴覚障害学生を受け入れ、支援を行っていく際の注意点や工夫にはどのようなものがあるのか体験を通して学ぶ

企画趣旨

聴覚障害学生が大学に入学することが決まったとき、その中心となって支援のプランを作成したり、学内の環境整備を行うのが、障害学生支援コーディネーター(以下、コーディネーター)であろう。近年、障害学生支援室等を設置し、コーディネーターを配置する大学が増えつつあるが、コーディネーターはどのような業務を行いながら、聴覚障害学生を支えているのであろうか。本分科会では、現職のコーディネーターをアドバイザーにお迎えし、参加者と共に一つの課題に対する支援プランを考えながら「コーディネーターの仕事とは何か」について考える。コーディネーターを目指す学生にとっては、現職の方から実際の業務の様子を聞き、その仕事のイメージをより鮮明に作ることができるであろう。また、現職の方にとっては、他大学での支援の工夫や大学の組織・規模に合わせた特色のある支援についての意見交換ができるであろう。一つの課題に皆さんで向き合ってください、「コーディネーター」の業務について理解を深めていただきたい。

【分科会3の流れ】

- 10:00 主旨説明、アドバイザー紹介
- 10:10 話題提示・説明
- 10:20 自己紹介・ディスカッション
- 11:45 各班まとめ・全体まとめ
- 12:15 終了

アドバイザー紹介

＜司会兼アドバイザー＞

はやし ともよし

林 智義氏（関西学院大学 総合支援センター）

皆さん、こんにちは。関西学院大学総合支援センター主任の林智義です。1992年から大学職員として働いており、2010年から障がい学生自立支援の仕事をしています。日頃は、現場の監督職という立場でコーディネーターと一緒に、聴覚障がい・視覚障がい・発達障がい・肢体不自由などによる学びにくさがある学生と面談し、必要な支援を組み立て、サポート学生や教職員、関係組織との調整を行っています。

私がこの仕事をする上で、大切にしているのは、「サーバントリーダーシップ」です。学生支援には、利用学生自身やサポート学生をはじめとする多くの人々の熱意と主体性を引き出すことが重要です。そのためには、私自身がしっかりしたビジョンを持った上で皆に仕え、彼らが活動しやすいように環境を整備し、結果、彼らが能動的に活動することによって、成功体験できることが肝心だと考えています。

今回は皆さんと一緒に支援プランを考えることで私自身、新しい視点が得られるのではないかと大変楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

＜アドバイザー＞

いそがき せつこ

磯垣 節子氏（京都精華大学 学生課障がい学生支援室）

こんにちは。京都精華大学 学生課 障がい学生支援室の磯垣節子です。2004年9月に「障がい学生支援室」が設置された時から担当となり、障がい学生支援室の業務全般に係わっています。障がい学生支援室には、さまざまな業務がありますが、コーディネーターは、人と人を繋ぐ黒子のような役割だと思えます。また、支援を構築するには、働く仲間とのチームワークも大切です。

現在は、支援学生（ノートテイク・パソコンノートテイク）の障害理解と支援技術の向上に力を注いでいます。

他には、障がい学生と支援学生、支援学生同士の繋がりを深める工夫をし、それが広がって他の学生とも連携ができれば、直接、支援をしなくても障害理解啓発に繋がるのではと思えます。

今回の「支援プラン作り」で皆様と一緒に新たなアイデア等を考えたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

たなか ひろゆき

田中 啓行氏（早稲田大学 障がい学生支援室）

皆さん、こんにちは。田中啓行と申します。2006年から、早稲田大学障がい学生支援室で身体に障害のある学生の支援に携わっています。聴覚障がい学生支援に関しては、情報保障のコーディネートを中心に担当し、学内他箇所と連携しながら業務を行っています。利用学生との面談、ノートテイクやパソコン通訳の養成講座の講師の他に、教員への配慮依頼文書の配付など、情報保障の環境を整えることも仕事です。

業務においては、ただ単に支援や「こうすることになっている」という知識を提供するのではなく、授業に関わる人すべて（利用学生、支援者、教職員、周りの学生）がそれぞれの立場で主体的に考えるためのお手伝いをしたいと思っています。そのような思いを、教員ガイド、支援室のホームページやパンフレットの作成、全学オープン授業での講師担当などを通して、多くの方に伝えられるよう努めてきました。

今回の分科会は、私自身にとってもコーディネート業務を見つめ直すきっかけになるのではないかと考えております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

おおた たくま

太田 琢磨氏（愛媛大学 教育学生支援部バリアフリー推進室）

皆さん初めまして。愛媛大学教育学生支援部バリアフリー推進室の太田琢磨です。愛媛大学でコーディネーターをしています。私は、聴覚障がいがあるため、主に聴覚障がい学生支援に関わる業務を担当しています。学生主体で行われる支援学生の養成講座（ノートテイク基礎講座・パソコンノートテイク基礎講座・手話基礎講座）の補助や、キャンパスバリアフリー推進室に来室する障がい学生・支援学生からの相談への対応、さらに必要に応じて学内の部署と連携を行っています。

現在愛媛大学では全障がい学生を対象に、エンパワメント支援を行っています。障がいのある学生を対象にミーティングを開催し、ICT技術を活用した新たなコミュニケーション方法の習得・タイムマネージメント・交渉能力等を身につける機会を設けています。当日皆さんの斬新な発想に出会えることを楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

【分科会4】

「支援の質を高める組織的実践

—事例から学ぶ様々な取り組み—

企画コーディネーター：岡田孝和氏

司会：岡田孝和氏(日本社会事業大学 聴覚障害者大学教育支援

プロジェクト プロジェクトマネージャー)

話題提供：真銅正宏氏(同志社大学 学生支援センター 所長)

青柳まゆみ氏(筑波大学 障害学生支援室)

徳田真二氏(関西学院大学 総合支援センター 事務長)

討論の柱

- ① 「質の高い支援を目指す」としばしば言われる。しかしながら、その意味するところは大学によって様々である。「質の高い支援」とは何を指すのか、その概念的な整理を試みる。
- ② 「質の高い支援」を具現化するのには、各大学の組織的な取り組みによってである。現実にとどのような取り組みが行われているのか、また今後どのような方法が可能であるのかについて議論する。

企画趣旨

高等教育における障害学生支援は徐々に拡充してきた。大学での学びを本人の自助努力に求めていた時代や、学生サークルをはじめとするボランティアの支援に頼っていた時期から考えれば、大学が責任を持って支援を提供し、支援制度の運営にあたるべきであるという基本的な考えが全国的に定着しつつあることは大きなマイルストーンである。

しかしその一方で、高等教育を取り巻く状況も変化してきている。18歳人口の減少による大学全入時代の到来、社会からの即戦力の要請の増加に伴う学生のキャリア志向の向上などが一例としてあげられる。障害学生に関しても、こうした変化に呼応し、障害を持つ入学者の多様化、医歯薬学科をはじめいわゆる専門職を志向して専攻を選択する学生の増加といった変化がみられる。また一方で、キャンパスでの孤立(「準ひきこもり」樋口康彦:2006)や、いわゆる「内定うつ」のようなこれまであまりスポットライトの当たってこなかった課題も生じてきている。こうした現代の高等教育の現状を鑑みると、1969年にチックリングの提唱した「大学生の発達の7つのベクトル」は決して古いものではない。すなわち、大学は社会に貢献できる学生を育てていくとともに、学力面にとどまらない成長を促すため、(1)知的・身体的・対人的能力の向上、(2)感情のコントロール、(3)自主・自立から相互依存への移行、(4)成熟した人間関係の確立、(5)アイデンティティの確立、(6)目的意識の確立、(7)全体性の発達・向上、について4年間を通して支援していく必要

があろう。そして、障害学生支援もこの文脈で語られるべきであり、日本における障害学生支援は一定の拡充がなされている一方で、さらに発展するよう努めていくべき余地が残されているといえよう。

その際に一つの指標となり得るのが「支援の質を高める」ということかもしれない。しかしながら、そもそも「質の高い支援」「質の高い制度」とはいったい何を指すのかについては、共通認識があるようでないというのが現状ではなかろうか。そのため、今後より良い支援制度を確立し、情報保障にとどまらない支援を行っていくためには、まず「質の高いとは何か？」という問いに対して、活発な議論を通して一定の枠組みを確立していく必要がある。

そして、その「質の高い支援」「質の高い制度」をどのように体現していくかという方法論についても考えなければならない。たとえばノートテイクやパソコン通訳を導入する際にはある程度の定型化された方法があるが、質を高めていくという曖昧な問いに対しては具体的な方法論はそれほど確立しているとは言えず、これまであまり議論されてこなかった。今後、より充実した障害学生支援を実現していくためには、この点についての議論も欠かせない。

そこで、本分科会では特色のある取り組みを実施している各大学において、「質」というものをどのように捉えているか、そしてそれをどのように組織・制度という形に表現しているのかについてご報告いただく。そして、質というものの概念的な整理を試み、その後フロアも交えて、支援の質を高めるにはどのような方法論が考えられるか議論したい。ただし、それは各大学の設立理念や教育目的、利用可能な人的・知的資源等によって異なるものであり、ましてや優劣をつける性格のものでもない。本分科会では、話題提供や参加者間の議論を通して、各大学がそれぞれに適した方法で質を高めていくために多くの示唆を得ることを目標とする。

「同志社大学における障がい学生支援」

同志社大学 学生支援センター所長 真銅正宏氏

Doshisha University

支援の質を高める組織的実践

—同志社大学における障がい学生支援—

2011年11月6日(日) 第7回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム
@つくば国際会議場

同志社大学
学生支援センター所長 真銅 正宏

Doshisha University

同志社大学における障がい学生支援

- I 大学の基礎情報
 - 1: 大学の創始者、生い立ち
 - 2: 校祖新島襄が残したことば
 - 3: 同志社大学の規模
- II 障がい学生支援制度
 - 1: 本学の学生支援体制
 - 2: 運用体制
 - 3: 障がい学生支援室概要
 - 4: 障がい学生支援制度
 - 5: 障がい学生支援室の1年
- III 障がい学生支援に関わる流れ
 - 1: 1970年代まで
 - 2: 障害者問題委員会発足～障がい学生支援制度発足
 - 3: 2001年10月「講義補助」から「講義保障へ」
- IV より良い障がい学生支援のために
 - 1: フォローアップ勉強会
 - 2: 学期末懇談会
 - 3: Challengedキャンパス
 - 4: 複合領域科目「こころのバリアフリー」を考える
 - 5: キャリアセンターとの連携 入学～卒業まで
- V 終わりに
 - 1: 未来の姿

Doshisha University

I 大学の基礎情報

1: 大学の創始者、生い立ち

同志社大学は、1875(明治8)年に新島襄によって、その前身となる同志社英学校が設立されたことに始まる。新島襄は江戸時代末期に国禁を犯してアメリカに渡り、帰国した後、異国の地で得た様々な経験と、そこで培った教育の理念を振り所にキリスト教主義を徳育の基本とする大学の設立を目指した。以来、同志社大学は「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」の三つの教育理念を掲げ、「良心を手腕に運用する」人物の育成を教育の目標とし、多くの人材を世に送り出してきた。

Doshisha University

I 大学の基礎情報

2: 校祖新島襄が残したことば

- 「諸君よ、人ひとりは大切である」
(1885年、同志社英学校創立10周年記念式の礼拝にて)
* 時を経て変わることなく輝きを放つ、本学の存在理由であり同志社人の誇り
- 「良心の全身に充滿したる丈夫(ますらお)の起り来らん手を」
(同志社大学設立の旨意) → 良心教育

Doshisha University

I 大学の基礎情報

3: 同志社大学の規模

教学組織は13学部、16研究科で構成(2011年5月現在)されており、学生総数28,428名、専任教員766名である。

教学組織	13学部16研究科
学生数	28,428名
専任教員数	766名
2つのキャンパス	今出川キャンパス 京田辺キャンパス
新設学部・研究科	脳科学研究科(1年一貫修士課程・2012年4月開学予定)

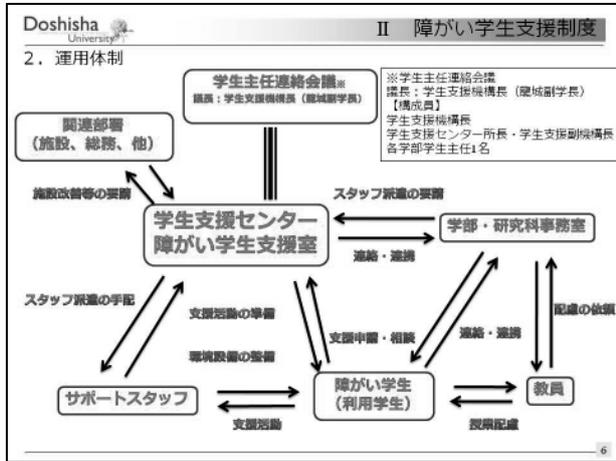
データは2011年5月現在

Doshisha University

II 障がい学生支援制度

1: 本学の学生支援体制

■ 2009年4月学生支援機構設立 - 4つのセンター間の緊密な連携へ -



II 障がい学生支援制度

3: 障がい学生支援室概要 (その1)

組織	学生支援センター京田辺校地学生支援課に設置
支援室構成	(副学長・学生支援機構長 堀越 正明) (学生支援センター所長・学生支援副機構長 貴鏡 正宏) 京田辺校地学生支援課長1名 京田辺校地学生生活係長1名 障がい学生支援コーディネータ3名 アルバイトスタッフ3名
障がい学生在籍数	90名 (把握数)
内、障がい学生支援制度利用学生	21名
制度利用学生内訳	聴覚障がい1名 視覚障がい1名 肢体不自由7名 内部障害4名 重複障害2名

データは2011年10月 日現在

II 障がい学生支援制度

3: 障がい学生支援室概要 (その2)

スタッフ数	会費母数	活動母数	支援内容	1週間あたりの 支援コマ数
学生スタッフ	254人	99人	パソコン講義	81コマ/週 (東北支援10コマ/週含)
一般スタッフ	18人	2人	ノートテイク	14コマ/週
			代筆	3コマ/週
			介助 (車椅子・トイレ・食事)	20コマ/週
合計				120コマ/週

データは2011年度第1学期のもの

サポートスタッフは有償ボランティアという位置づけ。880円/時間

II 障がい学生支援制度

4: 障がい学生支援制度

障がい学生支援制度	本学に在籍する身体に障がいのある学生 (Challenged) が他の学生と等しい条件の下で学生生活を送れるように、講義保障を中心に様々な支援を行う制度
講義保障	身体に障がいのある学生が希望するすべての講義について、他の学生と同じレベルで受講できるように保障している
合格者への通知	WEBページでの告知と、合格発表後の1次手続き者全員に案内パンフレットを送付 (約11,000通)
支援を受けるまでの流れ	①障がい学生支援室に相談 ②学生本人、障がい学生支援室、学部・研究科事務室でどのような支援が必要か協議 ③支援開始



III 障がい学生支援に関わる流れ

1: 1970年代まで

1937年	ヘレンケラー女史、本学で講演
1949年	大学入学試験において点字受験対応を開始 (日本の大学では初)
1975年	教務課に非常勤の点訳・墨約担当者配置 定期試験の点訳を開始、1984年度より語学テキストの点訳業務開始

視覚障がい学生への正課授業や学内公示文章等の「必要事項の伝達」ならびに「施設・設備面の改善」、「機器・備品の整備」が中心

Doshisha University **IV より良い障がい学生支援のために**

5：キャリアセンターとの連携 -入学から卒業まで-

**学生支援機構内のキャリアセンターと連携
障がい学生対象のインターンシップ、セミナー・ガイダンスを開催**

障がい学生対象1日インターンシップ	実施日時：2011年8月29日（月） 訪問先：横水ハウス（株） 参加学生数：7名（肢体不自由4名、聴覚障がい1名、内部障害1名） その他にノートテイク2名
-------------------	--



【障がい学生対象1日インターンシップ】



【障がい学生対象キャリアガイダンス】

Doshisha University **V 終わりに**

1. 未来の姿

「何備不羈（てきとうふき）」

逆に好ましいのは「何備不羈（てきとうふき）」の学生である。常軌では律しがたいほど独立心と才能あふれる青年である。新島はこの言葉を遺言に残した。同志社は今後とも、そうした学生を輩にはめたり、圧迫したりしないで、本性にしたがって働き、将来の「天下の人物」に仕立ててほしい、と。

●新島遺品展資料の公開 部分公開 ショートストーリーより

一国を維持するは、決して二三英雄の力に非ず、
実是一国を組織する教育あり、智識あり、品行ある人民の力に拠らざる可からず、
是等の人民八一国の良心とも謂ふ可き人々なり、
而して吾人八即ちこの一国の良心とも謂ふ可き人々を養成せんと欲す。



**For God For Doshisha
And
Native Land**

「関西学院大学の取り組みについて」

関西学院大学 総合支援センター 事務長 徳田真二氏

1. 「良い支援」「質の良い支援」「好ましい支援」「理想的な支援」とは何か？

理想：大学生生活の適応から卒業後を見据えた自立を促すシステムを構築し、障がいのある学生が安心して充実した大学生生活を送ることができること。特に私立大学の場合は「**建学の理念**」に基づく支援が望ましい。

(1)全学的な均質の支援

中心となる部局の設置

(2)専門的知識を有する人材の確保

コーディネータとして、視覚障害、聴覚障害、発達障害、肢体不自由に対応する専門的知識を有する人材の採用

(3)支援組織の充実

- ・専門的知識を有する教員の配置
- ・専門的知識を有する教員、コーディネータ、職員の情報共有
- ・全学的委員会を開催し、情報の共有、連絡・調整を図る
- ・学生支援相談室（カウンセリング）との連携強化

2. 実践例

(1)関西学院新基本構想に基づく大学施策（2010年度）

- ・「関西学院教育支援連絡会議」の設置

初等部から大学までの「一貫教育」「総合学園」の構想に沿った教育を支える学院の組織として、教育連携を強化する施策。

(2)「総合支援センター」の設置（2011年4月）

- ・障がいのある学生の支援と学生相談（カウンセリング）との事務統合

両部局の事務統合により「学生生活自立支援のための相談」「学生が直面する学生生活上の諸問題についての相談（心理領域、生活領域、修学領域）」の連携・情報共有を深める。

- ・コーディネータ、カウンセラーの人員増

総合支援センター設置にあたり、機能拡大・支援充実を目的に専門的知識や技能を有する人材を増員する。

- ・総合支援センター内の教員組織体制の充実

センター長1名（副学長）

センター副長2名（学生相談と障害に関する専門教員）



センター委員 5 名（学生相談担当教員 2 名、障害学生支援担当教員 3 名）

・職員の果たす役割

業務人事管理・運営、学内外関係機関との連絡調整、広報活動等

(3) 「総合支援センター委員会」「総合支援センター連絡会」「事例検討会」等各種委員会の開催

「『質の高い支援』の構築を目指した取り組みと課題」

筑波大学 障害学生支援室 青柳まゆみ氏

筑波大学では、「障害を有する学生に対し、教育・学生生活に関する支援環境を整備し、もって、誰もが質の高い学生生活(QOSL: Quality of Student Life)を送ることができるようにする」という基本理念を明文化している(筑波大学障害学生等の支援に関する要項)。

では、「質の高い支援」の実現のために、実際には何が必要なのか。障害学生支援室が学内の各組織と連携しながら取り組んでいる事項について、そのポリシーと実際の支援内容、今後の課題等を紹介する。具体的には、本学において特に重視している以下の内容に焦点を当てて話題提供を行う。

特色Ⅰ 障害科学の専門教員を中心とした障害学生支援室の運営体制

- ・障害別(視覚・聴覚・運動機能障害)支援室および支援チーム
- ・専門家による発達障害学生支援の取組
- ・障害学生支援関連の研究の推進

特色Ⅱ 学生による支援活動の重視

- ・すべての学生の成長を期待した支援プログラム
- ・ピア・チューター(Peer Tutor)制度の導入と、支援者養成プログラム

特色Ⅲ 「連携」を大切にした支援体制

- ・入学時相談
- ・教職員への理解・啓発活動

特色Ⅳ 個々のニーズに応じた施設・設備の改善

- ・障害学生の動線把握と、優先的なバリアフリー化
- ・実態調査に基づいた中・長期改善計画の提案

特色Ⅴ 当事者参加型の支援

- ・自立した障害者の育成を目指した支援プログラム

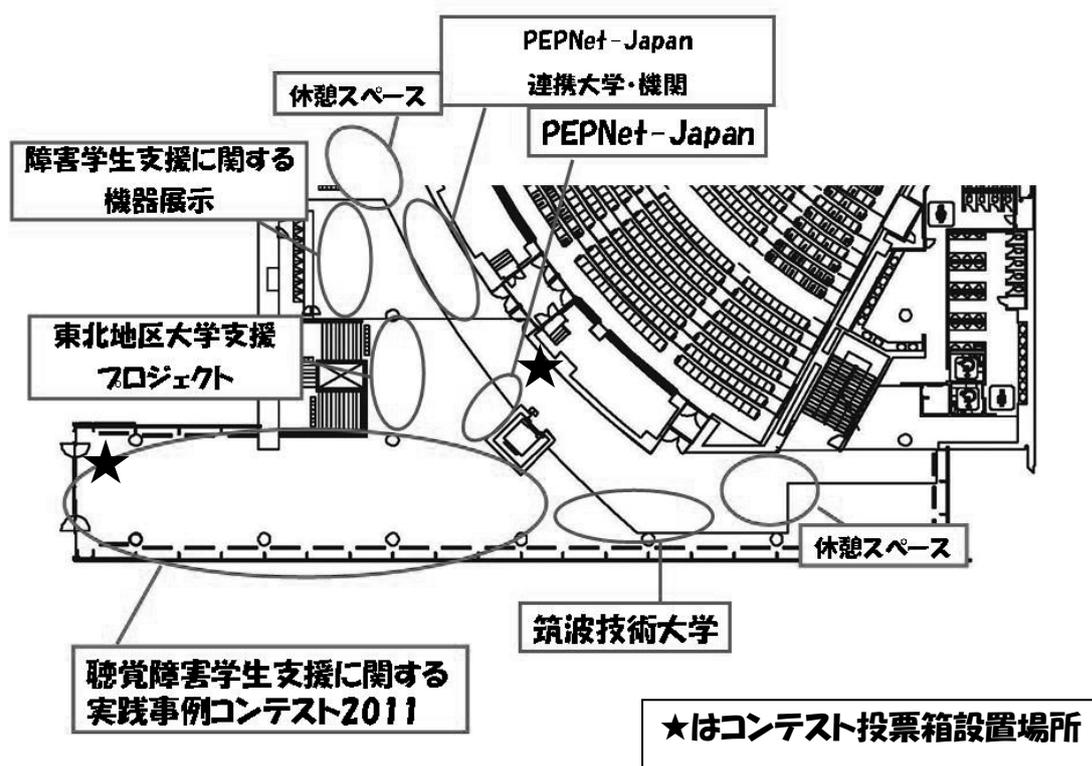
A decorative floral frame with intricate scrollwork and leaf patterns, surrounding the central text.

**ランチ
セッション**

❁ ランチセッション

- 聴覚障害学生支援に関する実践事例コンテスト 2011
- 聴覚・視覚障害学生支援に関する機器展示
- PEPNet-Japan 紹介展示
- PEPNet-Japan 連携大学・機関活動紹介展示
- 筑波技術大学紹介展示

❁ 会場図



PEPNet-Japan

聴覚障害学生支援に関する
実践事例コンテスト2011



2階 大ホール前ホワイエ 12:15~14:00

(担当者説明時間 12:20~13:50)

※奇数番号 12:20~13:05、偶数番号 13:05~13:50

本シンポジウムでは、全国の大学が日頃実践している支援の取り組みを発表し、参加者の投票によって優れた取り組みを表彰するコンテスト企画を設けております。会場には、教職員・学生・支援者など11団体の応募者が力を入れて作成したポスター12点が並んでいます。また、PR・啓発グッズ部門には3団体からの応募があり、マニュアルなどを展示しております。(ポスターは巻末に掲載)

内容をご覧いただき、「この取り組みは参考になる!」と思った発表に投票してください。

投票方法

★みなさんの名札の中に投票用紙(2枚)が入っています。会場でポスターをご覧いただき、これは良い!と思った発表2つに投票して下さい。投票箱は以下の2箇所に設置しています。

- ①大ホール前ホワイエ 入り口
- ②大ホール会場入り口前

★本コンテストでは、組織の大きさや完成度ではなく、次のような観点から投票をお願いします。

- ・こんな取り組みを実現したかった!
- ・ぜひ真似したいアイデアだ!
- ・今後の発展が楽しみな内容だ!
- ・日頃の努力が伝わってくる!

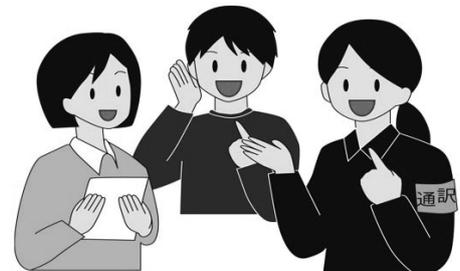
★発表いただいた各団体には、以下の賞を用意しています。

- ・PEPNet-Japan 賞
- ・準 PEPNet-Japan 賞
- ・グッドプラクティス賞
- ・アイデア賞
- ・PR・啓発グッズ部門賞
- ・奨励賞

参考になる
取り組みに
投票



投票用紙は1人2枚
名札の中に
入っています



※会場内の手話通訳者は
青色の腕章を付けています。

参加団体

パネル発表部門 ①日本工業大学/②明治学院大学学生サポートセンター/③千葉大学ノートテイク会/④愛媛大学障がい学生支援ボランティア(CBP)/⑤愛媛大学バリアフリー推進室/⑥愛知教育大学/⑦群馬大学障害学生支援室/⑧日本社会事業大学 STT&聴覚障害学生支援プロジェクト室/⑨早稲田大学障がい学生支援室/⑩筑波大学障害学生支援室聴覚障害学生支援チーム/⑪宮城教育大学しょうがい学生支援室聴覚しょうがい部会学生運営スタッフ/⑫東北福祉大学障がい学生支援室

PR・啓発グッズ部門 東京大学バリアフリー支援室/関西学院大学総合支援センター/宮城教育大学

聴覚障害学生支援に関する機器展示

補聴器フィッティング用装置 / FM補聴システム

デジタル補聴器フィッティングプラットフォーム (Noah Link) は、クライアント (補聴器ユーザー) のオーディオグラムなどの聴覚学的データを基礎データとして、補聴器各社のフィッティングソフトウェアとリンクするものです。また、クライアントの補聴器はBluetoothを用いたインターフェイスでソフトウェアがインストールされたパソコンと接続され、クライアントと直接やりとりしながらリアルタイムでの補聴器のフィッティングが可能です。

補聴器効果測定装置 (Interacoustic Affinity) は、オーディオメータ (聴力測定) 機能、補聴器特性測定機能、補聴効果測定機能、実耳測定機能を併せ有するオールインワンの補聴器効果測定装置です。これは、キャリウム用意され、モバイルでの補聴器支援が可能となっています。



Copyright(C) Oticon A/S All Rights Reserved.

参考ホームページ: <http://www.oticon.co.jp/products/affinity/>



マイクに入った音が直接補聴器に届けられる。



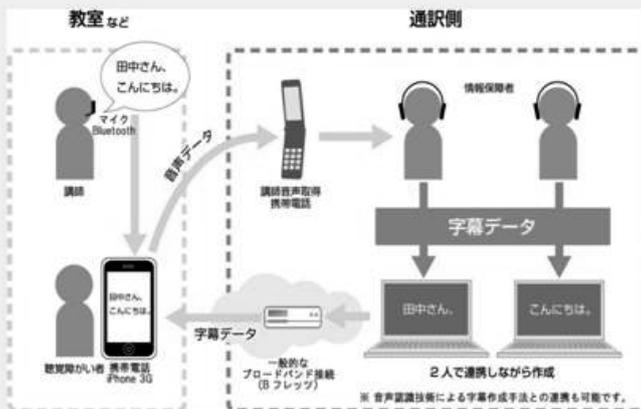
FM補聴システムの一例

FM補聴システムは、マイクと受信機のセットでシステムとなっています。ちょうどラジオ局とラジオ受信機のように、話し手がFMマイク (ラジオ局) を持ち、声をFM電波 (169MHz) に乗せて流します。これを、聴覚障害学生が装着している小型の受信機 (ラジオ受信機) で受け、鮮明な音声で聞き取る仕組みになっています。

参考ホームページ: <http://www.phonak.jp/products/images/fmsystem/tsukuba.pdf>

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター教授 佐藤正幸
(お問い合わせはPEPNet-Japan事務局まで)

携帯電話を活用した『モバイル型遠隔情報保障システム』



『モバイル型遠隔情報保障システム』は、携帯電話を通じて話者の音声を遠隔地にいる要約筆記者に送信し、そこで作成された字幕データを携帯電話で受信できるシステムです。教室や体育館などLAN環境のない場所や、パソコンを持ち込むことが難しい環境下でも要約筆記を利用できるようになります。

講師音声を情報保障者に伝えること、そして作成された文字情報を表示することの2つの役割を、1台の携帯電話 (iPhone 3G/4) で担っていることが一つのポイントです。

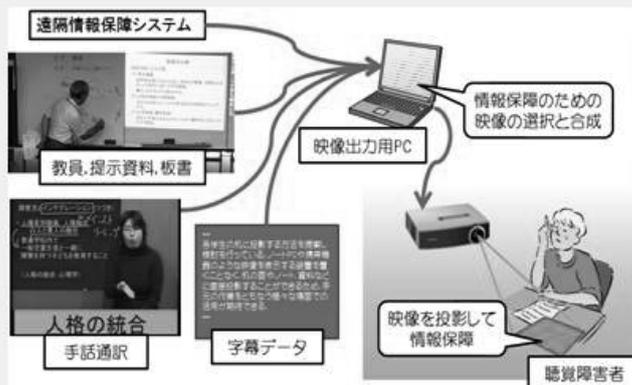
また、パソコン要約筆記のみならず、音声認識技術との連携も可能です。

※筑波技術大学、群馬大学、東京大学の研究グループは、ソフトバンクモバイル株式会社およびNPO法人 長野サマライズ・センター、MCC Hubnetと共同で本取り組みの導入実験プロジェクトを進めています。

参考ホームページ: <http://www.tsukuba-tech.ac.jp/ce/mobile1/index.html>

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター准教授 三好茂樹
(お問い合わせはPEPNet-Japan事務局まで)

聴覚障害者の講義受講支援のための プロジェクタを用いた情報保障の検討



聴覚障害をもつ学生が高等教育機関で講義を受ける場面では、聴覚情報を視覚情報へ変換する手話や字幕、ノートテイクなどの情報保障の利用が多くなります。しかし、聴覚障害者にとっては、教員や資料と、聴覚情報を手話や字幕へ変換した情報保障とをあわせて見ることになるため、視覚と視線移動の負荷がより大きくなってしまいます。また、聴覚障害者が情報保障から目を離すことは講義内容の一部を聞き逃すことを意味し、講義理解の妨げとなることもあります。

これらの課題を解決するために、これまでにノートパソコンや携帯機器などを用いて聴覚障害者の手元で情報保障を提供する方法についての研究を進めています。本研究では、聴覚障害をもつ学生が手元に視線を向けていても聴覚情報が十分に保障されるように、プロジェクタで机に映像を提示することによって情報保障を提供する方法について検討しています。机の上に、字幕（要約筆記・リアルタイム字幕等）、手話通訳、教員、提示資料や板書などの映像を提示することによって、聴覚障害をもつ学生に対して受講支援を行う取り組みについて紹介します。

筑波技術大学 産業技術学部産業情報学科准教授 若月大輔

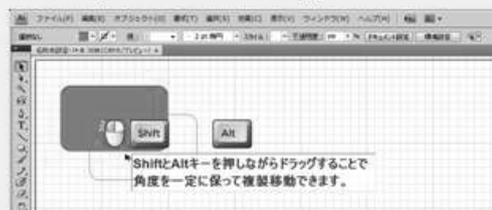
(お問い合わせは waka@a.tsukuba-tech.ac.jp まで)

聴覚障害学生向けソフトウェア操作教示ツール：SZKIT

聴覚障害学生向けソフトウェア操作教示ツール：SZKITは、聴覚障害学生の個人差に適応し、情報取得能力を向上させる手法及びソフトウェアの開発を目的として作成しました。

聴覚に障害を持つ学生に対しては、従来から様々な情報補償の手段が採られていますが、演習に携わる教員をリアルタイムに支援するものではなく、また、学生個別の指導に特化した手段ではありません。そこで聴覚障害学生を対象とした授業で利用するため、演習に携わる教員のニーズをもとにコンピュータ操作を教示する教育支援ツール、

SZKIT (SynchroniZed Key points Instruction Tool) を開発しました。



SZKITを用いてグラフィック系ソフトウェアを教示している画面

SZKITは、オペレーションに同期した情報を聴覚障害学生に対して提供するもので、マウスカーソル脇に説明文およびクリック状態・特殊キーの押下状態を表示し、複雑なマウス操作が必要なデザイン系ソフトウェアの使い方を教える際に役立てることが出来ます。

筑波技術大学 産業技術学部総合デザイン学科講師 鈴木拓弥

(お問い合わせは suzukit@a.tsukuba-tech.ac.jp まで)

視覚障害学生支援に関する機器展示

視覚障害学生支援に関する機器展示

数式を含んだ文書も認識し点字などへの変換を行うInftyシステム

OCRが普及し、点訳作業の能率が上がりました。しかし、数式の入った理数系文書の点訳はOCRの恩恵をあまり受けられませんでした。現在、筑波技術大学では九州大学を始めとする国内外の研究機関と協力し、数式も認識出来るシステムを開発しています。このシステムを用いると、印刷された文書が数式を含んでいても、スキャナで読み取ることにより、点字や、パソコンを用いて文書を読むことができる様々な文書形式に変換することができます。

また、数式を含んだ文書の編集を行なうエディタも開発しています。このエディタは入力過程の読み上げも行ないますので、音声ガイドだけで数式を含んだ理数系文書を作成することができます。このシステムを用いることで、視覚に障害のある学生と点字を読むことができない指導者とがスムーズに理数系文書のやりとりを行うことができます。

参考ホームページ: <http://www.inftyproject.org/jp/>

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター准教授 金堀利洋
 (お問い合わせは kanahori@k.tsukuba-tech.ac.jp まで)

最新の視覚障害者用支援機器を使ってみませんか

*筑波技術大学では、以下のような視覚障害者向けの支援機器を全国の大学へ貸し出して試用いただいています。

拡大読書器

【弱視者向け機器】

- 拡大読書器【印刷物などを読み取り、ディスプレイ部に拡大表示する。書字作業にも利用できる。携帯型もある】
- 画面拡大表示ソフト【パソコンの画面を拡大表示する。拡大倍率や表示色の変更もできる】
- 拡大ルーペ【大きさ、倍率の違う用途別レンズ類】
- 単眼鏡【黒板や白板など、遠くを見る時に対象を拡大して見るための望遠鏡】

点字ディスプレイ

【全盲者向け機器】

- 画面読み上げソフト（スクリーンリーダ）【パソコンの画面表示を合成音声で読み上げるソフトウェア。文章作成時に同音異義漢字も読み分けられる】
- 点字ディスプレイ【パソコン上のデータを点字表示する専用ハードウェア。一般文書はスクリーンリーダと併用して使用される】
- 音声読書機【印刷物のテキスト部分を読み取り、合成音声で読み上げる】
- 自動点訳ソフトウェア【漢字混じり文を点字データに変換する。数式や専門用語などは、点訳者が点字エディタを用いて修正し、完全な点字に仕上げる】

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター講師 宮城愛美
 (お問い合わせは mmiyagi@k.tsukuba-tech.ac.jp まで)

A decorative floral frame with intricate scrollwork and leaf patterns, surrounding the central text.

全体会

【 全体会 】

**震災時に求められる聴覚障害学生支援のあり方とは？
－東日本大震災後の現状と課題から－**

企画コーディネーター：松崎 丈氏

司 会 : 浅井純二氏(日本福祉大学 福祉経営学部(通信教育))

パネリスト : 松崎 丈氏(宮城教育大学 特別支援教育講座)

白澤麻弓氏(筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター)

藤井克美氏(日本福祉大学 障害学生支援センター)

- 討論の柱** ① 聴覚障害学生における主体的な防災・減災活動
② 大学及び PEPNet-Japan における防災・減災体制の整備

企画趣旨

2011年3月11日午後14時46分。M9という国内最大規模で1,000年に1度と言われるほど、未曾有の大地震が私たちに襲った。大津波、原発、大規模停電など様々な被害が発生し、死者・行方不明者の数は2万人を超えている。これは日本の災害に関わる歴史上3番目となる人数である。教育や産業など復興しつつある現在も、被害を受けた人々の心は完全に癒されてはいない。そして近い将来、この東日本大震災に続いて、西日本大震災と言われるように東海・東南海・南海連動型地震が発生する可能性があるという。

大規模な自然災害が発生すると、聴覚障害のある子どもや成人に比類なきバリアが容赦なくふりかかってくる。例えば、音声で流される発令情報や救援情報に気付かない、通常は支援してくれている人々に尋ねても「大丈夫、大丈夫」とだけ返ってきたり詳しく教えてもらえなくなった、自分はきこえないだけでなく他にできないことがないと感じ無力感や孤独感に陥った、など多岐にわたる問題が発生する。聴覚障害学生も例外ではない。大学生活では支援学生や支援職員が常にサポートしてくれるが、災害発生時でもそうとは限らないからである。

東日本大震災では、聴覚障害学生はどのような状況におかれていたのか。聴覚障害学生支援に携わる関係者はどのように動いていたのか。テレビや新聞ではとりあげられない聴覚障害学生を取り巻く現状と課題を共有するとともに、今後も起きうる自然災害に対し、聴覚障害学生や支援関係者はどのように防災対策を進める必要があるのかに関する検討が急がれる。ただ聴覚障害学生支援において、災害に関わる防災・減災対策の問題は少なくとも蚊帳の外に置かれていた感があったため、我々も反省すべき点はあると思われる。

そこで今回は、宮城教育大学、筑波技術大学から東日本における聴覚障害学生支援活動を報告するとともに、西日本では日本福祉大学から現在行っている防災・減災に関する取組内容についてお話しいただく。フロアとのディスカッションも交えながら、聴覚障害学生、大学、PEPNet-Japan のそれぞれに求められる防災・減災対策のあり方を構想していきたい。

「東日本大震災における聴覚障害学生支援活動－宮城県を中心に－」

宮城教育大学 特別支援教育講座 松崎丈氏

東日本大震災における 聴覚障害学生支援活動 －宮城県を中心に－

松崎 丈
宮城教育大学
特別支援教育講座准教授
しょうがい学生支援室聴覚しょうがい部会長

内容

1. 宮城県における大学の被害状況
2. 震災時における聴覚障害学生の様子
3. 聴覚障害学生支援活動の経過
4. 今後の防災対策に向けて

各地の主な震度

巨大地震が起きた
東日本各地の震度

宮城県	死亡	9,457名
	行方不明	2,149名
	負傷	4,006名
		(9月11日時点)
岩手県・宮城県・福島県	死因	水死 92.5%
		圧死 4.4%
		焼死 1.1%
		不明 2.0%
		(4月11日時点)

仙台市周辺の大学の所在地

その他
石巻市 石巻専修大学
柴田郡 仙台大学

宮城教育大学の様子

宮城県における大学の被害状況

1. 安否確認

聴覚障害学生	17名全員無事
支援学生	1名死亡

※ご家族を亡くした学生もいる。
コーディネート担当職員 10名全員無事
2. 家屋の被害

支援学生	全壊 数名
	(仮設住宅から通学)
	半壊 10名以上

※実家が全壊・半壊となった者も多数。

震災時における聴覚障害学生の様子

1. 発災直後(3月11日)
春季休業で17名の大部分は帰省または家族。独りだった学生は皆無。
学生の体験談
家族。ラジオの音声が聞き取れず携帯テレビがほしかった。
大学で友達という。手話通訳をしてくれる。災害関係の情報がほしかった。
家族から情報が得られた。一人暮らしなら地域とのつながりが必要。
2. 救急救命期(安否確認、通信の一部復旧)(3月12日頃～15日頃)
学生の体験談
大学にいる。自分の地域や近隣のお店の情報がほしかった。
家族。字幕番組を増やし、手話通訳も大きくしてほしかった。
3. 復旧期(ライフライン順次回復、避難所等で生活)(3月15日頃以降)
学生の体験談
家族と一緒に。お互いにねぎらっていたので困ったことはない。
学校が始まるまで家族との関わりのみ。手話で話せる相手が身近にほしかった。

聴覚障害学生・成人の体験談

1. 発令情報の把握困難
「津波警報やサイレンが鳴り響き、避難を呼び掛ける広報車が走っていてもそれに気づかず、後になってから大津波が来ていたことに気が付き、ぞっとした。」
2. 支援情報や生活情報の把握困難
「給水所や炊き出しで並ぶときに、周囲の情報がわからず、どのくらい水をもらえるのか、炊き出しの中身がどれ程残っているのかなどが全く分からなくて不安だ。」
「思い切って救助スタッフに声をかけても通じず、スタッフがお話できるところへ案内しようとしてくれたが、行列から離れてしまうので断った。」
3. コミュニケーションの過疎化、孤立化
「真暗で文字がよく見えなくて困った。気を遣ってつい良かったふりをしてしまうことが増えた。」
「通常の生活よりも一気に情報バリアが増えていって、家族と一緒にいても孤立感を覚えるようになった。」

聴覚障害学生支援活動の経過

1. 聴覚障害学生等の安否確認
3月11日 iPhone等で東北地方の聴覚障害学生の安否確認。
みやぎDSC代表、宮城県聴覚障害学生の会顧問として把握していた連絡先にメール送信。
※携帯充電のため大学にある数十台のPCを利用。
3月12日 Twitterで聴覚障害学生の安否情報収集の協力を募る。
PEPNet-Japan、全国ろう学生懇談会が後方支援。
3月15日 東北地方の聴覚障害学生全員の無事が確認される。
東北学院大学、仙台大学、宮城教育大学、東北工業大学、東北福祉大学、東北生活文化大学、秋田県立大学、岩手県立大学。
※その頃、大学や自宅の電気が復旧。

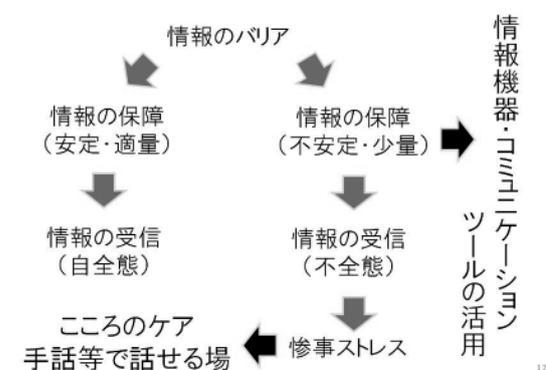
聴覚障害学生の安否確認でとった方法



聴覚障害学生支援活動の経過

2. 聴覚障害学生の現状とニーズに関する調査
3月半ば頃 携帯端末で聴覚障害学生に調査を実施。
1)手話等によるコミュニケーションの場の必要性
「安心して手話で話せる場所がほしいです。」
2)情報機器・コミュニケーションツールの活用
「今回の私の場合、携帯が通じず、バッテリーが切れ、電気が通らなかったため、充電ができない状態になりました。そのため、携帯についているテレビが見れない状態がありました。これが1人の場合だったら、何も情報が得られなかったと思います。」
3)遠隔地通訳支援の整備
「講義が再開し、支援学生が活動するのが難しいときに外部からの遠隔通訳支援があると助かります。」
⇒株式会社バンクに無償貸与の依頼。
PEPNet-Japanに遠隔地通訳支援を検討依頼。
- モバイル型遠隔情報保障支援システムの実現へ

平時の授業保障と緊急事態の違い



災害情報を巡るダブル・バインド

メッセージ

「昨夜からの大雨で××川は破堤の危険がありますから
早目に指定の避難所に避難して下さい。」

メタ・メッセージ

「避難というものは、このようなメッセージを受けとつて
から、言い換えれば、メッセージを待つてするものだ。」
⇒「情報待ち」という受身的な姿勢の強化
⇒過保護と過依存が融合した関係性の再生産

※聴覚障害学生の情報保障も、ある意味
「ダブル・バインド」かもしれない・・・。

13

役に立った情報機器やコミュニケーション・ツール



Boogie Board 携帯端末 Pocket WiFi 携帯型筆談ボード
ソーラーランタン 手動充電LEDライト 手回し充電器

聴覚障害学生支援活動の経過

3. こころのケアも配慮した取組

- 4月前半 不定期にメールで学生の状況を把握
聴覚障害者団体主催の茶話会の案内
- 4月27日 本学で聴覚障害学生同士で話し合いの場を持つ
- 4月29日 //
- 4月30日 //
- 5月1日 //
- 5月6日 //

4. その他 他大学のコーディネーターとの情報共有

聴覚障害学生の状況や今後の支援に関する課題等をメールで交換。
PEPNet-Japanの動きも逐一連絡。

15

聴覚障害児・者支援活動

1. 聴覚障害者団体の支援活動支援
社団法人宮城県ろうあ協会
特定非営利活動法人みやぎ・せんだい中途失聴・難聴者協会
2. 聴覚障害児及びご家族の支援
通常の幼稚園・学校に通う聴覚障害児のケア
聾学校教育相談に通うお子さん及び親御さんのケア
3. その他
CODAを持つ親御さんや学校教員へのこころのケア

16

聴覚障害学生の特徴

1. 聴覚活用のみで音声会話が困難な学生が多数。
2. 「一人暮らし」が「家族、親戚と同居」より多い。
3. 町内会や地域コミュニティとのつながりは形成困難。
4. ろう学生外部団体より学内コミュニティへの帰属傾向。
5. 聴覚障害者団体とのつながりは希薄。
6. 携帯でSNSやTwitterのいずれかを使う学生が多数。
7. 障害学生支援の進展により「情報」に対する態度の変容。



大学や関係団体が、以上のことを認識し、防災・
減災に関する取組を行う必要があるのでは？

17

今後の防災対策に向けて

1. 聴覚障害学生を対象にした防災教育の早期実施

- (1) 聴覚障害学生の「主体性」を引き出す発信型防災教育を
提案：ロードマップやクロスロードの活用
- (2) 情報機器、コミュニケーション・ツールの活用方法の指導
- (3) 地域の防災体制の把握や地域とのつながりの形成

2. 大学における防災体制の整備

- (1) きこえないことを前提とした緊急発令環境の学内整備
- (2) 大学間連携による安否確認・緊急情報配信システムの構築
提案：Twitter非公開アカウントの作成と実地訓練
提案：障害学生支援室を臨時避難所に使えるか？
- (3) 聴覚障害関係団体とのネットワーク
提案：聴覚障害関係の物資支援、こころのケアの申請
- (4) 大学間連携によるモバイル型遠隔情報保障システムの普及

18

ロードマップ: 災害時の聴覚障害学生支援

	発災前	発災直後	教急救命期 安否確認 通信の一部復旧	復旧期 ライフライン回復 避難所開設 仮設住宅での生活	復興期 団体の回復 福祉・教育の充実	
聴覚障害学生	避難所の把握 地域の防災体制把握 ハザードマップ把握 情報機器の活用 自宅備蓄・防災対策 町内会等の参加	一時避難 緊急情報の収集・整理	支援情報の収集・整理	自学・避難所・仮設住宅等 生活環境の確保 食糧・飲料・日用品 生活物資・電池等の確保 このころのケア		
	大学	総合防災訓練 防災マニュアル作成 防災教育の実施 情報機器の活用指導 地域・聴覚障害団体と連携	本部発足 安否確認 緊急情報の提供	被災状況及び生活状況調査 支援情報の提供	ピアサポート(仲間支援)このころのケア 情報保障	
		聴覚障害学生	防災体制の整備 防災教育活動 緊急連絡システムの構築 手話通訳・要約筆記の普及 関係機関とのネットワーク 避難地情報保障の普及	本部発足 緊急情報の提供	関係団体との連携 支援情報の提供	聴覚障害学生の安否情報集約 聴覚障害学生のニーズ調査 物資支援: 電池・筆記ボード・ランタン等 このころのケアの専門家連携 避難情報保障

→拡大図あり

クロスロードを活用した防災教育

内閣府より防災・減災教育として紹介されている。
ゲーミングの手法を用いた防災・減災教育ツールの一種。
クロスロード: 「岐路」、「分かれ道」のこと。転じて「判断のしどころ」

例) 実際に使われているカード



20

クロスロードの例

あなたは... アパートで一人暮らしをしています。

防災には近所づきあいが大事だと言われるけれど、そのために町内会あるいは自治会に入って集会やら運動会やら行事に出なくては行けない。仕事や趣味があるからそんな時間はないし、面倒くさい。それでも町内会等の行事に参加する？

Yes(参加する) No(参加しない)

21

クロスロードの例

あなたは... 大学が終わって帰宅しています。

夜8時頃、帰宅中に地震発生！交通がストップ。ひとまず一時的避難所に避難したけれど、周囲に知っている人はいない。しかも停電で暗い。だれかが拡声器で話しているが、ざわざわして音声がききとれない。携帯バッテリーは残りわずか。携帯電話の文字で人に尋ねる？

Yes(尋ねる) No(尋ねない)

22

クロスロードの例

あなたは... 聞こえる家族と同居しています。

地震発生直後。ライフラインが遮断され、補聴器の電池や携帯バッテリーがなくなり、家族からの情報だけが頼り。家族も情報収集に手一杯で、あなたが尋ねると「大丈夫！大丈夫！」との返事だけ。家族も疲弊している。それでも「何があったの？」と何度も尋ねる？

Yes(尋ねる) No(尋ねない)

23

提案: Twitterを活用した安否確認・情報共有



24

提案：大学を臨時避難所に

緊急避難

聴覚障害学生・支援学生
支援担当者

臨時避難所の機能

1. 安否確認・情報発信
2. 携帯電話・筆記ボード等の貸出
3. 非常食、非常用懐中電灯等の配布
4. テレビ・ラジオ等の情報保障
5. コミュニケーションの場 ⇒ 心のケアへ
6. 講義や集会等の遠隔地通訳

A大学(障害学生支援室) B大学
C大学

スライド 18 拡大図

ロードマップ：災害時の聴覚障害学生支援

	発災前	発災直後	救急救命期 安否確認 通信の一部復旧	復旧期 ライフライン回復 避難所開設 仮設住宅での生活	復興期 団体の回復 福祉・教育の充実
聴覚障害学生	避難所の把握 地域の防災体制把握 ハザードマップ把握 情報機器の活用 自宅備蓄・防災対策 町内会等の参加	一時避難 緊急情報の収集・整理		支援情報の収集・整理 自宅・避難所・仮設住宅等、生活環境の確保 食糧、飲料水、灯油、生活物資、電池等の確保 こころのケア	
大学	総合防災訓練 防災マニュアル作成 防災教育の実施 情報機器の活用指導 地域・聴覚障害団体と連携	本部発足 緊急情報の提供	安否確認	被災状況及び生活状況調査 支援情報の提供 ピアサポート(訪問支援・こころのケア)	情報保障
聴覚障害学生支援団体・機関	防災体制の整備 防災教育活動 緊急連絡システムの構築 手話通訳・要約筆記の普及 関係機関とのネットワーク 遠隔地情報保障の普及	本部発足 緊急情報の提供	聴覚障害学生の安否情報集約	関係団体との連携 支援情報の提供 聴覚障害学生のニーズ調査 物資支援：電池・筆記ボード・ランタン等 こころのケアの専門家派遣	遠隔情報保障

「東日本大震災時における東北地区大学支援プロジェクト」

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 白澤麻弓氏

PEPNet-Japan

For Students with Hearing Impairment Based on Quality of Learning

東日本大震災時における東北地区大学支援プロジェクト

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)

1 SAVE JAPAN

PEPNet-Japan

For Students with Hearing Impairment Based on Quality of Learning

報告の流れ

- 東北地区大学支援プロジェクト実施の経緯
- 東北地区大学支援プロジェクトの概要
- モバイル型遠隔情報保障システムの概要
- 今後の展開と課題

2 SAVE JAPAN

PEPNet-Japan

For Students with Hearing Impairment Based on Quality of Learning

プロジェクト実施の経緯

- 3月11日 東日本大震災の発生
- 3月13日 安否確認への協力要請
 - ・ MLへの協力呼びかけ
 - ・ 各大学への連絡
 - ・ 当事者ネットワークによる情報収集
- 3月15日 聴覚障害学生全員の無事を確認
- 3月18日 PEPNet-Japanより支援の申し出
- 3月28日 運営委員会への提案
- 3月31日 プロジェクト実施決定

関係者よりサポートの申し出多数

3 SAVE JAPAN

PEPNet-Japan

For Students with Hearing Impairment Based on Quality of Learning

プロジェクトの概要①

東北地区の大学

【震災前】 パソコンノートブック等による授業支援を実施

↓

【震災後】 支援者の確保が困難！
支援体制の立て直しに時間がかかる！

4 SAVE JAPAN

PEPNet-Japan

For Students with Hearing Impairment Based on Quality of Learning

プロジェクトの概要②

全国の大学の方で東北地区の聴覚障害学生をサポート

5 SAVE JAPAN

PEPNet-Japan

For Students with Hearing Impairment Based on Quality of Learning

システム概要

http://192.168.255.255

教室側

入力側

入力用 入力用 ITBC

データ通信カード

通話

6 SAVE JAPAN

PEPNet-Japan

実際の様子(利用者側)

7 **SAVE JAPAN**

PEPNet-Japan

実際の様子(入力側:同志社大学)

8 **SAVE JAPAN**

PEPNet-Japan

支援担当大学

PEPNet-Japan連携大学・機関を中心とする13大学

札幌学院大学	群馬大学
静岡福祉大学	早稲田大学
日本社会事業大学	フェリス学院大学
日本福祉大学	愛知教育大学
同志社大学	関西学院大学
立命館大学	愛媛大学
広島大学	【技術サポート】愛知教育大学
	群馬大学 筑波技術大学

9 **SAVE JAPAN**

PEPNet-Japan

支援利用大学

PEPNet-Japan連携大学・機関を中心とする4校

宮城教育大学	9名
東北福祉大学	6名
東北生活文化大学	1名
宮城学院女子大学	1名

計17名

10 **SAVE JAPAN**

PEPNet-Japan

支援技術講習会の実施

- 4月22日 同志社大学
- 4月23日 関西学院大学
- 4月25日 早稲田大学
- 5月13日 宮城教育大学
- 5月13日 東北福祉大学

11 **SAVE JAPAN**

PEPNet-Japan

支援を実施した時間

週20コマ

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
1限	■			■	■
2限		■			
3限	■		■		
4限	■	■			■
5限					

■ 1コマ支援 ■ 2コマ支援

12 **SAVE JAPAN**

PEPNet-Japan 支援提供時間数

- 支援コマ数 262コマ
- 支援学生数
 - 実数 86名
 - のべ人数 627名



13 **SAVE JAPAN**

PEPNet-Japan 今後の展開と課題①(災害時の支援)

	発生前	発生直後	救急救命期	復旧期	復興期
大学	総合防災訓練 防災マニュアル作成 防災教育の実施 情報保障機器の活用指導 当事者団体との連携	本部発足 緊急情報の提供	安否確認	被災状況&生活状況調査 支援情報の提供	ピアサポート(訪問支援・こころのケア) 情報保障
PEPNet-Japan等 団体・機関		本部発足 緊急情報の提供		関連団体との連携 聴覚障害学生の安否情報集約	聴覚障害学生のニーズ調査 物資支援(電池・筆談ボード・ラタン等) こころのケアの専門家派遣 遠隔情報保障

→拡大図あり

PEPNet-Japan 今後の展開と課題①(災害時の支援)

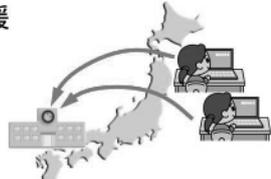
個々の大学	地域中核大学	PEPNet-Japan等の 団体・機関
安否確認 物資提供(電池等) 緊急情報の提供 被災状況調査 ピアサポート	安否情報の集約 緊急情報の収集・提供 (地域情報の把握 関連団体との連携) 被災状況調査と集約 ピアサポート (聴覚障害学生集団の 形成支援)	安否情報の集約援助 緊急情報の収集・提供 (聴覚障害関連情報 の収集(字幕・手話 放送、文字情報の提 供)) 被災状況調査結果の集 約とニーズ把握 関連団体への呼びかけ 人的・物的資源の提供

災害時を見据えた連絡・連携体制の構築

→拡大図あり

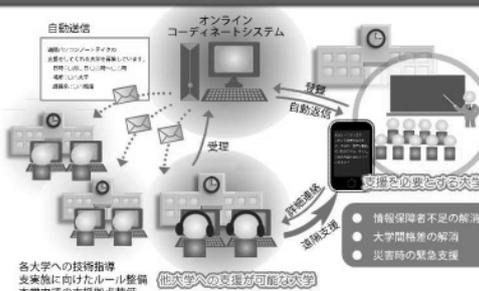
PEPNet-Japan 今後の展開と課題②(遠隔支援)

- キャンパス間の支援
- 連携大学同士・近隣大学への支援
- 小中学校への支援



16 **SAVE JAPAN**

2 東北地区大学支援の経験をベースにした 遠隔情報保障ネットワークの構築



各大学への技術指導
支援拠に向けたルール整備
本学内での支援拠点整備

他大学への支援が可能を支援

情報保障者不均衡の解消・災害時の緊急支援

17

PEPNet-Japan まとめ

- 東北地区大学支援プロジェクト実施の経緯
- 東北地区大学支援プロジェクトの概要
- モバイル型遠隔情報保障システムの概要
- 今後の展開と課題

18 **SAVE JAPAN**

スライド 14 拡大図

PEPNet-Japan
For Students Who are Deaf or Hard of Hearing

今後の展開と課題①(災害時の支援)

	発生前	発生直後	救急救命期	復旧期	復興期	
大学	総合防災訓練 防災マニュアル作成 防災教育の実施 情報保障機器の活用指導 当事者団体との連携	本部発足	安否確認	被災状況 & 生活状況調査		
			緊急情報の提供	支援情報の提供	ピアサポート(訪問支援・こころのケア)	
PEPNet-Japan等の 団体・機関	緊急支援体制の整備 防災教育活動 緊急連絡システムの構築 手話通訳・要約筆記の普及 関連機関とのネットワーク 遠隔情報保障の普及	本部発足	緊急情報の提供	支援情報の提供	情報保障	
				関連団体との連携		
			聴覚障害学生の安否情報集約	聴覚障害学生のニーズ調査	物資支援: 電池・筆談ボード・ランタン等	こころのケアの専門家派遣
					遠隔情報保障	

作成: 宮城教育大学 松崎文准教授(一部抜粋)

14

SAVE JAPAN

スライド 15 拡大図

PEPNet-Japan
For Students Who are Deaf or Hard of Hearing

今後の展開と課題①(災害時の支援)

個々の大学	地域中核大学	PEPNet-Japan等の 団体・機関
安否確認 物資提供(電池等) 緊急情報の提供 被災状況調査 ピアサポート	安否情報の集約 緊急情報の収集・提供 (地域情報の把握 関連団体との連携) 被災状況調査と集約 ピアサポート (聴覚障害学生集団の 形成支援)	安否情報の集約援助 緊急情報の収集・提供 (聴覚障害関連情報の 収集(字幕・手話 放送、文字情報の提 供)) 被災状況調査結果の集 約とニーズ把握 関連団体への呼びかけ 人的・物的資源の提供

災害時を見据えた連絡・連携体制の構築

15

SAVE JAPAN

「震災時に求められる聴覚障害学生支援のあり方とは？」

日本福祉大学 障害学生支援センター長 藤井克美氏

第7回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム
2011/11/6 (日) 筑波国際会議場

**震災時に求められる聴覚障害学生支援のあり方とは？
—東日本大震災後の現状と課題から—**

日本福祉大学社会福祉学部教授
障害学生支援センター長
藤井克美

3・11東日本大震災の日に

○「怖い!怖い!」
⇒「大丈夫、大丈夫」と言って抱きしめてくれた。

○談話室

☆内閣府の記者会見に手話通訳
→日福大生 ツイッターによる文字情報化

(・障害のある子どもたちと遊ぶ
サークル「とよいちご」)

前提として

- 1、常に変化し活動している地球で生活している私たち
 - ・自然とともに
 - ・自然との調和をとり生活している。
- 2、歴史に学び、人災となることを防ぐ
 - ・地震年表 ・地震研究者
- 3、被災地の老若男女のなかに障害のある人もいる
そのなかで聴覚障害のある人の支援を考える

歴史に学ぶ

- ・869年：貞観大地震大津波（東日本大震災に匹敵）
- ・878年：相模・武蔵地震—M7.4、死者多数
- ・887年：仁和地震（南海地震）M8.0~8.5（東海・東南海との連動説もあり）
- ・1944年：昭和東南海地震 —M7.9
行方不明者1223人 伊豆から紀伊にかけ津波
- ・1945年：三河地震 —M6.8 死者行方不明2306人 津波あり

①2011年度障害学生在籍数

	視覚障害	聴覚・言語障害	肢体障害	内部疾患その他	合計
通学制	14(12)	46(41)	53(29)	26(15)	139(97)
通信制	18	10	42	33	103
大学院	1(0)	0	7(0)	0(0)	8(0)
合計	33(12)	56(41)	102(29)	59(15)	250(97)

日本福祉大学の障害学生支援（聴覚）

☆障害学生、一般学生、教職員が「ともに学びあい育ちあう支援」をすすめ「学習弱者を生まない」システム創り=日本福祉大学モデル

☆聴覚障害学生の大学生活日常生活支援（講義保障、情報保障）

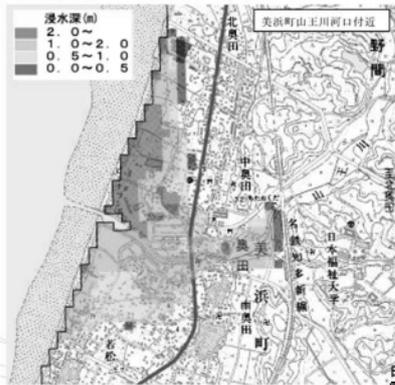
受講上の配慮

- (1) ノートテイカー・パソコンテイカーの配置
- (2) レジューメ・資料のデータ送信 (3) OHC設備の利用 (4) ビデオ教材の字幕付け テープ起こし (5) ビデオモニター設備の利用
- (6) 演習科目の手話通訳者配置
- (7) レポート等の提出方法・提出期限延長

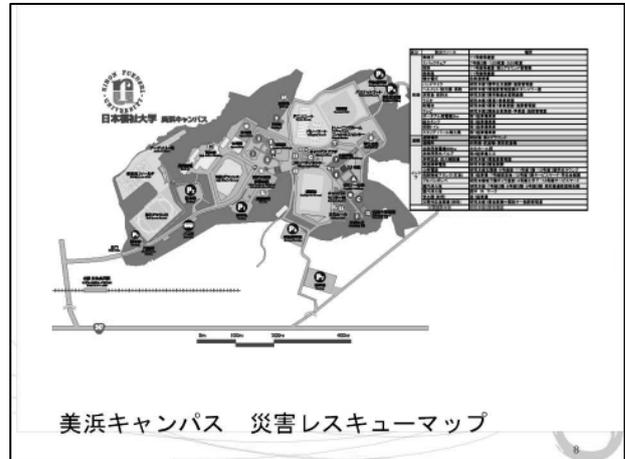
期末試験における配慮

- (1) 会場での配慮（4種類のカードを提示）

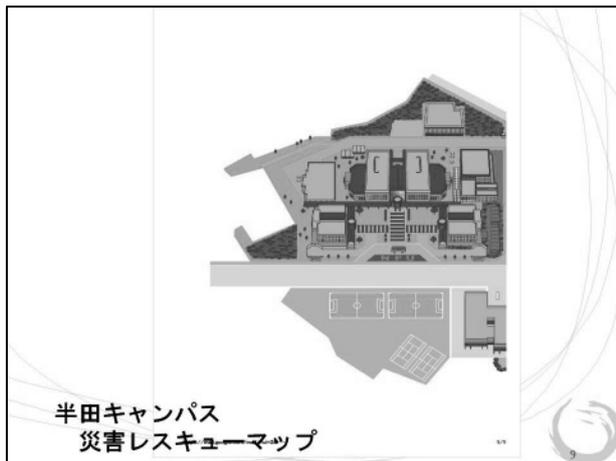
浸水想定図（東海地震）



日本福祉大学大規模
震災対応マニュアル



美浜キャンパス 災害レスキューマップ



半田キャンパス
災害レスキューマップ

大学近隣指定下宿プロット図（GoogleEarth）



安全の日に避難訓練（10月20日）（毎年実施）
今年度は 知多地域大規模地震想定

- ・「全国瞬時連携システム」→美浜町と美浜
キャンパスの災害情報通信システムによる連携
（当日は想定）



避難放送

障害学生支援センターメーリングリストで携帯
メールとツイッターで避難情報送信



安否確認とアンケート回収

タイムトライアル

災害時の避難・防災・減災

- 災害時初動体制と
震災大津波発生時初期の連絡
- ・地震が予知された場合
- ・災害時の電話の利用
- ・「地震予知」なしで地震が発生した場合

地震が予知された場合

東海地震に対しては地震予知の体制が取られています。警戒宣言が発令されると公共交通機関はストップしてしまい、帰宅手段は極めて制限されます。本学では、注意情報もしくは判定会が招集された段階で、自衛消防組織ではない人の帰宅を呼びかけます。なお、判定会が時間外に招集された場合にも、これらの人は自宅待機とします。また自衛消防組織は参集し、地震に備えます。

日本福祉大学大規模震災
対応マニュアル

13

災害時の電話の利用

災害時におけるキャンパス間での緊急連絡・救急救命用に衛星携帯電話を配備しています。電話番号は各電話機に表記してあります。その他携帯電話を含めて、電話の利用は極力控えなければなりません。家族の安否の確認等には、伝言ダイヤルを利用します。171（あの人は、いない）をダイヤルし、伝言の録音の場合は1、再生の場合は2をダイヤルする。

日本福祉大学大規模震災
対応マニュアル

14

2) 「地震予知」なしで地震が発生した場合

想定される東海地震以外では警戒宣言は発令されません。また東海地震でも「予知なし」で発生することを想定する必要があります。就業時間内に突発地震が発生した場合は、先ず出口となるドアを開放し、揺れが収まるまで転倒などの恐れのない頑丈な物の側に身を寄せ、揺れが収まった段階で、ガス・水道・電気等の元栓を閉じた後、上方からの落下物に注意して、各指定避難場所へ避難します。避難場所では必ず安否の確認を行い、自衛消防組織以外の者で、帰宅手段がある者は帰宅します。就業時間外に突発地震が発生した場合は、交通網が復旧するまで自衛消防組織以外は自宅待機してください。

日本福祉大学大規模震災
対応マニュアル

15

復旧



日本福祉大学大規模震災
対応マニュアル

16

災害発生時間帯による防災・減災

- 授業時間帯
 - 学内体制
 - 地域の避難者
 - 災害時の備蓄品・食糧・水等1000人分
1日分
- 授業時間外
 - 下宿先などへの連絡
 - 下宿組合との連携

17

**障害学生支援連携大学との
新しいシステムづくり**

今回の東北地区大学支援プロジェクトの
先進的な取り組みと教訓

18

課題

☆命を守る情報保障：障害学生とりわけ聴覚障害のある学生への情報保障は強調しすぎることはない

☆学ぶ学生を育てる大学の役割と防災減災の主体を育てる防災減災教育

- ・安否確認；大学（自治体）の責任と当事者（相互連携）
- ・想定外 災害は忘れたころにやってくる

☆具体的な防災・減災の計画と日常支援体制



A decorative frame consisting of stylized, symmetrical floral and scrollwork patterns in black, surrounding the central text.

参考資料

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク PEPNet-Japan

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク*（以下 PEPNet-Japan; The Postsecondary Education Programs Network of Japan）は、2004年10月筑波技術大学の呼びかけにより結成された高等教育機関間のネットワークで、これまでに聴覚障害学生を受け入れ、積極的に支援を行ってきた連携大学・機関によって組織されています。設立時には日本財団の助成による PEN-International（聴覚障害者のための国際大学連合）の支援を受け発足しました。現在は、筑波技術大学障害者高等教育研究支援センターに事務局が置かれ、文部科学省特別教育研究経費による拠点形成プロジェクトの一環として事業を展開しています。

本事業の目的は、全国の聴覚障害学生が在籍する大学および関係諸機関間のネットワークを形成し、高等教育機関で学ぶ聴覚障害学生に対する支援体制の確立をはかることで、情報や実践の蓄積と、他大学・機関への発信の2つを目指して活動を行っています。



連携大学・機関

こんな活動をしています。

各種研修会の開催



情報交換会の開催



教材作成・配布



Webによる情報発信



メーリングリスト運営

諸外国の視察調査



運営委員会の開催



これまでの活動

日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

PEPNet-Japan の活動成果をより多くの大学・機関に発信するとともに、全国の支援実践について情報交換をすることを目的に、毎年1回開催しています。また、第4回からは、日頃実践している取り組みをポスター形式で発表し、情報交換を行うとともに関係者の創意工夫やアイディアの斬新さを表彰するコンテスト企画を設けています。

- ・第1回 於：筑波技術大学天久保キャンパス（2005年10月8日）
- ・第2回 於：日本福祉大学名古屋キャンパス（2006年11月18日）
- ・第3回 於：筑波技術大学天久保キャンパス（2007年10月20日）
- ・第4回 於：キャンパスプラザ京都（2008年10月26日）
- ・第5回 於：学術総合センター（東京都）（2009年11月3日）
- ・第6回 於：仙台市情報・産業プラザネットU（2010年11月14日）



研修会・セミナー

支援技術に関する研修会や教職員を対象としたセミナーなどを開催しています。

- ・ノートテイク指導者養成講座（2006年9月24日）
- ・聴覚障害学生支援技術講習会（2010年1月30日） など



諸外国視察

各国で行われている聴覚障害学生支援の状況を学ぶために、アメリカをはじめとした諸外国への視察を行っています。また、その様子を報告書としてまとめたり、報告会を開いたりして、得られた知識・情報の発信にも努めています。



メーリングリストの開設

聴覚障害学生支援に関わる方々同士が様々な情報を共有し、よりよい支援体制を求めて議論していくことを目的として、メーリングリストを立ち上げています。

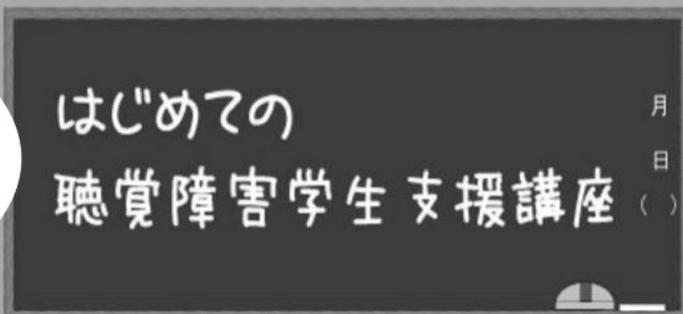


これまでの活動成果

はじめての聴覚障害学生支援講座

Webコンテンツ

はじめて聴覚障害学生を受け入れることになったとき、大学側はいったいどんな準備をすればいいのでしょうか？
ここでは、学内で支援体制を作り上げていくための手順を一から丁寧に解説しています。



【まず知ってほしい基礎知識】

1. 聴覚障害
2. コミュニケーション
3. 聴覚障害学生の大学生活

【情報保障の方法】

1. 手書きによるノートテイク
2. パソコンによるノートテイク
3. 手話通訳

【聴覚障害学生支援の流れ】

1. 本人との面談
2. 支援のための準備
3. 授業における支援
年間業務の例
4. 支援体制の構築

【事例1】早稲田大学の例

【事例2】東京大学の例 など



トピック別聴覚障害学生支援ガイド —PEPNet-Japan TipSheet集



「聞こえないってどういうこと?」「ノートテイクって何?」

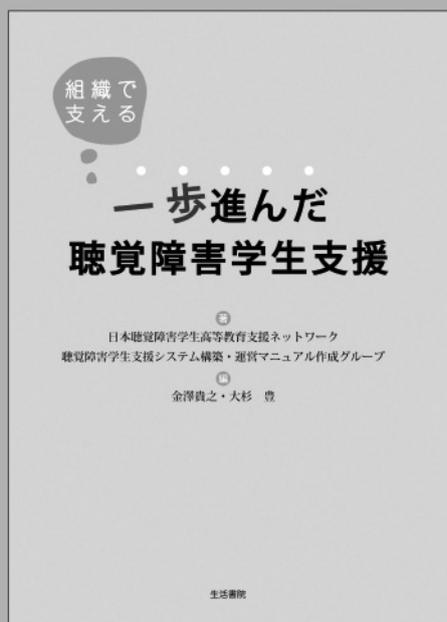
聴覚障害学生支援を実施するためには、意外といろいろな知識が必要となるものです。PEPNet-Japanでは、このような基本知識をトピックごとにまとめ、簡単に参照できるリーフレットを作成し、新たに現在までのトピックをまとめた冊子版を発行しました。冊子版・リーフレットともにご自由に配布していただけるよう Web 上で公開していますので、ダウンロードの上ご活用下さい。



1. 高等教育における聴覚障害学生支援
2. 聴覚障害学生支援の全国的状況
3. 聴覚障害
4. 聴覚障害幼児・児童・生徒を囲む教育環境
5. 聴覚障害教育におけるコミュニケーション方法
6. 情報保障の手段
7. 文字による支援方法
8. 手書きのノートテイク その特徴と活用
9. パソコンノートテイク その特徴と活用
10. 高等教育における手話通訳
11. 手話通訳による支援
12. 通訳者の健康障害とその対応
13. 補聴援助システム
14. 聴覚障害支援におけるコーディネート業務
15. 入学当初のサポート
16. 学期初めのコーディネート業務
17. 聴覚障害学生支援の財源
18. 聴覚障害学生の心理的支援
19. 授業における教育的配慮
20. 音声認識技術による情報保障
21. 支援体制の組織化のプロセス

一歩進んだ聴覚障害学生支援 一組織で支える一

一般書店でご注文下さい。



初めて聴覚障害学生が入学することになった時の対応方法から、入学試験や事前面談の進め方、支援に携わる人材の確保、さらには支援体制の強化まで、具体的な事例やノウハウを盛り込んでまとめたマニュアルブックです。

- 第1章 集団大学の意思決定システムとつきあう
- 第2章 入学前の対応で支援体制づくりを始める
- 第3章 必要な予算とその財源を把握する
- 第4章 支援に関わる人材を確保し適切に配置する
- 第5章 啓発活動で支援体制の可能性を広げる
- 第6章 組織と規程で支援体制の基盤を固める

発行所 株式会社生活書院

DVD シリーズ「聴覚障害学生支援」

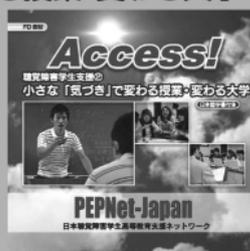
本 DVD シリーズは、大学等の高等教育機関で学ぶすべての聴覚障害学生がバリアを感じることなく、いきいきと大学生活を送ることを願って作成しています。聴覚障害学生にはどのような支援が必要か、聴覚障害学生を受け入れた大学はどのような準備を始めればいいのか、なぜ支援が必要なのかを映像を通して分かりやすく解説しています。

Access!
聴覚障害学生支援①
「学び」を支える大学づくり



初めて聴覚障害学生を受け入れる大学の教職員の方のために、支援の実際と支援体制の立ち上げの基本的な部分をわかりやすく解説しています。大学関係者のみならず、聴覚障害学生支援に関わるすべての方々にご活用いただける1枚です。

Access!
聴覚障害学生支援②
小さな「気づき」で
変わる授業・変わる大学



大学の教員を対象として、どのような点に注意をすれば聴覚障害学生に伝わる授業になるのかを解説するとともに、支援の教育的位置づけや支援による教育効果にも触れています。FD教材としてもご活用下さい。

Access!
聴覚障害学生支援③
「君」から広がる支援の輪
New!



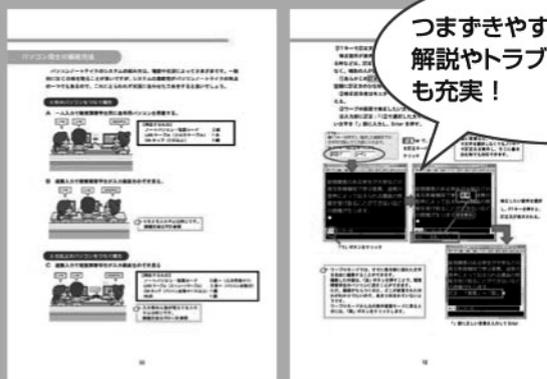
聴覚障害学生を中心に、支援の輪を広げていくにはどのようなアプローチが効果的なのかをドラマ仕立てで描きました。聴覚障害学生のみならず、高等教育機関の関係者の方々や、将来大学への進学を目指している高校生にも広くご活用頂けることを願っています。

やってみよう! パソコンノートテイク

パソコンノートテイク導入支援ガイド



やってみたいけど難しそう・・・そんなパソコンノートテイクに対するイメージを払拭します! 支援を始めるために必要な機器からパソコン同士の接続・設定、入力の基礎までとにかくわかりやすく解説しています。
受講生用テキストとしてご利用頂きたい簡易版も発行しました。



大学ノートテイク支援ハンドブック

一般書店でご注文下さい。

ーノートテイクの養成方法から制度の運営までー



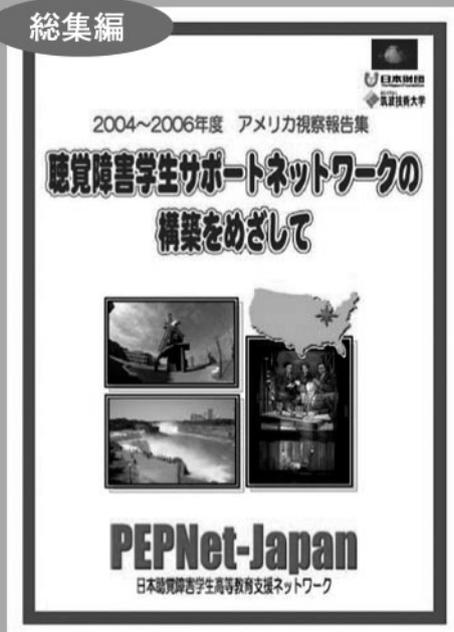
「ノートテイクを養成したいけれど何をどうすれば?」そんな声にお応えするため、養成講座開催の流れから支援者のスキルアップまで、支援の極意を丁寧に解説しています。

- 第1章 ノートテイク養成の必要性とその準備
- 第2章 ノートテイク養成講座のカリキュラム
 - 第1講 聴覚障害学生への理解と情報保障について
 - 第2講 ノートテイクの基本的な書き方
 - 第3講 練習 ステップ①・②
 - 第4講 授業に応じた書き方の工夫
 - 第5講 ルールとマナー
 - 第6講 模擬授業による応用練習
- 第3章 ノートテイク養成後の対応

発行所 株式会社人間社

アメリカ視察報告書

総集編



聴覚障害学生への支援体制を構築していくためには、将来めざすべき姿を見据えておくことも重要です。

これまで PEPNet-Japan が実施してきた第1回～第3回のアメリカ視察調査の結果を1冊にまとめた総集編と、個別のトピックに焦点をあてた4回分の視察報告書特別編を作成しました。最先端の支援事情を知りたい方はぜひ一読下さい。

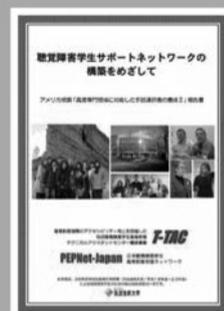
特別編



「先端情報保障技術」



「手話通訳者養成」



「手話通訳者養成II」

その他、ホームページをご覧ください。

聴覚障害学生の支援に役立つコンテンツを多数公開しています。ご興味のある方はホームページをご覧ください。

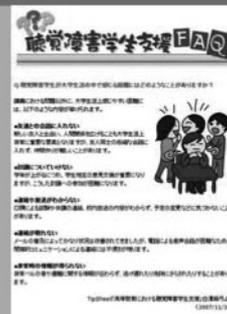


各種研修会資料



これまでに開催した研修会資料はすべてWebにて公開しています。

聴覚障害学生支援FAQ



大学訪問レポート



WWW.PEPNet-J.org

運営組織

代表

村上 芳則 筑波技術大学・学長

運営委員

- | | |
|--------|-----------------------------|
| ○高橋 信雄 | 愛媛大学教育学部・教授 |
| 新國三千代 | 札幌学院大学バリアフリー委員会(人文学部)・教授 |
| 松崎 丈 | 宮城教育大学教育学部・准教授 |
| 高橋 明美 | みやぎ DSC・スタッフ |
| 及川 力 | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・センター長 |
| 石原 保志 | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・教授 |
| 白澤 麻弓 | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授 |
| 倉谷 慶子 | 関東聴覚障害学生サポートセンター・コーディネーター |
| 廣瀬 洋子 | 放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター・教授 |
| 金澤 貴之 | 群馬大学教育学部・准教授 |
| 岩田 吉生 | 愛知教育大学教育学部・准教授 |
| 藤井 克美 | 日本福祉大学社会福祉学部・教授 |
| 真銅 正宏 | 同志社大学学生支援センター・所長 |
| 青野 透 | 金沢大学大学教育開発・支援センター・教授 |
| 林田 真志 | 広島大学大学院教育学研究科・講師 |
| 太田 富雄 | 福岡教育大学附属特別支援教育センター・教授 |

(○は運営委員長)

事務局員

- | | |
|--------|---------------------------|
| ○白澤 麻弓 | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授 |
| 中嶋 靖雄 | 筑波技術大学聴覚障害系支援課・課長 |
| 小林 正幸 | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・教授 |
| 佐藤 正幸 | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授 |
| 三好 茂樹 | 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター・准教授 |
| 河野 純大 | 筑波技術大学産業技術学部産業情報学科・准教授 |

(○は事務局長)

(2011年4月1日現在)



第1回関係者会議



アメリカ視察報告会



シンポジウムの開催



第1回アメリカ視察

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) 事務局

〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

URL <http://www.pepnet-j.org> TEL/FAX 029-858-9438 E-mail pepj-info@pepnet-j.org

担当：白澤麻弓（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター准教授）

※本事業は、文部科学省特別教育研究経費による拠点形成プロジェクト（筑波技術大学）の活動の一部です。

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan) 連携大学・機関 活動紹介

- 札幌学院大学
- 宮城教育大学
- みやぎ DSC
- 東京大学
- 関東聴覚障害学生サポートセンター
- 群馬大学
- 静岡福祉大学
- 愛知教育大学
- 日本福祉大学
- 同志社大学
- 立命館大学
- 関西学院大学
- 金沢大学大学教育開発・支援センター
- 広島大学
- 四国学院大学
- 愛媛大学
- 福岡教育大学
- 筑波技術大学



連携大学・機関

札幌学院大学

●支援組織名称 札幌学院大学バリアフリー委員会
<http://www.sgu.ac.jp/bfc/>

●スタッフ 教職員 14名、学生スタッフ 114名

聴覚障害学生	8名	学部生	8名
		院生	0名
視覚障害学生	1名		
肢体障害学生	8名		

ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコン要約筆記 (IPtalk 使用)、手話通訳 (補助的)		
利用者数	8名	学部生	8名
		院生	0名
ノートテイク数	10年度：前期 40名、後期 40名		
サービス提供時間数	10年度前期→76科目 (NT 33科目, PC 37科目、手話3科目) ×15回 10年度後期→60科目 (NT 31科目, PC 29科目) ×15回		
報酬および経費	770円/時間		
募集方法	掲示板、HPに募集ポスターを掲示、情報ポータルで募集のお知らせ、新年度のガイダンス時にバリアフリー委員会の学生達が手分けして全学部学科に募集説明、活動説明会の開催		
コーディネート方法	バリアフリー委員会テイク統括部が行う。		
養成方法	年間を通して毎週1回程度テイク講習会を実施。新学期2ヶ月間は、毎週数回実施。先輩学生が講師を務める。先輩学生や被テイク者も助言者として参加する。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	先輩学生が後輩学生を育てながら相互に育ち合っている。		

みんなでしゃべり場

札幌学院大学バリアフリー委員会では、講義保障のスキルを高めるテイク講習会・手話勉強会の他に、障がい学生支援について様々な角度から学ぶ取り組みも学生が中心になって行っています。学外から講師を招いて開催する各種講演会がそうですが、地味ながらももう一つ学生たち自身の力を養っているのが、18:30から定期的に開催している「みんなでしゃべり場」というディス



カッションの場です。例えば、「聴覚障がい者が困ること、その時私達にできること、設備などの改善」など、授業保障以外のことについても、自分たちの視点で学び合っています。

設置形態	私立大学
学生数	4,250人
所在地	〒069-8555 北海道江別市文京台11番地

学内支援体制

2001年教職員および学生によりバリアフリー委員会発足。2002年度から障がい学生支援に関わる諸経費を大学予算で対応。現在、全学的組織である「障がい学生支援連絡会議」の下にバリアフリー委員会が置かれている。

手話通訳

利用者数	3名	学部生	3名
		院生	0名
手話通訳者数	4名		
サービス提供時間数	5科目×15回、テイクと併用		
報酬および経費	770円/時間		
募集方法	手話通訳のみの募集はしていない。		
コーディネート方法	バリアフリー委員会テイク統括部が聴覚障がい学生の希望を聞いて、配置する。これまではゼミや演習/実習科目で要望があった。		
養成方法	手話学習会を毎週1回実施。		
本学手話通訳の特徴	テイクの補助手段およびテイク者と被テイク者とのコミュニケーション手段として使用。		

Check!

学生・教職員の協働により委員会を運営している。障がいを抱える学生と支援学生が主体的に企画・運営を担う。

サービス向上を目指して

ノートとパソコン要約筆記のテイク養成講座を先輩が講師となって実施している。数名の先輩や被テイク者達も補助者として参加し、後輩のテイクの内容を個別にチェックしたり、助言している。また、先輩達が作成したテキストを引き継いで改訂しながら継続的にテイク養成の向上を図っている。これらはすべてボランティアである。今後の課題は、テイクの講師や補助者を育てるプログラムを充実させること、講座運営に携わる学生達への相応の待遇を検討することである。

参考資料

札幌学院大学バリアフリー委員会のホームページ (<http://www.sgu.ac.jp/bfc/>) に活動内容を掲載。

問い合わせ先 大学：教務課 教務事務部長
 電話 011-386-8111/FAX011-386-8111
 学生組織：sgu_bfc@sgu.ac.jp

宮城教育大学

●支援組織名称 宮城教育大学 しょうがい学生支援室
<http://shienshitu.miyakyo-u.ac.jp/>

●スタッフ 教職員12名、学生スタッフ110名

聴覚しょうがい学生	9名	学部生	9名
		院生	0
視覚しょうがい学生	1名		
肢体しょうがい学生	3名		
病弱しょうがい学生	6名		

設置形態	国立大学法人宮城教育大学
学生数	1661名(学部生1529名、院生132名)
所在地	〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149番地

学内支援組織図
 支援室———専門部会
 室長 1名 聴覚しょうがい部会
 (学務担当副学長) 視覚しょうがい部会
 室員 9名 発達しょうがい部会
 (専門部会長、指名教員等) 肢体不自由部会
 職員(コーディネーター)
 (必要に応じて配置：現在は2名)
 問い合わせ先
 MAIL:Support-Coordinator@ml.miyakyo-u.ac.jp
 TEL/FAX:022-214-3651

ノートテイク・パソコンノートテイク・音声認識通訳

利用者数	8名	支援者数	110名 (NT110名/PC53名/音声認識32名)
サービス提供時間数	830コマ(2011年前期)	報酬および経費	900円/時間(教育実習、校外活動のみ)
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示、募集用リーフレット配布、学内行事におけるPR映像の放映、新入生への広報(入学時資料に募集リーフレットを同封、入学式の式典前に文字通訳のスクリーンを利用してPR映像を放映)、新入生必修講義におけるPR		
コーディネート方法	コーディネーター2名(教務補佐員)、が連絡調整する。聴覚しょうがい学生及び学生ノートテイクの助言・指導を担当する経験の長い学生と連携を図って適切なコーディネートを行っている。		
養成方法	学生運営スタッフを中心に、初心者対象、経験者対象の研修会を毎月2回ほど実施。		
文字通訳の取組の特徴	本学のしょうがい学生支援を、特別支援教育におけるしょうがい児・者支援の実践に必要な不可欠な知識と実行力の養成として位置づけて活動している点。通常の講義の情報保障は学生の手によって全てがボランティアで行われている。		

手話通訳

利用者数	7名(内教員1名)
手話通訳者数	2~6名(地域通訳者のみ)
サービス提供時間数	オリエンテーション、卒業論文・修士論文発表会等単発的支援のみ
報酬および経費	外部派遣機関の規定による
募集方法	みやぎ通訳派遣センターに依頼。できる限り本学への派遣実績のある通訳者を派遣するよう依頼。
養成方法	担当教員と一緒に事前検討会及び事後反省会。大学で使用する専門用語の手話DVDを作成し、大学レベルの手話通訳者の養成を行っている。

聴覚補償

利用者数	2名
サービス提供時間数	週2コマ
補償方法	①赤外線補聴システム(赤外線ラジエーター《リオン》) ②電波を使った補聴システム(パナガイド《Panasonic》)
補償方法の選択	講義室の状況、講義の形態、個々の使用している補聴器の種類などによって補償を行う。集団討論に対応可能なシステムも構築した。
本学聴覚補聴の特徴	比較的多くの種類の補償方法の中から最適な方法を選択できる点。

映像への字幕挿入

作業者数	37名
サービス提供時間数	2009年度より、講義において使用する映像物への字幕挿入を開始 71本:2686分(2010年度)
報酬および経費	900円/15分映像
募集方法	学内の登録作業者に対して、文字おこしの作業を依頼

Check!

様々な情報保障手段に触れ
 必要な手段を選択する環境整備

本学は、特別支援教育全領域をカバーできる専門教員が揃っており、その専門的人的資源を最大限に活用するために「しょうがい学生支援室」を設立して、しょうがい学生支援体制の充実化を図っている。また、本学は教員養成大学であり、しょうがい学生支援にかかわることで備わるスキルや知識は、卒後教壇に立った時に児童・生徒に対して発揮される力となる。しょうがいの有無にとらわれない自由な学びの場となっている。

また、スマートフォンを用いた遠隔地通訳など、最新技術と接することにも力を注ぎ、講義内容・形態から適切な支援方法を選択できるようにしている。しかし周囲の一方的な支援構築に終始しないように、まず聴覚しょうがい学生のニーズを教育的な観点から評価し、求められる支援技術や対応方法を講じることを出発点とし、そのために聴覚しょうがい専門教員とコーディネーターが随時協議して聴覚しょうがい学生一人ひとりの問題状況の把握と支援の方針を共通確認して実施している。

みやぎDSC

(Deaf Support[Students] Center)

形態	任意団体
所在地	〒981-0908
	仙台市青葉区東照宮1丁目
	17-1-116 高橋方
	FAX 022-233-9571

<ul style="list-style-type: none"> ●創設 2003年4月1日 ●代表 松崎 丈 ●URL http://blogs.yahoo.co.jp/jyohosaposen 	運営スタッフ 11名 (兼務あり)	代表	1名
		事務局	2名
		相談事業	3名
		普及・啓発事業	3名
		養成・研修事業	4名
		ネットワーキング事業	3名

事業内容・実績

相談事業	教職員及び聴覚障害学生対象の相談及びその保護者、関係者等の総合的な相談を行う。	養成・研修事業	聴覚障害学生・支援者・教職員それぞれの対象者に合わせた養成・研修を行う。
普及・啓発事業	教育機関や地域に向けた聴覚障害学生支援に関わる広報活動及び啓発行事の開催。対象者の幅を広げ、中高生・保護者等広範囲を対象とする。	ネットワーキング事業	聴覚障害学生支援関係の団体との情報交換・課題の共有・ノウハウの提供を行う。

みやぎDSCの活動 (2010年度)	<ol style="list-style-type: none"> 相談事業 <ul style="list-style-type: none"> 相談 18件 聴覚障害学生のニーズ調査 1名 養成・研修事業 <ul style="list-style-type: none"> 大学へのノートテイク養成講座 5回 (受講人数 述べ128名) 大学教職員対象の研修 1回 普及・啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> みやぎDSCのホームページ開設 名古屋大学にて聴覚障害学生支援の理念や取り組み内容を講演 ネットワーキング事業 <ul style="list-style-type: none"> 独立行政法人日本学生支援機構との連携で、初心者・経験者対象者の養成 Web プログラムを開発(同機構のホームページで無償提供) PEPNet-Japan、TeamAGS、県内聴覚障害関係団体とのつながりを継続中
-----------------------	--

大学への専門的支援の拠点として

宮城県内の中・高等教育機関で学ぶ、聞こえない・聞こえにくい学生(聴覚障害学生)と中・高等教育機関を支援する専門的組織として、2003年4月1日に「宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター」として設立されました。2009年度より、団体名を『みやぎDSC』と変更し、宮城を活動の拠点に東北地方における中・高等教育機関に所属する聴覚障害学生・支援学生・教職員に対して多角的な支援を行います。(みやぎDSCパンフレットより)

Check!

学生、大学、関係機関、地域とのつながりを活かした支援がウリ!



問い合わせ先：所在地参照

東京大学

●支援組織名称 バリアフリー支援室

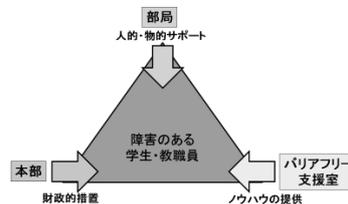
●スタッフ 職員7名（うち手話通訳士1名）

聴覚障害学生		学部生	
		院生	
視覚障害学生			
肢体障害学生			

※学生在籍数の詳細については非公表とさせていただきます。

設置形態	国立大学
学生数	約 28,000 人
所在地	〒113-8654 文京区本郷 7-3-1

学内支援組織図



ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	☑ノートテイク☑パソコン要約筆記		
利用者数	若干名	学部生	
		院生	
ノートテイク数	80名（NT 60名／PC 20名）		
サービス提供時間数	年間約 4,700 時間程度		
報酬および経費	925 円／時間（支援室運営経費）		
募集方法	掲示板への募集ポスター掲示、学部専用 HP での講座開催案内、新入生ガイダンスでの支援室紹介 など		
コーディネート方法	学期開始時に学生、所属学部等担当者との面談を行い、ニーズを確認したうえで授業ごとのサポート内容を検討・調整する。授業開始後も随時サポート内容の確認・再調整を行う。		
養成方法	ノートテイク講座・パソコンテイク講座（各 3 時間）を学期開始時に複数回実施。個別講座やフォローアップ研修、学生のニーズにあわせた追加講座も随時行う。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	学生の履修科目への派遣だけでなく、学内で行われる研究会や各種研修等の場にも、教員・研究者からの依頼を受けて学生テイカーを派遣する場合がある。		

その他の支援

機器の貸出・補聴相談への対応	FM補聴システム、ICレコーダーなどの支援機器貸出を行っている。補聴相談については、学生からの要望を受け、学内外の補聴相談専門家を紹介する体制をとっている。
文字起こし・字幕挿入	講義録音の文字起こし、映像教材の文字起こし・字幕挿入をサービスとして提供している。
シンポジウム等での情報保障支援	学内で開催される学会・シンポジウム等での情報保障全般について、コーディネーターが相談に応じている。主催者（学内関係者）から依頼や相談があった場合は、内容を確認したうえで、適任の手話通訳者や要約筆記者団体、派遣センター等を紹介する他、情報保障依頼にあたっての具体的な対応についても、アドバイスを行う。
入学式・卒業式での情報保障	聴覚障害学生の有無にかかわらず、手話通訳と、PC要約筆記を実施。

Check!

学部等との連携体制

学部等と支援室の連携によるきめ細かい支援

意見交換会・交流会の開催

駒場キャンパスでは学期ごとに障害のある学生とサポートスタッフの意見交換会が開催され、サポートをする立場、受ける立場、それぞれが普段感じていることや、疑問に思っていること、サポートの改善点などについて、率直に話し合う機会となっている。

また、バリアフリー支援室本郷支所では月 2 回、学生・教職員を対象に、手話に気軽に親しんでもらうことを目的とした「手話でしゃべランチ」を開催。学内で働く聴覚障害職員も複数参加し、手話によるミニ講演や質問コーナーなどを通じて交流を深めている。



サービス向上を目指して

学生のニーズの多様化に合わせ、遠隔情報保障などの新たな情報保障手段や、支援技術の導入に積極的に取り組むとともに、学生の心理的負担を軽減し、状況に応じて最適なサポートを提供できるよう、支援室のスタッフは学内外の研修を通じて見識を深め、サービスの向上を目指している。また、東京大学憲章に基づき、修学環境の一層のバリアフリー化にむけて、学生や教職員への理解啓発を進めている。

参考資料

バリアフリー支援室ホームページ
<http://ds.adm.u-tokyo.ac.jp/>

問い合わせ先

E-mail : spds-staff@mm.itc.u-tokyo.ac.jp

関東聴覚障害学生 サポートセンター

- 創設 1984年（創設当初は関東学生情報保障者派遣委員会）
- URL <http://kantou-saposen.main.jp/>

形態	任意団体	
所在地	事務所を持たず、コーディネーターやコンサルタントのノウハウを持ったスタッフのネットワークによって運営。	
運営スタッフ	14名	会計、広報、相談、養成、コーディネーター

事業内容・実績

相談事業1	聴覚障害学生本人及び、支援に当たる大学担当者に対し、相談及び情報提供を行う。2010年度の相談件数は20件程度。聴覚障害学生を初めて受け入れた大学からサポート全般についての情報を求める相談のほか、特別支援学校や社会人からも相談を受けている。
相談事業2 (ろう学生相談員)	これまでも聴覚障害学生からの相談に対しては、サポートサービスを利用した経験の深いろう者スタッフが対応し、心理面のサポートや情報提供にあたってきた。各大学の情報保障体制構築への取り組みは進んでいるが、聴覚障害学生の心理面での支援は不十分で、専門的な支援の必要性が高まってきたことから、メンター機能の充実を図るべく準備をしている。
養成事業	大学からの依頼に応じてノートテイカー養成講座を開催する。事前打ち合わせ、カリキュラム構成、養成後のフォローアップも含めてサポートし、大学独自で養成が担える体制作りを目指す。2010年度3件実施。
通訳者の 紹介・斡旋	大学の支援の一環として依頼に応じて手話通訳者等の紹介、斡旋を行う。 また、地域資源の活用などについてアドバイスを行う。
研修・講師派遣 事業	地域のサークルや大学等の依頼に応じて情報保障者養成及び指導者養成の研修会等に講師を派遣する。2006年度以降は大学職員向け研修も実施。

普及・啓発事業	「聴覚障害者と高等教育」フォーラムの開催や関連誌への寄稿を通して、聴覚障害学生支援の必要性や現状と課題を発信してきた。2006年度以降は企業向け啓発研修の依頼も受けて実施。
ネットワーキング 事業	学生当事者団体や地域の要約筆記・手話通訳グループ、通訳派遣機関等との連携や情報交換を行っている。 PEPNet-Japanの事業にも多くのスタッフが参画している。
「聴覚障害者と高等教育」フォーラムの開催	1997年より年1回、聴覚障害学生支援の先進的な事例紹介や情報交換などを通し、高等教育の将来像を模索するフォーラムを開催。2006年に開催した第9回では、全国から約60名の参加があり、分科会形式で議論を深めた。
研修会の開催	【2011年度緊急活動】 岩手、宮城、福島各県の小中高に通う難聴児および大学に通う聴覚障害学生またその支援者を対象とした活動を開始した。具体的には被災地の聴覚障害学生や支援者の心の支援のためのグループワークの実施等を計画している。その活動の準備として「被災聴覚障害児・学生の状況に関する講演会」を10月に開催した。 この活動は日本財団ROADプロジェクト「東北地方太平洋地震災害にかかる支援活動助成」により実施する。

Check! 聴覚障害学生のニーズを汲んだ、大学の支援体制作りをサポート

長期的な視野で、できることから支援体制づくりを

聴覚障害学生の入試相談と同時に、支援の必要性に気づいて何らかの対応を取る大学が増えてきたことから、サポートセンターでは、一つひとつの大学が支援の経験を培っていくための支援を提供している。入学した聴覚障害学生が卒業するまでの4年間、あるいはその後も長く安定した支援を提供できる体制となるよう、長期的な視野に立ち、その大学に合った方法で少しずつ体制を充実させていくための情報提供や研修活動を行っている。その一方で、情報や支援者の確保を求める聴覚障害学生や保護者からの相談も少なくない。大学間ネットワークと共に円滑で充実した支援を目指すとともに、専門的なノウハウを蓄積してきたスタッフの経験や知識を活かした聴覚障害学生向け相談事業においては、学生の卒業後の支援の方法を検討し新たな体制の充実を図っていききたい。



＜教職員研修会の様子＞

参考資料

- ◇吉川あゆみ・太田晴康・広田典子・白澤麻弓（2001）
「大学ノートテイク入門」人間社
- ◇斎藤佐和監修 白澤麻弓・徳田克己（2002）
「聴覚障害学生サポートガイドブック」日本医療企画
- ◇吉川あゆみ他（2007）
「大学ノートテイク支援ハンドブック」人間社

問い合わせ先

事務局 連絡先 E-mail 上記URL お問い合わせフォームよりお問い合わせください

群馬大学

●支援組織名称 大学教育・学生支援機構
学生支援センター 障害学生支援室

●スタッフ 職員 4名、うち1名はマネージャー（聴覚障害者）

聴覚障害学生	6名	学部生	5名
		その他	院生 1名
視覚障害学生	0名		
肢体障害学生	0名		

設置形態	国立大学法人
学生数	約 6800 人（学部・専攻科・大学院を含む）
所在地	〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目 2 番地

学内支援体制

- ・平成 17 年 6 月 10 日に「群馬大学障害学生修学支援実施要項」を制定。障害学生への支援を全学部で統一行的に行うため、支援の基準を統一化し、全学の予算で対応。
- ・平成 22 年度から大学教育・学生支援機構 学生支援センター 障害学生支援室として新たにスタートした。
- ・現在は障害学生支援室職員がコーディネートを行い、各学部と連携して対応している。

ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	■ノートテイク ■パソコン要約筆記		
利用者数	5名	学部生	4名
		その他	院生 1名
ノートテイク数	登録テイカー 106名		
サービス提供時間数	聴覚障害学生が希望するすべての授業（ゼミや就職ガイダンスなどの大学が実施する各種講座も含む）		
報酬および経費	800円/時間（1コマ1,200円）		
募集方法	学内にポスターを掲示。オリエンテーション等でのチラシ配布や呼び掛け（聴覚障害学生自身の呼び掛けも含む）と定期的な講習会の実施。手話の習得や支援技術の講習を取り入れた講義中の養成。		
コーディネート方法	コーディネートは障害学生支援室職員。テイクは登録学生テイカーが有償で行う。テイカーにはメーリングリストで情報保障の必要な日時等の情報を流し、条件にあったテイカーを配置（基本的に半期固定）。テイカー自身の履修講義と重ならないよう調整する。1講義（90分）にテイカー2名配置。		
養成方法	登録時に講習 7.5 時間を行う。障害学生支援室職員と障害学生支援サークルが講師となり実践練習を含めて行う。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	PC テイクは PC 連係入力ソフト（IPtalk）による 2 名連係入力。ゼミ形式の授業では教員や他の学生も字幕を確認できるよう、モニターやスクリーンを使用。講義以外の実習等、学外での情報保障も行う。		

手話通訳

利用者数	3名	学部生	2名
		その他	院生 1名
手話通訳者数	10名程度（学外への依頼含む）		
サービス提供時間数	聴覚障害学生が希望するすべての授業（ゼミや就職ガイダンスなどの大学が実施する各種講座も含む）		
報酬および経費	職員のため、給与として支給 外部の手話通訳者には、1時間当たり3,000円支給		
募集方法	職員で対応できない場合は、群馬県認定手話通訳者協会と全国手話通訳問題研究会群馬県支部に紹介を依頼。また、ろう者の職員がスカウトすることもある。		
コーディネート方法	障害学生支援室の職員がコーディネートを行う。1講義（90分）に2名配置。		
養成方法	手話通訳終了後は、活動報告書を提出してもらい、問題点の把握で次のよりよい通訳へつなげている。 また、講義で通訳をしている様子をビデオ収録し、それをもとに聴覚障害学生を交えた反省会を定期的に行うことで技術向上に努めている。		
本学手話通訳の特徴	職員が手話通訳業務を担う。		

<その他>

デジタルペン、iPhone などを利用した障害の程度や環境に応じた学生のニーズに対応する情報保障を行っている。

Check!

ガイダンスや事務手続き等、講義以外の大学生生活に関わることについても情報を保障。全学的な統一基準により、どの学部でも質の高い支援体制が可能。

情報保障の充実に向けて

<情報保障サークル「てふてふ」>

聴覚障害学生と学生テイカーの交流と技術向上を目的として、サークルが立ち上げられた。学生同士の交流会のほか、支援室主催のテイカー養成講座にも協力している。

<学生の手話スキルの底上げ>

手話サロン（初級・上級コース）を設け、学生が手話に触れる機会を提供。上級コースに参加し、支援室が独自に作成した選考試験に合格した者は手話サポーターとして手話ニーズのある聴覚障害学生の実技系（体育など）の授業のサポートに入っている。

サービス向上を目指して

学生のテイカーは卒業し入れ替わってしまうので、新規のテイカーの募集にも力を入れている。その際、学生の協力を得て勧誘・紹介をしてもらうなど、学生同士のつながりも大切にしている。ノートテイク、パソコン要約筆記、手話通訳いづれにおいても、技術向上のため、研修会に取り組んでいる。

問い合わせ先

学務部学生支援課
（電話 027-220-7136 / FAX 027-220-7620）
障害学生支援室
（電話&FAX 027-220-7114）

静岡福祉大学

- 支援組織名称 静岡福祉大学学生総合支援センター内
障害学生支援室

- スタッフ 教員6名、職員1名

聴覚障害学生	(注)	学部生	(注)
		院生	
視覚障害学生	(注)		
肢体障害学生	(注)		

注：個々の障害形態と学生数についてはプライバシー保護のため原則として公表していません。

設置形態	私立大学
学生数	690人（2010年10月1日現在）
所在地	〒425-8611 静岡県焼津市本中根549番1

学内支援組織図 学生総合支援センター内
障害学生支援室(各学科教員及び職員より構成)

ノートテイク(手書き)・パソコンノートテイク

提供しているサービス	◎ノートテイク(手書き) ◎ポイントテイク(手書き)※ ◎パソコンノートテイク		
利用者数	(注)	学部生	(注)
		院生	
ノートテイク数	26名(NT 19名/PC 7名)		
サービス提供時間数	週36コマ		
報酬および経費	1,000円/時間(+交通実費)		
募集方法	学内外の掲示板にノートテイク募集案内を掲示。		
コーディネート方法	学生教務課職員が連絡調整を担当し、障害学生支援室が協力。		
養成方法	「パソコンノートテイクの技法」(半期2単位)を開講するほか、本学教員主宰のノートテイク勉強会を開催。		
本学ノートテイク・パソコンノートテイクの特徴	・本学教員が監修した専用ソフト「まあちゃん」を活用。 ・聴覚障害学生にとどまらず視覚障害、肢体不自由学生等も利用する。		

手話通訳

利用者数	(注)	学部生	(注)
		院生	
手話通訳者数	地域の公的派遣制度(公費派遣と本学費用負担派遣を併用)を活用することもある。		
サービス提供時間数	(現在はなし)		
報酬および経費	(公的派遣基準)		
募集方法	市(本人が申込)及び県(大学が申込)に依頼。		
コーディネート方法	学生本人、学生課職員、障害学生支援室長が公的派遣機関に依頼。		
養成方法	(手話通訳の養成はしていない)		
本学手話通訳の特徴	専門用語が頻出する。		

※ポイントテイクとは、聴覚障害以外の障害学生を対象に、板書の筆写、重点項目の筆記等、授業で伝達される情報のうち、ポイントに絞ったノート記録を指す。

Check!

障害学生支援室では、「障害のあるなしにかかわらず、ともに社会参加できる」教育環境を実現するための役割を担います。そうした環境を通じて私たちは、学生が本校を卒業したとき自らに必要な支援とは何か、第三者に説明し、主体的に最適な環境を作り上げていくことができるような方向を目指します。当事者によるセルフマネジメントの力をつけること、それは本学が掲げる「福祉力」の向上にもつながります。

文部科学省科学研究費補助金を活用した支援の構築を計画

文部科学省科学研究費(基盤研究B)を活用し、2009年度から2013年度の5か年を通じ、「高等教育機関における障害学生『情報コミュニケーション』支援システムの構築」(研究代表者:太田教授)を研究課題として実施中である。支援方法であるノートテイクを聴覚障害にとどまらず、視覚障害、肢体不自由を含む障害学生の情報バリアフリーシステムとして位置づけ、障害種別を超えた総合的な支援を模索している。

サービス向上を目指して：障害学生支援の課題の一つは、支援費用の持続的な確保にあります。そこで本学では私立大学等経常費補助金の活用はもちろんのこと、県共同募金会への申請等、さまざまな知恵を絞っていますが、基本的な考え方として公的な保障が欠かせないと考えます。障害のあるなしにかかわらず学習権を保障する方向を誰もが当然のこととして認める社会の到来を心から願っています。

参考資料 <http://www.suw.ac.jp/>

問い合わせ先：静岡福祉大学 事務部入試広報室
TEL054-623-7451 FAX054-623-7453
E-mail siryu@suw.ac.jp

愛知教育大学

●支援組織名称 障害学生支援ワーキンググループ (WG)
情報保障支援学生団体「てくてく」・教務課

●スタッフ WG 教員 5 名・「てくてく」スタッフ、教務課職員

聴覚障害学生	2 名	学部生	2 名
		院生	0 名
視覚障害学生	1 名		
肢体障害学生	0 名		

パソコンテイク・ノートテイク

提供しているサービス	パソコンテイク・ノートテイク		
利用者数	2 名	学部生	2 名
		院生	0 名
ノートテイク数	6 8 名 (講義担当 2 2 名、他の学生は DVD・ビデオ等の字幕付けの担当)		
サービス提供時間数	週 1 6 コマ (すべて PC テイク)		
報酬および経費	3 0 0 0 円 / 1 コマ (9 0 分) (支援学生 1 名につき 1 5 0 0 円支給。各講義 2 名配置。)		
募集方法	(PC) 新年度のガイダンス等で、全学的に有志の学生を募集している。 (NT) 専門性を必要とする英語・第二外国語・数学・理科等の講義は、関係する講座の教員に専門性の高い学生を推薦・紹介してもらっている。		
コーディネート方法	学生コーディネーターが、聴覚障害学生のニーズを把握し、各種配置、コーディネート業務を行っている。		
養成方法	週 2 日 (月・木)・昼休みを利用して、連絡および研修する場を設けており、年数回、休日に練習会を開催している。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	携帯連絡システムによる情報交換・中間・事後報告会等の実施を重ねながら、量的・質的向上を図っている。		

聴覚障害学生の充実した学生生活の支援

- (1) 情報保障学生団体「てくてく」の活動 全学的に 5 2 名の学生が支援活動に係わり、聴覚障害学生とともに学内の支援に関して情報交換・研修を行っている。
- (2) 他大学の支援活動 東海地区の大学より要請があれば研修会を開催し、本学の支援活動のノウハウを紹介している。
- (3) 様々な聴覚障害学生の支援
 - 1) 講義の情報保障 ノートテイク、パソコンテイク、手話通訳による支援が、聴覚障害学生のニーズに応じて実施されている。
 - 2) 講義以外の情報保障 入学式・卒業式などの各種行事、各種実習、ガイダンス時の情報保障も実施している。
 - 3) 教育実習での配慮 聴覚障害学生の小学校教育実習は、附属小学校又は通常小学校での実習を、県内聾学校の小学部実習に振り替えることができる。

設置形態	国立大学法人
学生数	4363 名 (学部 3949・大学院・389・専攻科 25)
所在地	〒448-8452 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1 (名鉄本線「知立駅」より名鉄バス 20 分)
学内支援組織図	聴覚障害学生 ↓ ↑ 支援学生団体「てくてく」・障害学生支援 WG 教員・教務課 ↓ ↑ 情報保障者、事務職員 (学生支援部-教務課・学生支援課、キャリア支援課・入試課、財務部-施設課)

その他の支援

学外手話通訳者の派遣	授業の形態によって、週 1~2 コマ程度、学外手話通訳者の派遣を依頼している。(パソコンテイク・ノートテイクとの併用も可能。10000 円 / 1 コマ (90 分)、通訳者 1 名につき 5000 円支給。2 名配置。)
視聴覚教材の字幕作成	講義で視聴覚教材を使用する場合は、事前にメディアを借り、字幕付けの作業を行っている。
音声認識システムを用いた支援学生の負担軽減	市販の音声認識ソフトウェアを、主に視聴覚教材の文字起こし作業に利用している。
式典、各種説明会での情報保障	各典や、大学が主催する講義以外の各種行事 (教務ガイダンス、オープンキャンパスなど) で、主にパソコンノートテイク・手話通訳による情報保障を行っている。
無線 LAN を用いた離れた場所での情報保障	講義中、支援学生が聴覚障害学生の隣にいることは、聴覚障害学生にとって心理的な負担となる。そのため、基本的に、教室内の離れた場所で、入力支援を行っている。

Check! 学生のノートテイク・パソコンノートテイク、学外手話通訳者による情報保障

サービス向上を目指して

- ・聴覚障害学生は、特別支援学校教員養成課程に在籍しているため、同課程内の聴者の学生の各種支援に関する問題意識が高いこと等、恵まれた環境にある。
 - ・情報保障者が担当できる時間帯などに制約があり、一部の学生に作業が集中するといったことが生じている。
- 課題を整理し、よりよいサービスを目指していきたい。

参考資料 「愛知教育大学 障害学生支援ガイド」
「愛知教育大学 聴覚障害学生の情報保障 教員用ガイドブック」
「愛知教育大学 保障団体『てくてく』リーフレット」

問い合わせ先 注) ①情報教育講座、②障害児教育講座
① 高橋 岳之 e-mail: take@aeucc.aichi-edu.ac.jp
② 岩田 吉生 e-mail: yiwata@aeucc.aichi-edu.ac.jp

日本福祉大学

- 支援組織名称 日本福祉大学障害学生支援センター
URL <http://www.n.fukushi.ac.jp/shiencenter/index.htm>
- スタッフ センター長1名 センター教員1名、
専任職員1名、委託職員2名

聴覚障害学生	56名	学部生	46名
		院生	0名
		通信	10名
視覚障害学生	33名		
肢体障害学生	102名	その他59名	

設置形態	私立大学
学生数	5444人（院生、通信を含むと12,794人）
所在地	〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田

学内支援組織図

障害学生支援センターは全学学生支援機構の一機関
障害学生支援センター運営委員会（各学部の教員、教務・就職関係職員、学生生活センター職員で構成）

ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	■ノートテイク ■パソコンテイク		
利用者数	37名	学部生	37名
		院生	0名
ノートテイク数	ノートテイク 116名 パソコンテイク 29名		
サービス提供時間数	169コマ/週（2011年前期）		
報酬および経費	ボランティア（奨励金支給）		
募集方法	入学当初のオリエンテーションやボランティア論等の講義で聴障学生が呼びかけ。各自が掲示板に募集ポスターを掲示。障害学生支援センターのボランティア登録者へ依頼。		
コーディネート方法	聴覚障害学生自身が直接依頼するか、障害学生支援センターからボランティア登録者へ依頼する。		
養成方法	ボランティア基礎講座（外部講師） ノートテイク相談会、ボランティア講座（学生主催）、サークルによる練習など。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	複数の聴覚障害学生が受講している場合は、OHCを利用。設置は障害学生支援センターで実施。経験ある学生と障害学生が学生スタッフとして、運営・指導に協力。		

ともに考える支援

障害学生支援センターの設置	学習支援や生活支援の方法は、障害学生・支援学生・教職員が一緒に考えます。 障害学生の生活から、ボランティア活動支援まで、障害学生支援センターがさまざまな相談に応じています。
入学式での手話通訳者設置	入学式、卒業式、全学的な講演会、受講ガイダンスなどで設置
磁気ループの敷設	大講義室の全教室（1～5号館）、1101教室、文化ホール、図書館AVホール、半田キャンパス101教室
字幕	講義に利用するVTRについて、学生サークル「くまじ」が字幕付けソフトを利用して字幕を付けている。字幕が間に合わない場合には、ボランティア登録学生が分担して、音声文字化し、プリントアウトして障害学生に渡す。
手話通訳派遣事業	2010年度から、2・3年生の希望者のゼミへ、年15回まで派遣。

支援サークルの活動

学生が「ともに学び、ともに育つ」

- ・点訳サークル「にゅーてんてん」…講義資料等の点訳
 - ・音訳サークル「ふきっこ」…資料の音訳、読み聞かせ
 - ・字幕づけ「くまじ」…教材VTRの字幕づけ
 - ・パソコンテイク「PCT」…パソコンテイク
 - ・学生スタッフ…ノートテイク初心者の指導、機材のセッティング、ボランティア講座への協力、ボランティア団体の連携支援
- ※聴覚障害者団体や視覚障害者団体も、障害学生支援センターの事業に協力しています。

参考資料

障害学生のためのキャンパスガイド、
障害学生支援センター年報（当センター発行）

問い合わせ先

日本福祉大学障害学生支援センター
TEL: 0569-87-2432 FAX: 0569-87-2376
Email: support-c@m1.n.fukushi.ac.jp

同志社大学

設置形態	私立大学
学生数	28,428人(2011年5月1日現在、大学院生含む)
所在地	【京田辺校地】 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 【今出川校地】 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入

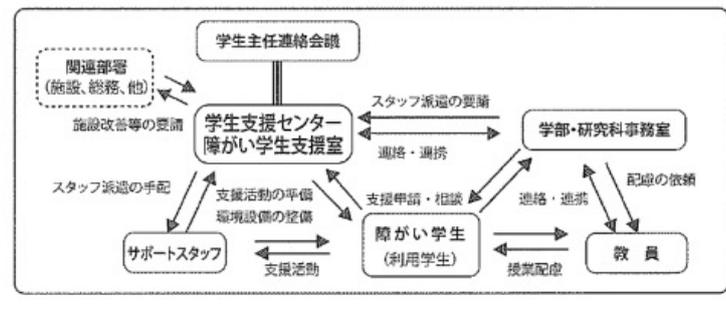
●支援組織名称 障がい学生支援室(事務局:京田辺校地学生支援課)
URL <http://challenged.doshisha.ac.jp/>

●スタッフ 職員6名(うち手話通訳者1名)

聴覚障がい学生	44名
視覚障がい学生	7名
肢体障がい学生	22名
内部障がい学生	13名

*その他 重複障がい学生 4名

学内支援組織図



ノートテイク・パソコン通訳

提供しているサービス	ノートテイク (NT)、パソコン通訳 (PC)		
利用者数 (聴覚)	制度登録	学部生	7名
	7名	院生	0名
ノートテイク者数 パソコン通訳者数	2011 春スタッフ登録 272名 2011 春活動者 99名		
サービス提供時間数	2011 春学期: 週 95 コマ (NT コマ/PC コマ) ※東北支援 10 コマ/週含む		
報酬および経費	880~1,320 円/時間 (大学経費)		
募集方法	入学時説明会・掲示板・立看板・HP・学生支援課企画の映画や大型ビジョンによる募集		
コーディネート方法	障がい学生支援室のコーディネータが障がい学生の相談窓口となり支援スタッフの募集・養成・派遣・相談等調整を担当。障がい学生在籍学部事務室を始め全学的に入学前から連携をとり対応。		
養成方法	前期、後期にノートテイク・パソコン通訳事前勉強会・入門講座を継続的に開催。その他、随時希望があれば対応。		
本学ノートテイク・パソコン通訳の特徴	学期前面談により、利用学生のニーズに合わせた講義保障を提供。学期末に懇談会の実施。学際科目として夏期集中講義「心のバリアフリー」をめざして一障がい学生支援を起点として一を開講 (単位付与)。		

ビデオ文字起こし・字幕付け

利用者数 (聴覚)	制度登録	学部生	7名
	7名	院生	0名
字幕付け数	11本 (2011年春学期実績)		
報酬および経費	880/時間 (大学経費)		
募集方法	入学時説明会・掲示板・立看板・HP・学生支援課企画の映画や大型ビジョンによる募集		
コーディネート方法	障がい学生支援コーディネータが窓口となり、利用学生および担当教員の依頼に応じて対応。字幕付け専用ソフト・PC有。		
養成方法	勉強会を適宜実施。		

手話通訳

手話通訳についても対応しております。入学式・卒業式・クリスマス燭火讃美礼拝は、聴覚に障害のある学生・ご父母のため、手話通訳を必ず実施しております。

Check!

全学的な組織による講義保障!
(学生同士の関わりの中で育む制度)

コミュニケーション・デバイトの克服

障がい学生のみではなく、支援スタッフにも着目し、学生同士の関わりの中で自然に手をさしのべられるような大学を目指す。

具体的な場の設定・・・2011年度

- ・ランチタイム手話勉強会
聴覚障がい学生を囲みランチをとりながらの勉強会
- ・Challenged キャンプ (2泊3日 石川県)・・・2011年度
障害のある学生と共に、聞こえない・音を出さない・暗闇・車いす等の体験を通し、サポートするされるという枠を超えたキャンプ
- ・「こころのバリアフリー」を考える一共に生きる社会をめざして一 (複合領域科目)

主として聴覚障がい学生の講義の実際を理解し、「コミュニケーションのバリアフリー」をキーワードとして、障がい学生と支援するスタッフ双方の気づきに着目しながら、自律的な成長の実現を目指す。

サービス向上を目指して

約 28,000 人の学生が在学している中で、障がい学生支援スタッフは約 1% という状況である。合格者の第一次手続き者への郵送物に「障がい学生支援制度—案内パンフレット—」を封入し、全教職員に「障がい学生支援制度—教職員のためのガイド—」を配布しているが、もっと身近な取り組みとしてサポートを行えるよう、啓発していかなければならない。また、障がい学生の就学支援についてもキャリアセンターと共に取り組んでいる。

参考資料

障がい学生支援制度—案内パンフレット—

問い合わせ先

学生支援センター 京田辺校地学生支援課 障がい学生支援室
tel 0774-65-7411 fax 0774-65-7024

立命館大学

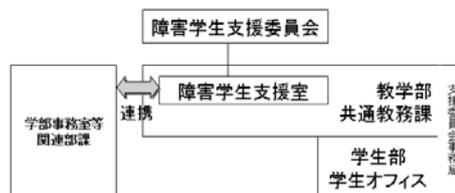
●支援組織名称 立命館大学障害学生支援室

●スタッフ 専門契約職員1名、学生スタッフ80名

聴覚障害学生	9名	学部生	8名
		院生	1名

設置形態	私立大学
学生数	35,915人
所在地 (法人本部)	〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀1

学内支援組織図



ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコン要約筆記、手話通訳、ループ使用等		
利用者数	2名	学部生	2名
		院生	0名
ノートテイク数	50名		
サービス提供時間数	週25コマ		
報酬および経費	800円/時間(1コマあたり2時間)		
募集方法	講習会を開催し、受講者のうち希望者をスタッフとして登録。専門性の高い授業の場合は教員・学部事務室を通して募集。		
コーディネート・養成方法	障害学生支援室にてテイク講習や連携練習を実施。学部・語学など属性に合わせてコーディネート。その際、学生コーディネーターが活躍している。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	ノート・パソコンテイクだけでなく、教員、受講生への配慮依頼、席の配置、機器の使用などを組み合わせて、最適な方法を追求している。		

その他の支援

入学式・卒業式での配慮	希望に従って、手話通訳、車椅子の誘導、ガイドヘルプなどを配置。
視覚障害学生の授業支援	教材加工、映像解説、試験時の点訳・墨訳等
肢体不自由学生の授業支援	ポイントテイク(ノート作成)、介助、定期試験時の配慮等
専用パソコン室の設置	肢体不自由学生用(音声入力ソフト・トラックボールマウス等)、視覚障害学生用(音声読み上げソフト、点訳ソフト、点字プリンタ、拡大読書器)の機器を設置、支援室開室時に使えるように整備。
学生ルームの設置	学生スタッフの活動拠点となる学生ルームを障害学生支援室横に設置。障害学生との交流の場としても活用されている。
教員への配慮文・手引きの配布	授業担当教員に配慮文・手引きを配布し、随時障害学生支援室にて教員のサポートを行っている。
講習会開催	ノート・PCテイク、介助等の講習会を年10回以上開催。

Check!

全学受付窓口の設置

障害学生・支援学生スタッフ・教員・職員の一貫相談受付窓口設置(障害学生支援室)

学生スタッフ

立命館大学では、従来からボランティアとして障害学生を支援してきた学生と、各種講習会に参加した学生が中心となって、障害学生の支援を行っています。

特徴としては、学生のコーディネーターが、シフト組みや障害学生・支援学生のメンターの役割を担い、チームを組んで支援を行うなど、学生同士の関係構築に力を入れています。

障害学生と、学生スタッフ両方の成長につながる仕組みづくりに取り組んでいます。

取り組み

★ 各種講習会の実施
ガイドヘルプ講座、PC・ノートテイク講座、映像解説講座など

★ 密な連絡体制
ミーティング、メーリングリストなどで活動状況を把握、連絡体制を取っています。



参考資料

HP <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/drc/>

問い合わせ先

立命館大学障害学生支援室
Tel 075-465-1952 Fax 075-465-1982
E-mail drc@st.ritsumei.ac.jp

関西学院大学

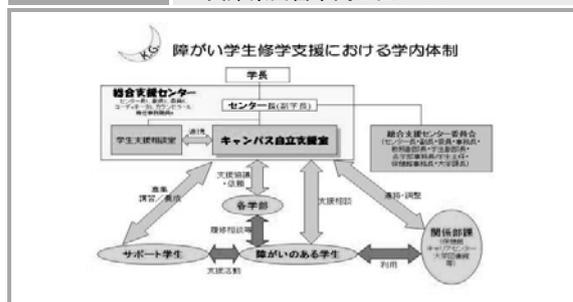
● 支援組織名称 ・総合支援センターキャンパス自立支援室
http://www.kwansei.ac.jp/university/university_003952.html

● スタッフ 職員8名（うちコーディネータ3名）

センター委員8名

聴覚障害学生	10名	学部生	9名
		院生	1名
視覚障害学生	9名（学部生5名 院生4名）		
肢体障害学生	14名（学部生10名、院生4名）		

設置形態	私立大学
所在地	(西宮上ヶ原キャンパス) 〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155 (神戸三田キャンパス) 〒669-1337 兵庫県三田市学園2-1 (聖和キャンパス) 〒662-0827 兵庫県西宮市岡田山7-54



ノートテイク・パソコンテイク

提供しているサービス	<ul style="list-style-type: none"> ■ノートテイク ■パソコンテイク 				
利用者数	5名 <table border="1"> <tr> <td>学部生</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>院生</td> <td>0名</td> </tr> </table>	学部生	5名	院生	0名
学部生	5名				
院生	0名				
ノートテイク数	195名（字幕付けスタッフ含む）				
サービス提供時間数	2011 秋学期 週 60 コマ				
報酬および経費	1000 円/時間				
募集方法	募集ポスター・チラシ・立て看板・教学WEBサービスにより募集。すでに参加している学生による口コミも活用。				
コーディネート方法	コーディネータが、ノートテイクの配置・連絡・調整を担当。MLを活用し、代理テイクの確保・連絡等を行っている。				
養成方法	ノートテイク養成講座（6時間）を学期開始前に実施（聴覚障がい学生や先輩テイクが講師として協力）。中間ミーティングで各授業支援方法を見直し、改善案をその学期に活かす。				
本学ノートテイク・パソコンテイクの特徴	パソコンテイクは、パソコンテイク2人に手書きサポート1人を加えた3人体制で実施している。授業の情報保障では、パソコンテイクはIPTALKを使用せず、WORDに単独入力し、10分程度で相手テイクと交替する方式。講演会など、行事の情報保障では、IPTALKを使用することもある。学期末にはアンケートを実施し、毎学期末ごとに意見交換会の場を持ち、制度運営の見直しを行う。				

その他の支援

カウンセラーとの連携	総合支援センター学生支援相談室のカウンセラーと合同で事例検討会を開催するなど、連携して障がい学生支援を行っている。
手話通訳	講演会などの学内行事に、必要に応じて手話通訳者を配置する。2011年度は研究演習科目（ゼミ）にも配置している。
キャリアガイダンス等各種行事への手話通訳・ノートテイク・パソコンテイクの派遣	障がい学生から依頼があった場合は派遣する。
電磁誘導ループ	大教室を中心に設置している。
ビデオ文字起こし・字幕付け	年間 74 本 (2010 年度)
学生フリースペース	支援センター事務スペースに隣接して学生の交流スペースを設置。言語科目として日本手話を選択履修している支援学生もおり、時折、手話によるコミュニケーションが見られる。
聴覚以外の障がい支援	発達障がい、視覚障がい、肢体障がい等、学生の困り具合に応じて個別対応を行っている。

Check!

建学の精神に基づいた全学的支援

大学の掲げるミッションステートメントと障害者支援基本理念に根ざし、全学的な支援体制をとっています。総合支援センター委員会には 40 名以上の教職員が集まって、支援基本方針等を審議します。

参考資料

関西学院大学（総合支援センターキャンパス自立支援室）

<http://www.kwansei.ac.jp> → キーワード「修学支援」で検索

問い合わせ先

総合支援センターキャンパス自立支援室
 西宮上ヶ原キャンパス
 〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155
 電話：0798-54-7034 FAX 0798-54-7044
 E-mail:jiritsu-nuc@kwansei.ac.jp
 神戸三田キャンパス
 〒669-1337 兵庫県三田市学園2-1
 電話：079-565-7903 FAX 079-565-7929

金沢大学 大学教育開発・支援センター

●支援組織名称 大学教育開発・支援センター
http://www.rche-kanazawa-u.jp/

●スタッフ 教員5名（専任職員0名）

聴覚障害学生	0名	学部生	0名
視覚障害学生	0名	院生	0名
肢体障害学生	1名		

設置形態	国立大学法人
学生数	10,405名（平成22年5月1日現在）
所在地	〒920-1192 石川県金沢市角間町

障害学生支援委員会
教育担当副学長（委員長）
大学教育開発・支援センター長
保健管理センター長
学生部担当課長他

ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコンノートテイク		
利用者数	0名	学部生	0名
		院生	0名
ノートテイク数	0名		
サービス提供時間数			
報酬および経費	950円／1時間（学生部予算）		
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示。学内ポータルにおける募集。ランチオンセミナー（昼食時に開催）にて、説明会。		
コーディネート方法	共通教育科目（教養科目）に関しては共通教育学務係が、専門科目に関しては聴覚障害学生の所属している学類学務係が担当。		
養成方法	学外の講師によるノートテイク養成講座（障害学生支援委員会主催）を年度末に開催。支援学生がいる場合には、前期にも実施。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	近隣の他大学から依頼を受けて、ノートテイクによる派遣の実績有り		

その他の支援

入学式での手話通訳者設置	学外組織に依頼
磁気ループの敷設	
字幕デコーダーの設置	

Check!

多様な障害に対する、研究に基づく
有効な支援方策を学内外に提言

トピック

センター企画の1年前期共通教育科目「学生と大学システム」（自由履修）において、15回のうち2回、聴覚に障害のある社会人を手話通訳付きで講師としてお願いしている。授業情報保障が無かった大学での学生生活を振り返っていただき、聴覚障害学生にとって、大学での授業は情報保障がなければ、理解は不可能であることを語ってもらっている。

ノートテイクを、担当時間数に応じて、学長表彰および副学長表彰の対象者として推薦している。

学校教育学類の障害児教育担当教員との連携を図っている。

サービス向上を目指して

支援対象となる聴覚障害学生がここ6年間入学していないため、支援の方法について学生間での継続ができず、コーディネート担当職員についても移動により、ノウハウの蓄積が期待出来ないところに問題がある。数年前、日本学生支援機構の援助を得て、大学コンソーシアム石川加盟高等教育機関におけるノートテイクプール制度構築の試みを行ったが実現しなかった。

問い合わせ先

教育支援システム研究部門 担当：青野
aono@sgkit.ge.kanazawa-u.ac.jp

広島大学

- 支援組織名称 アクセシビリティセンター
- スタッフ センター長1名、教員3名、情報支援コーディネーター2名、事務系職員2名、ティーチングアシスタント4名、学生インターン20～30名、実習受講生60名程度

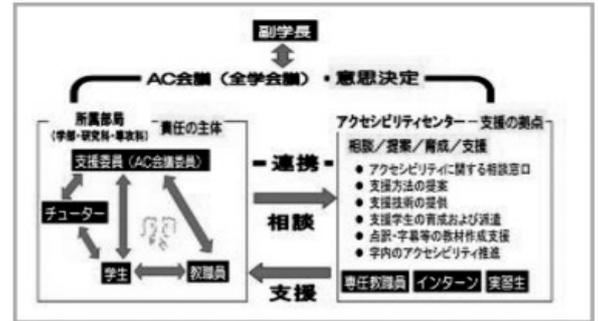
聴覚障害学生	3名
視覚障害学生	4名
肢体障害学生	6名
その他	4名

ノートテイク・パソコン要約筆記

募集方法	教養教育科目「障害学生支援ボランティア実習 A, B (以下、実習)」を開講/アクセシビリティセンター (以下、ACHU) でインターン(※AL 資格取得者)を採用。※AL:アクセシビリティリーダー
コーディネート方法	当該部局をACHUが支援。ACHUは、実習生、インターンの派遣コーディネートを行う。
養成方法	アクセシビリティ関連講義(教養教育4科目:実習、概論、研究)の中で、筆記通訳、要約筆記の方法を指導。派遣のニーズに応じて、ノートテイク講習会を開催。ACHUで技術相談・ケアを行う。
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	●学内の支援活動を行う授業(実習)を開講。●AL育成プログラムによる人材育成●代筆と筆記通訳の組み合わせにより、3つのタイプのテイクを実施。●リスピーク通訳等、遠隔通訳との組み合わせを試行●USBサブモニターの導入。

Check! 入学前から卒業まで、育てる支援
全学体制、学生教職員一体型の授業支援

設置形態	国立大学
学生数	約15000人
所在地	〒739-8511 東広島市鏡山一丁目3番2号



その他の支援

音声認識技術を活用した教育支援	●講義音声の字幕化: 音声認識技術を活用して、音声字幕付教材を作成(講義音声+字幕+プレゼン画面)。講義終了後、音声字幕付教材をWEB配信。 ●リスピーク方式による、リアルタイム音声字幕化を試行。
卒業式での手話通訳	必要に応じて実施。
ビデオ教材の字幕作成支援	字幕台本を作成し、事前配布。教材によっては動画への字幕付与を行なう。
筆談ボードの設置	各学部の学生窓口に設置。
障害学生への窓口対応パンフレットの配布	各学部の学生窓口、保健管理センター、図書館の職員へ配布。
補聴システムの設置	赤外線・FM・有線補聴システムを活用。
学生情報システム(ホームページ)での情報提供	シラバスに視聴覚教材情報の詳細(ビデオ本数、時間)を提示。
手話講習会・要約筆記講習会の開催	年2回(前期と後期に各1回)実施。
アクセシビリティリーダー育成	<教育課程><資格認定>およびAL資格取得者を対象とした<研修合宿><インターンシップ>で構成される、人材育成・活用プログラム「AL育成プログラム」を実施。学内と地域で、資格取得者のインターン制度(ALI)を展開し、開かれた支援・修学環境のユニバーサルデザイン化を図る。

アクセシビリティリーダー育成プログラム

年齢や障害の有無、言語や文化の違い等の多様性に関わらず、誰もが社会の利便性を享受でき、多様な可能性を開拓できる社会をリードする人材「アクセシビリティリーダー」の育成を推進。

産学官連携の育成協議会を設立し、人材育成と人材活用を社会に開かれた形で展開。



サービス向上を目指して

- ①知る機会、学ぶ機会の拡充
「オンラインアクセシビリティ講座」の配信
全学研修会、各種講習会の開催
- ②教育・人材育成の一環として、以下の科目を開講
「障害者支援 ボランティア概論」
「障害学生支援 ボランティア実習 A, B」
「環境情報アクセシビリティ研究」
- ③ユニバーサルな教育支援方法の開発
次世代の教育支援方法を積極的に模索(音声認識活用など)

問い合わせ先
アクセシビリティセンター
TEL 082-424-6324, E-mail achu@hiroshima-u.ac.jp
URL <http://www.achu.hiroshima-u.ac.jp/>

四国学院大学

●支援組織

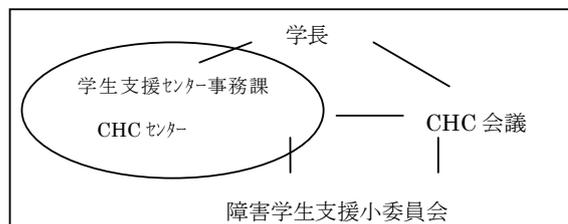
四国学院大学人権と文化の多様性に関する委員会 (CHC)

●スタッフ CHC 委員 13名(うち学生5名) 職員1名

聴覚障害学生	19名	学部生	37名
		院生	0名
視覚障害学生	2名(2名とも肢体と重複)		
肢体障害学生	18名		

設置形態	私立大学
学生数	1391人
所在地	〒765-8505 香川県善通寺市文京町 3-2-1

学内支援組織図



ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	□ノートテイク□パソコン要約筆記		
利用者数	15名	学部生	15名
		院生	0名
ノートテイク数	35名 (NT 19名/PC 16名)		
サービス提供時間数	週 63 コマ (NT 22 コマ/PC 41 コマ)		
報酬および経費	670 円/時間 (ノートテイク経費)		
募集方法	新入生オリエンテーションで、障害学生支援制度を紹介。また掲示板に募集ポスターを掲示するなどしている。		
コーディネート方法	学期初めに利用者の登録を確認後、CHCでリンクージュ作業を行っている。新入生には、入学当初からオリエンテーション期間中も仮のサービスを実施している。		
養成方法	ノートテイク小委員会に属する先輩テイクによるテイク講習会の実施、および外部団体から講師を招き、PC要約筆記の講習会を行い、テイク技術の向上を目指している。(夫々、年2回程度実施)		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	最近ではテイク数が減り、あまり実施できていないが、受講生多数の科目や式典の要約筆記などは、IPトークを行うなど、複数利用者への対応も柔軟に行っている。		

手話通訳

利用者数	7名	学部生	7名
		院生	0名
手話通訳者数	2名(プロの手話通訳士に依頼)		
サービス提供時間数	週 2 コマ~3 コマ程度		
報酬および経費	5250 円/時間 (ノートテイク経費)		
募集方法			
コーディネート方法	学期初めに利用者の登録を確認後、必修、選択必修の順に受講者数の多い科目や、4年生の演習等にCHCが調整を行い派遣している。		
養成方法	教養科目の語学講義に前期に日本手話Ⅰを2クラス、後期に日本手話Ⅱを2クラス設けている。		
本学手話通訳の特徴	講義のみならず、学内行事においては、入学式、卒業式、各種講演会など手話通訳の配置が常態化している。		

Check!

毎年マイノリティ・ウィークや人権週間を実施。各種講演会や行事で人権啓発を行っている。

人権啓発に取り組んでいます。



サービス向上を目指して

本学の障害学生支援制度におけるノートテイク・サービスは、登録学生が授業の空き時間を利用して実施している。

そのため、学部学科、メジャーを超えて広く登録者を募らなければ、偏りなく十分なノートテイクを提供することが難しい。どのようなPR方法でノートテイクを増やすか、興味を持ってもらえるかが、目下の課題である。

問い合わせ先 四国学院大学

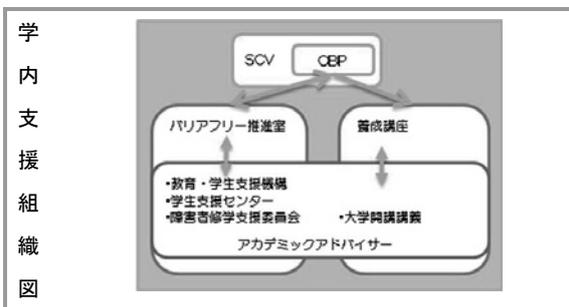
教学事務部学生支援センター事務課内CHCセンター
TEL0877-62-2111(内線423) e-mail:chc@sg-u.ac.jp

愛媛大学

設置形態	国立大学法人
学生数	9763人(大学院生・研究生含む)
所在地	〒790-8577 愛媛県松山市文京町3

- 支援組織名称(スタッフ数) バリアフリー推進室(4)
- 教育・学生支援機構 学生支援センター(5)
- 障がい者修学支援委員会(10)
- 障がい学生支援ボランティア(Campus Barrier-free Promoters)(14)

聴覚障がい学生	4名
視覚障がい学生	2名
重複障がい学生	1名(大学院生)
肢体障がい学生	6名
発達障がい学生	1名



ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	<ul style="list-style-type: none"> ■ノートテイク ■パソコンノートテイク ■板書ノートテイク ■ガイドヘルプ
ノートテイク数	90名(NT 88名/PC 59名)
サービス提供時間数	1人週 15コマ程度
報酬および経費	900円/時間(障がい学生支援経費)
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示。入学式などで活動紹介。
コーディネート方法	バリアフリー推進室の非常勤職員3名が支援分担を調整している。利用学生と支援学生の調整を行い、できる限り専門性、経験のある学生を配置している。ノートテイクは1人の利用学生に対して2人つく事を原則としており、一方を経験者にするなど、よりよい情報保障が提供できるよう心がけている。
養成方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 共通教育障害者支援ボランティアⅠ(障がい全般の概論 28コマ)。 2. 共通教育障害者支援ボランティアⅡ(ノートテイクのスキルアップを目的とした講義 15コマ) 3. バリアフリー推進室開講基礎講座(随時開講)
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	障がい者修学支援委員会とCBPによる運営。給与等の資金は大学が提供。

その他の支援

入学式・卒業式の情報保障	パソコン要約筆記と手話通訳を用意している。
字幕システム	講義等で使用する映像資料に字幕がない場合、字幕挿入ソフトを使用して字幕を入れている。
盲ろう学生への支援	盲ろう学生・肢体不自由学生向けの電子資料作成を行っている。
アカデミックアドバイザー	学外からの専門委員として学生と教職員のFDを担当し、様々な問題解決にあたっている。
スチューデント・キャンパス・ボランティア(SCV)の協力	学生ボランティア(SCV)は9つのグループより構成されており、その中の障がい学生支援ボランティア(CBP)が支援活動を担っている。また、必要に応じて他団体の連携も行っている。
支援機器の貸し出し	視覚障がい、聴覚障がい、肢体障がい、広汎性発達障がい等、多様なニーズに対応する生活支援機器の紹介及び貸出、フィッティングを行っている。

Check!

学生と教職員によるコラボレーション
学生ボランティアの主体的な活動が力に!

現状と今後の課題

- 愛媛大学の特色は、大学組織である障がい者修学支援委員会・学生支援センター、バリアフリー推進室・支援学生(SCV)のグループであるCBPによる、多方向からの支援が挙げられる。
- バリアフリー推進室とCBP代表者の会議を基に、支援学生がそれに基づいた活動を展開している。利用学生や支援学生の意見を大きく反映するとともに、双方の学生の育成に貢献することを目指している。
- 障がい者修学支援委員会メンバーは、関係学部から議題に応じて対応出来るよう、専門教育者を中心に構成されている。
- 非常勤職員がコーディネート業務を担当するようになり、CBPの負担は軽減された。その分、支援学生に対してノートテイクなどのスキルアップ体制に力を入れられるようになった。
- CBPの顧問は、専門の教職員が担当。
- 幅広い障がい学生に対応できる支援システム構築に向けて、大学全体で取り組んでいる。

サービス向上を目指して

- バリアフリー推進室、学生支援センター、障がい者修学支援委員会、CBPの協働体制を強固にし、より充実した支援体制の確立を目指す。
- 利用学生、支援学生の問題点に早急に対応できるように、報告書の提出を義務化し、迅速なフィードバックが行えるようにする。
- 利用学生と支援学生同士の自由な意見交換ができる環境を提供する。

参考資料

- バリアフリー推進室ホームページ
URL: <http://www.ehime-u.ac.jp/section/bfree/index.html>
- CBPのホームページ「はぐるぐ」
URL: <http://haguhaguchn.blog52.fc2.com/>

問い合わせ先 バリアフリー推進室

TEL: 089-927-8114 FAX: 089-927-9171
E-Mail: bfree@stu.ehime-u.ac.jp

福岡教育大学

●支援組織名称 障害学生支援室

●スタッフ 室長、コーディネーター1名(非常勤)、事務職員1名

聴覚障害学生	公表せず	学部生	
		院生	
肢体障害学生	公表せず		
その他	公表せず		

設置形態	国立大学法人
学生数	学部 2871 人、大学院 211 人
	専攻科 23 人、臨時教員養成課程 2 人
所在地	〒811-4192
	福岡県宗像市赤間文教町1-1

学内支援組織図

ノートテイク・パソコン要約筆記

提供しているサービス	ノートテイク、パソコン要約筆記		
利用者数	3名	学部生	3名
		院生	0名
ノートテイク数	43名 (NT 26名/PC 43名)		
サービス提供時間数	利用者が希望するすべての授業		
報酬および経費	760円/時間 (共通経費)		
募集方法	掲示板に募集ポスターを掲示。		
コーディネート方法	障害学生支援室と学生とが連絡調整を担当。		
養成方法	ノートテイク入門講座・スキルアップ講座を実施。		
本学ノートテイク・パソコン要約筆記の特徴	タブレットPCを導入し、無線でのテイクを実施		

その他の支援

入学式・卒業式での手話通訳者設置、字幕提示	有り(手話通訳士の資格を持つ教員が対応。字幕は学生による支援)
磁気ループの敷設	なし
聴力検査、補聴器の調整	言語聴覚士の資格を持つ教員が対応
FM補聴器の貸出	FM補聴器4台を準備

Check!

聴覚障害教育専攻があるため、専門的知識・技術を持つ学生が多い

トピック

- 最初の支援は昭和51年度入学生から
- SCS研修を利用して、国内の他機関との情報交換を行ってきた。
<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~tomiohta/scsshien.htm>
- 国内外の先進的取り組みを行っている機関を5ヶ国20ヶ所以上訪問し情報収集に努めてきた。FD報告書として発行
「高等教育における障害のある学生への支援」(H19,3) など
<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~dohira/FD/>
- 中学や高校に在籍する聴覚障害児への支援について、福岡高等聾学校在籍者が2005年より行っている「聴覚障害学生情報サポート講習会」に実施協力している。今年度は遠隔情報保障(筑波技術大学の協力による)を使用して熊本聾学校と中継を実施。
- ノートテイクを学んだ学生が、小学校や中学校の通常学級で学ぶ難聴児への情報保障にもボランティアで通っている。
- 日本学生支援機構の「障害学生修学支援ネットワーク」の拠点校にも選ばれている。今年度は「実習科目、外国語科目における聴覚障害学生への支援」についての委託研究で福岡大学と共同で研究
- 筑紫女学園大学、福岡大学の支援学生と合同研修会、合同合宿を実施。FKCフレンズの名前で活動

サービス向上を目指して

- ・授業担当者による視覚的情報や資料の準備がかなりの程度なされており、ノートテイクというよりも配付資料に補足説明等を書き込むことが多いが、より理解しやすい提示法や説明を行えるようにFD研修を実施したい。
- ・支援対象の授業の既履修者にノートテイクになってもらえるようにし、より容易に内容理解ができるようにしたい。
- ・聴覚障害学生への支援と配慮についての解説用DVDを試作し30人以上の教員に視聴してもらい、効果や問題点を分析。
- ・支援組織や人材を充実させたい

参考資料

FD報告書(H14, H15, H16, H17, H18, H19, H20)

問い合わせ先

障害学生支援室 TEL 0940-72-6062,
佐藤亜弥 havefun9@fukuoka-edu.ac.jp

聴覚障害者のための 産業技術学部

聴覚障害者の教育と研究にアプローチします

聴覚障害者を対象とする高等教育機関として、教育を通して聴覚に障害がありながらも社会の各分野においてリーダーとして貢献できる人材を育成し、障害者の社会的地位を向上させるとともに、技術革新が進む情報社会の中で十分に活躍し、社会全体の環境整備に貢献できる専門職業人を育てていくことを目的としています。

これらの目的を達成するため、聴覚障害者の持つ能力・適性が十分に発揮でき、職域の開拓に実績と将来性のある「技術」、「情報」、「環境」及び「デザイン」の領域を中心に、芸術、技術、情報面から、聴覚障害者の教育と研究にアプローチします。



聴覚に障害がある人を対象とすることから、第1に自身の聴覚障害を十分に理解するとともに、情報授受障害を克服するための情報リテラシー及びコミュニケーション能力の向上を図ります。第2に充実した幅広い教養教育により、豊かな人間性を育て、生涯にわたって学習するための基本的資質とリーダーとして活躍しうる社会人としての基本的素養を身に付けます。第3に整備された情報環境を基盤に、学生の適性と能力、産業領域に応じた履修のモデルコースを提示することにより、情報化、国際化の進展に柔軟に対応できる能力、そして、個性に合った高度の職業技術・知識とその応用能力を備えた産業技術の「プロフェッショナル」を育成します。



産業技術の「プロフェッショナル」を育成します

筑波技術大学 保健科学部

国立大学法人 筑波技術大学 保健科学部では、視覚に障害のある学生が学んでいます。

現代社会は技術革新や情報化・国際化が急速に進んでいます。私たちは、視覚障害者を対象とする高等教育機関として、それらの変化に柔軟に対応できる専門的医療技術者および情報技術者の養成を目指すとともに、健康や福祉に貢献できる専門家を育成します。

保健科学部は、保健学科と情報システム学科の2学科から構成され、保健学科は鍼灸学専攻と理学療法学専攻の2専攻から構成されています。

教科書は点字や拡大版など、様々な形態で提供されます。触図は立体コピーや点図プロッタなどを使って作られます。また図書館や教室には、拡大読書器を設置して弱視学生が自由に本を読むことができるようになっています。

教科書の作成については、主に障害者高等教育研究支援センターが担っています。点字の教科書を作るのには専門的な知識が必要のため、地域の点訳者の育成を目的とした公開講座の開講なども行なっています。

コンピュータを使うためには、スクリーンリーダーという画面を読み上げるソフトウェアや点字ディスプレイ、画面拡大ソフトウェアなどを用います。電子化された教材とコンピュータ、そしてネットワークを利用することで、いつでもどこでも勉強ができる環境を用意しています。

保健科学部

保健学科

鍼灸学専攻 20名
理学療法学専攻 10名

情報システム学科 10名

定員



障害者高等教育研究支援センター

—聴覚障害系 / 授業の特色—

聴覚に障害のある学生への情報保障に配慮した授業のための教育方法を研究開発しながら、それらを用いて、学生の多様な知識とものの見方・考え方の涵養と、健康づくりを支援しています。

専任教員による授業では、教員自身が手話を用いることにより、学生と直接的なコミュニケーションをとっています。教員と学生との間のバリアのない意思の疎通は、他大学ではみられない特色です。



手話を用いない非常勤講師による授業には、ボランティアによるパソコン要約筆記がつきます。中でもドイツ語、フランス語などの第二外国語が15人以内の少人数で、字幕つきで受講できることは大変恵まれています。

高等学校までの学習が不十分な学生のためには、放課後や土曜日のチューターによる指導があり、英語・数学・物理などの復習を個人指導に近い少人数で受けることができます。このための費用の学生個人負担はありません。



障害者高等教育研究支援センター

—聴覚障害系／円滑なコミュニケーションを支援—

本学では、障害による学習上の困難を出来るだけ解消することと、授業に当たってより効果的な教育方法を採用することが必要です。そのために、先端技術を応用し、学習効率の向上を目指した障害補償機器やソフトウェアの開発、既存のシステムの評価等を行っています。

また、聴覚活用・手話・発音といったコミュニケーションに関する指導と支援、そして学外支援も行っています。

コミュニケーション能力に関するサポート



聴力に合った補聴器の
フィッティングや相談



希望者にはスピーチに
関するサポートも



手話の学習をサポート

工学技術によるサポート



ビデオコンテンツへの字
幕挿入で学習をサポート



学内広報システムや緊急
時の警報システムで学生
生活をサポート



速記入力などによる各種字幕提示
システムで授業をサポート



になつていきたいと思いま
す。
私は現在、日本学生支援機構の理
事長をしておりますが、この機構
は日本全国の国公私立すべての大
学に在籍する学生の皆さんの生活
を支援する国の中核的機関、ナ
ショナルセンターであります。
大きく分けますと、3つの事業を
行っております。
第1は



**聴覚障害学生支援に関する
実践事例コンテスト
発表内容紹介**

パソコンによる字幕の自動要約を利用した情報保障

背景と目的

●背景

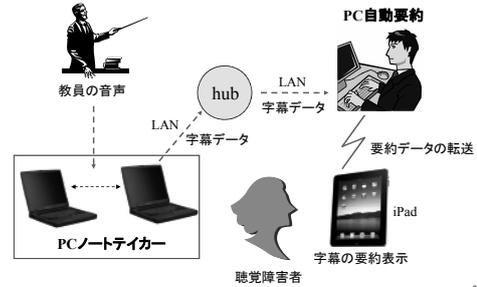
- 従来から、情報保障としての字幕は全文表示して欲しいという要求と理解度の点から内容を要約して表示して欲しいという2つの要求がある。しかし、文章の要約は要約者に依存するところが大きく、文章の意味を理解して迅速に要約して提示することは難しい。この課題の解決方法を提案する。

●目的

- PCノートテイクの文章をパソコンで自動要約して迅速に提示するシステムを開発し有効性を検証する。

2

システム系統図



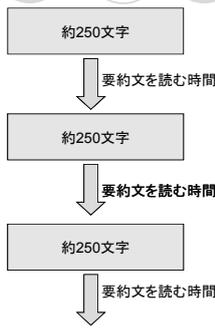
6

字幕の要約提示方式の概念

<PCノートテイク出力>



<要約率50%提示方式>



9

実験機器の構成



7

PCによる自動要約の一例

要約率50%の例

原文(500文字)

東京・中央区、築地市場のマグロの競りは外国人観光客にも人気がありますが、震災で建物の一部が壊れ壁材などが落下したため、一般の見学会が中止されました。建物の修復も終わったことなどから、26日朝、震災から4か月ぶりに見学会が再開されました。午前5時から、外国人観光客をはじめ40人ほどが集まり、競りが始まると仲買人らの動きを興味深そうに見つめ、並べられたマグロを写真に撮ったりしていました。夏休みの自由研究で訪れたという親子は「日本独特のもので、外国の方にも見てもらいたいです。復興も一步一步進んでいるのかなと思います」と話していました。オーストラリアから来た男性は「震災で世界中の人が日本を応援しています。マグロの競りが見られなくなったのはとても残念だったので、再開されてよかったです。朝早くから来たかきがありまして」と話していました。東京都によりますと、震災のあとは築地市場を訪れる観光客も少なくなっていたということですが、少しずつ以前の活気を取り戻していきたいと話しています。

要約文(250文字)

マグロの競りは外国人観光客にも人気がありますが、震災で一部が壊れ壁材などが落下したため、見学会が中止されていました。午前5時から、外国人観光客をはじめ40人ほどが集まり、競りが始まると仲買人らの動きを興味深そうに写真に撮ったりしていました。自由研究で訪れたという親子は「日本独特のもので、外国の方にも見てもらいたいです。復興も一步一步進んでいるのかなと思います」と話していました。あとは観光客も少なくなっていたということですが、活気を取り戻していきたいと話しています。

(NHKニュース文より)

要約完了まで約1秒

8

まとめ

- PCノートテイクによる文章を50%の文字数に自動要約して聴覚障害学生が表示端末に無線LANで提示できるシステムを構築した。
- PC自動要約は約1秒で終了し、オペレータの操作を含め要約文の提示は約10秒で完了。
- 50%に要約された文章を一括して表示できるため、時間的に余裕をもって読むことができる。視覚疲労が軽減され健聴者にも有効。

10

問い合わせ先

日本工業大学 工学部 情報工学科 磯野春雄

Mail: isono@nit.ac.jp

URL: <http://leo.nit.ac.jp/~isono/>



明治学院大学 学生サポートセンター

1 day for Others

～ノートテイク入門～



1 day for Others とは、1日ボランティアやインターンシップを通して社会貢献活動に関心を持つことを目的としたものです。明治学院大学の教育理念である“Do for Others～他者への貢献”に基づいて開催されました。学生サポートセンターでは、「学内でできるボランティア」として「ノートテイク入門」を企画し、聴覚障がい学生と学生ノートテイクが中心となって参加しました。

† ゲーム †

コンセプトは、「耳が聞こえないとはどういうことなのか」を疑似体験する、というところにあります。しかし、実際に聞こえない体験をすることは出来ないので、ゲームを通して耳が聞こえない、聞こえにくい人が声に頼らずにどのようにコミュニケーションをとっているのか体験してもらいました。

† ノートテイク入門 †

実施日：2011年10月15日（土）
 13：30 始めの言葉
 自己紹介
 13：50 ゲーム
 （伝言ゲーム・何でもバスケット）
 14：45 ノートテイク・
 聴覚障がい学生からの挨拶
 14：50 ミニレクチャー
 15：30 終わりの言葉

† 明治学院大学の 情報保障 †

明治学院大学では、授業での情報保障を中心に聴覚障がいのある学生への支援に取り組んでいます。現在、①手書きによるノートテイク、②パソコンノートテイク、③手話通訳、④教材(DVD)の文字起こしを行っています。これらの情報保障は、学生が中心となって地域テイクの協力を得てすすめており、毎年春と秋にノートテイク講座とパソコンノートテイク講座を開催しています。現在、聴覚障がい学生が4名在籍しており、登録学生テイク78名でサポートしています。

† ノートテイク入門 企画の経緯 †

1 day for Others は、そもそも学生が企画・運営していく行事で、この「ノートテイク入門」も聴覚障がい学生とテイク学生が中心となり企画したものです。企画会議には10名以上の学生が携わり、「ノートテイクとは何か」を分かりやすく伝える方法について話し合いを重ねました。その結果、「講義形式ではなく、体験形式で進行する」「学生に親しみのある内容の例文(AKB48)でレクチャーをする」など、学生の目線から「ノートテイク」を少しでも身近に感じられるよう工夫しました。



† ミニレクチャー †

参加者に「ノートテイク」とは以下のようなものであると説明し、実際に例文を用いて体験してもらいました。
 ●自分でとる授業のメモとは違い、単語だけでなく流れとして授業内容を掴むことが出来る
 ●周りの学生が「今」笑っている理由が分かる

【お問い合わせ先】

明治学院大学 学生サポートセンター E-mail: gakuapo@mguad.meijigakuin.ac.jp
 TEL: 03-5421-5182 (白金) 045-863-2211 (横浜)

千葉大学 ノートテイク会

新入生会員の効率的な育成って何だ??

現在、

- ・登録支援学生 43 名
上級生 21 名 / 新入生 22 名
コーディネーター 1 名
- ・利用学生 2 名
授業 21 コマ/週 (前年度 1 コマ/週)

21 倍!

上級生の役割

- ・急激に増えたコマ数の NT
- ・たくさんの新入生の指導
- 効率の良い指導方法の検討が必要
 - ・少ない時間で育成
 - ・現場で学び、即戦力

実践の中で、即戦力を養う新入生向けの特別研修を実施

① 3人体制の NT

上級生と新入生 (NT の基本は練習済) のペア + 補助の上級生の形で実際の授業 NT を実施

- ・実践と同じ環境での研修
- ・情報保障の質を維持するために補助を投入

- ・実際の授業 NT の現場で練習することで不安の軽減
- ・ピンチの時には上級生による補助や交代が可能

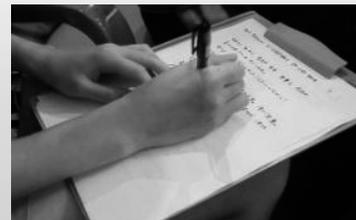
3人体制の課題

- ・補助がいることでかえって関係入力で混乱してしまうことがあった
- ・補助の役割が統一されておらず、個人差があった
- ・補助役の人が新入生のスキルを評価できるとよい

現場の空気を知ることで技術面・気持ちの面での向上、早期のデビューを目指す!

◎新入生からの感想

- ・補助の先輩がいて、不安が軽減された
- ・PC の準備方法を分かっている上級生が 2 人いて安心



② 映像資料の字幕作成

新入生同士でペアになり、事前に借りた授業映像資料の字幕テキストを作成

- ・聞か→打つという作業に慣れる
- ・IPtalk での字幕テキスト利用方法を学べる
- NT 会に必要な実作業と育成を同時に実現

③ 各種講習会

IPtalk やその他無線機器等に関する講習会で新入生による NT の実施。

- ・授業や練習会以外での NT の機会を増やす。
- 議事録の作成と育成を同時に実現



これらの 3 人体制、字幕作成、講習会などを 3 回程度行えば NT デビュー可能に!

短期間、少人数でも新入生の育成が可能

今後の目標

NT 利用者の数、新入生の数により、NT 会の運営は大きく変化するため、柔軟な体制作りが必要!

- ・昨年度: 利用者が少なすぎる場合の体制の実現
- ・今年度: 利用者が多く、新入生も多い場合の育成体制の実現

今後は……

どのような状況になっても、育成に関する体制を整え、NT の技術を維持、改善していきたいと思っております!



問い合わせ先

千葉大学ノートテイク会 (info@ntkai.skr.jp)

代表: 酒井 香奈, 副代表: 丸山 耕平, 児玉 祐規子



愛媛大学 障がい学生支援ボランティア(CBP)

CBPの活動を、我々がマスコットキャラクター「はぐ太郎」が(伊予弁で)紹介します!

障がい学生への支援、やりよるけん!

●支援活動

- ・聴覚：ノートテイク
PC ノートテイク
- ・視覚：板書ノートテイク
- ・肢体不自由：ガイドヘルプ

支援学生の募集もやっとなよ!

●基礎講座

- ・ノートテイク基礎講座
- ・PC ノートテイク基礎講座
- ・ガイドヘルプ基礎講座
- ・手話基礎講座

支援学生に講座で教えよんよ!



もっと仲良くなりたけん♪

・「意見交換会」

学期終わりに年2回、障がい学生、支援学生、CBPで「意見交換会」開催! 日ごろの支援活動について、意見交換するんよ~

・手話ランチ

週1回、手話だけで交流する「手話ランチ」。楽しいけん!

・他大学との交流

みんなも遊びに来てや!



学内のバリアフリー化に奮闘中!

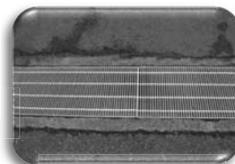
長期休暇を利用して、学内のバリアフリー調査をしよんよ。

調査した内容は、「学生代表者会議」を通じて学長まで提言!

承認された内容は、見事改善!
毎年がんばっとるけん♪



車いすの前輪が!!



見事改善!!



広報もがんばっとんよ!

- ・広報誌「はぐはぐ通信」
- ・CBP ブログ「はぐろく」
<http://haguhagucbp.blog5.fc2.com/>
- ・PEPNet-Japan 参加
その他にも、いろんな活動やっとなけん!



問い合わせ先

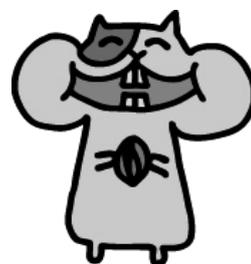
愛媛大学教育学生支援部バリアフリー推進室 担当：石田(肢体)・太田(聴覚)・村上(視覚)
連絡先 TEL：089-927-8114 FAX：089-927-9171 Mail：bfree@stu.ehime-u.ac.jp
HP：http://www.ehime-u.ac.jp/section/bfree/index.html

愛媛大学 バリアフリー推進室

Google ツールを使ってコーディネート！？

愛媛大学では、Google の様々なツールを活用して障がい学生支援を行っています。

講義で支援が必要な障がい学生は、全員 Gmail のアカウントを取得し、コーディネーターとのやりとりは Gmail や Google Calendar を中心に行います。



支援申請

- ・履修登録後、支援が必要な講義（全15回）の日程をGoogle Calendarに入力。
- ・Google Calendarの連絡欄に、希望する支援の種類等を入力。

調整

- ・Google Calendarの情報を元に、コーディネーターが支援学生を募集・調整。
- ・（できるだけその講義の専門に合った支援学生を配置できるよう配慮。）

決定通知

- ・支援学生の調整がついた講義から、コーディネーターがGoogle Calendarの連絡欄に支援学生の情報（氏名・学部・回生）を入力。
- ・障がい学生は、随時自分の支援情報を確認。

その他支援

- ・休講や補講等の変更がある場合、障がい学生がGoogle Calendarを修正の上、Gmailからコーディネーターに変更連絡。
- ・長期休暇中に行われる集中講義に関しても、Google Calendarを通じて調整。

Q コーディネーターにとってのメリットは何ですか？

A 大量のメールのやりとり無く、常に最新の情報を発信・受信することができます。また、Google Calendar を用いることで複数の障がい学生の受講状況を同時に確認できるため、効率的なコーディネートが可能です。その他、必要に応じて学内の無線 LAN を使用し、Google Talk のチャット機能で講義中の緊急連絡や事務連絡を行っています。

Q 障がい学生にとってのメリットは何ですか？

A 自分の講義支援の情報を、パソコンやスマートフォンからいつでも確認することができるので便利です。これらのツールの使い方は、障がい学生ミーティングで行う ICT 力の向上練習を通して身につけていきます。支援の申請方法やメールの書き方なチャットソフトの使い方等、社会に出るときに必要な力を養うことができます。

問い合わせ先

愛媛大学教育学生支援部バリアフリー推進室 担当：石田（肢体）・太田（聴覚）・村上（視覚）
連絡先 TEL：089-927-8114 FAX：089-927-9171 Mail：bfree@stu.ehime-u.ac.jp
HP：http://www.ehime-u.ac.jp/section/bfree/index.html

愛知教育大学

情報教育講座 高橋 岳之
特別支援学校教員養成課程 稲垣 吉朗
障害児教育講座 岩田 吉生
障害児教育講座 都築 繁幸

情報保障者支援 ～遠隔支援システムを利用した自由度の高い支援環境を目指して～

東日本大震災の支援を行っている中で、支援者が一カ所に集まらなければならない、といった制約を解消することを目的として、遠隔支援システムの構築を行った。このシステムを利用することで、離れた場所にいる支援者どうしで連携入力を行ったり、以前からの課題となっていたパートナーとの練習環境を提供することができるようになった。

※ システムを構築するにあたっては、長野サマライズセンターで利用しているシステムを参考にさせていただきました。

遠隔支援システムの概要

このシステムは、VPNや音声配信、ITBCサーバなどを1台のサーバ内に構築し、本学内に設置している。

インターネットに接続しているパソコンがあり、そのパソコンから本システムにアクセスを行うことで、離れた場所にいる支援者同士でも連携入力などを行うことができ、支援に参加できる。

・事前の準備

このシステムを利用する前に、事前にIptalk、VPNソフト(UT-VPN)、および音声配信ソフトの3つのソフトウェアをパソコンへインストールする。

・利用開始手順

支援などで実際にシステムを利用するときには、VPNソフトを起動し、サーバに接続、その後、Iptalk を起動する。ネットを経由して音声配信する場合は、音声配信ソフトも同時に起動する必要がある。

遠隔支援システムを用いた支援

・聴覚障がい学生側

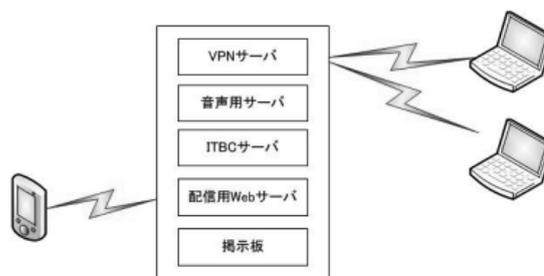
- ・ iPhone などにより、音声を送り、その画面に支援情報を表示する。
- ・ ネットに接続されたパソコンを使って音声を送信、Iptalk,上に支援情報を表示する。

・支援者側

支援者がそれぞれVPNを利用してサーバに接続する。音声を音声配信サーバを経由して受け、Iptalk に入力し支援を行う。

・連携入力の練習

サーバ上に保管されている模擬授業データを流したり、一方の支援者から音声データを流したりして、それを聴きながら連携練習を行う。このとき、他の支援者がその入力を観察し、連携入力に対するコメントを行うこともできる。



遠隔支援システム構成

遠隔支援サーバ

・サーバの特徴

- ・ 1台のPC上に仮想化ソフトウェアを用いてサーバを構築している。そのため、導入コスト、および電気代などのコストが少なく済んでいる。
- ・ 各サーバの情報をイメージで管理しているため、保守に負担がかからない。
- ・ Windows PCを直接ネットに公開しなくてもよい。
- ・ Webによる閲覧の場合、多人数(理論的には、100人以上)での同時接続が可能となっている。
- ・ クローズの掲示板での情報共有を可能としている。

・利用ソフトウェア

OS: ubuntu 10.04, Windows XP SP3
VPN: UT-VPN 1.
音声配信: mumble 1.2.3
情報配信: ITBC v2.40 a11, apache2
掲示板: NetCommons 2.1
文字入力: Iptalk 9t56

問い合わせ先

愛知教育大学 情報保障支援学生団体「てくてく」 連絡先(e-mail: tekuteku@t.ics.aichi-edu.ac.jp)

年度	H16	H17	H18 H19	H20	H21	H22	H23	聴覚障害学生	情報保障に入る手話通訳者
職員状況	2名(全国で初めて手話通訳者を職員として雇用)	3名	(不在)※手話通訳ニーズなし	6名	4名	4名(うち1名はろう者)	(同左)	手話通訳ニーズをもつ学生は、3名(6名中)。	通訳者協会などの団体に仲介をお願いするのではなく、支援室が独自に発掘 謝金は群馬大学規定による 依頼にあたって、資格の有無は考慮していない

試行錯誤の日々

大学での手話通訳
場面は年々増加

大学での講義通訳の困難さ

環境	資源	知識・技術
<ul style="list-style-type: none"> 「手話で情報保障がはたしてできるのか？」という誤解・偏見 地域の手話通訳派遣要綱と支払い基準が違う 	<ul style="list-style-type: none"> 学生のニーズ増加においつかない 日中動ける手話通訳者を確保することさえ難しい 	<ul style="list-style-type: none"> どうしても内容が分からなければきちんとした通訳はできない 一朝一夕に理解できる内容ではないことも

困った!	取り組み	成果
手話通訳者が足りない!	地域の手話通訳者との合同研修会を実施。希望者には、講義通訳の機会提供(無償)	大学通訳現場への理解が広まる 支援室としても、実際の講義通訳の様子を見ることができる (スカウトにつながる)
通訳者にとって必要な講義情報が直前まで分からない	手話通訳者が決定したら、氏名を担当教員に伝える(CCで対象学生にも送る)	必要と思われる講義の日程、流れを自主的に教えてくれるようになった
これどう表すの?	活動報告書に記入してもらい、リスト化。対象学生本人に確認、ろう職員の意見を聞く	初めて通訳に入る人たちにも事前資料として渡せる 対象学生も手話通訳に対してのニーズ芽生えが出てくるように
予定時間を過ぎても講義が続く...	全ての時間の情報保障はできないことを伝え、級友や担当教員に筆談などで対応してもらおう依頼	同級生でテキシアうなど自然なヘルプの様子ができあがっていった!

よりよい手話通訳をめざして

<職員>

- ◆反省会
- ◆手話通訳場面を撮影したビデオを見ながら、
 - ・聞きもらし表現
 - ・意味理解不能表現
 - ・理解したが表出不可の表現
 に分類し、自分なりに克服課題をまとめる

<地域との合同研修会>

- ◆手話通訳強化をめざしろう者の講演を模擬通訳
- ◆ビデオを見て意見交換

- ・問題を可視化して共有
- ・助言しあう関係づくり

- ・手話通訳者の活用について意見交換
- ・講義の充実

- ・教材として手話撮影をお願いする
- ・研修会にゲストとして参加してもらう

手話通訳者

大学(教職員)

学生

デフコミュニティで育てられた通訳

養成機関で養成された通訳

さまざまな状況に対応できる手話通訳



ニーズの自覚

手話通訳を活用する力

エンパワメント

学生からの要望・不満をもっと引き出すには?

手話通訳者ののびしろを見るには?

これからの課題

手話通訳者としてどこまで“介入”すべきか?

先生に、こんなことを言われてしまったら?

練習できる適切な教材・環境は?

スキル向上の検証

教材等の資源

事例の積み重ね

周囲の理解

手話通訳への謝金扱いは?

問い合わせ先

群馬大学障害学生支援室

a_dis-support@ml.gunma-u.ac.jp

Tel/Fax: 027-220-7114

学生が主体になった支援者の組織的養成プロジェクト

日本社会事業大学Supporters Training Team & 聴覚障害学生支援プロジェクト室

- ・ テイカー個人のスキルアップ
- ・ 継続的で質の高いトレーニング
- ・ 社大のルールや、共通認識の構築
- ・ 授業形態と支援手段の合致

- ・ 一部の教えられる人の「頭」「経験」に頼っている
- ・ 学生は忙しいのでまとまった空き時間がない
- ・ 学生団体のCSSOは代によってスキルと意識の差が生じる
- ・ 必要な支援方法とテイカーの持っているスキルの不一致

2011.5



(Supporters Training Team) 結成！ 現在10名

- 教える人材の有無に左右されないように、教材を作成する
- テイカーのスキルアップのための継続的な研修を行う
- 空き時間に個人で練習できるような環境を作る
- 人員不足をカバーする新しい支援方法として音声認識を導入する



教材作成

トレーニング

音声認識導入

5~6月: STT新体制の説明・教材作りディスカッション

6月~: 小規模なトレーニング・自主練



うまいNTで
どんなの？

真剣！

こんな手話があるのか！

音声認識って難しい!!
でも、楽しい!!
実際の授業で
使うためには・・・?

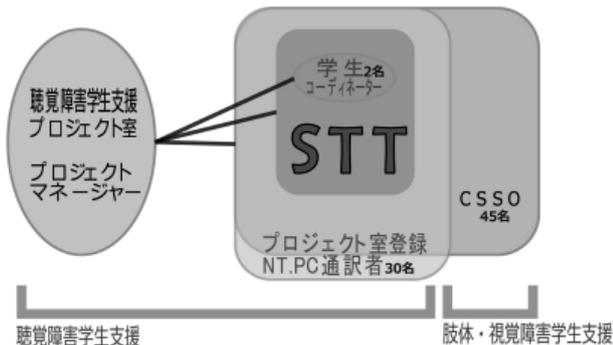
7月: ディスカッションのまとめ、教材内容検討

これは“スキル”で、これは“気持ち”...

脳内通訳

- 要約力を伸ばすトレーニング
- ① 授業を聞く
 - ② そのままコピー（「聞く&記憶する」力）
 - ③ 書き言葉的に整えて声で通訳=連携入力の状態
 - ④ 元ネタの20%で声で通訳=NTの状態

日本社会事業大学支援制度



学生コーディネーター

- プロジェクトマネージャーと連携して、学生支援者の配置・連絡を行う。
- 週に1回程度、プロジェクトマネージャーとミーティング、ケーススタディを行い、支援をコーディネートする。
- 支援者養成のための研修等の企画と実施について協議する。

STT (Supporters Training Team)

- 支援制度運営についてプロジェクトマネージャーと意見交換して実行に移す。
- 支援関係者懇談会等を牽引する。

プロジェクト室登録NT・PC通訳者

- ノートテイカー、PCテイカー等として支援に入る。
- STTが呼びかけた研修やディスカッション等に参加し、社大の聴覚障害学生支援体制を支える。

問い合わせ先 日本社会事業大学 聴覚障害者大学教育支援プロジェクト 岡田孝和 n.okada@jcsu.ac.jp



【講座オン・オフ】随時きめ細かな講座を開催しています。時間が取れない人や復習したい人は、オンデマンド講座を受けることもできます。

支援者募集・養成

【交流会】聴覚障がい学生・支援者・教職員等が一同に会し懇談することで、お互いを知り支援のニーズとウオンツを共有しています(半期開催)。

【継続研修】経験豊富な支援学生や聴覚障がい学生の意見を取り入れ、PC通訳の連携入力等、支援現場に即した研修を行い、支援者のスキルアップと定着をめざしています。



情報交換・研修

所沢キャンパスで毎週金曜13:00-14:30に聴覚障がい学生・支援学生等による勉強会を行っています。内容は手話学習、情報保障や学生のキャリアといった聴覚障がい支援のよろず雑談です。ソーシャルネットやWebカメラを用い遠隔地と連動も行います。関心のある方はオンオフを問わず、どなたでも参加ください。詳しくは下記のQRコードを読み取ってみてください。



学生からの発信



その他、今年度は聴覚障がい学生が他大学の授業でゲスト・スピーカーとして、当事者の立場から話をしました。

これはいったい?

さんみいったい!



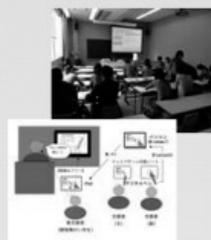
当事者・支援者・支援室 The Trinity Action



教職員との連携

【教養科目の開講】教員と支援室職員が連携し全学に開かれた教養科目「障がいの理解と支援」を本年度より開講しています。支援室職員も講師を担当し、ノートテイクの実習も行っています。

【支援機器の提案】聴覚障がい学生の意見をきっかけとして、研究室と支援室の連携による、デジタルペンと無線を用いたノートテイクの検討を進めています。ゼミ等において、聴覚障がい学生の制約を緩和し、主体的参加を支援します。



http://www.waseda.jp/news11/110804_ant.html

【専門性のフォロー】法務研究科での支援では、法学という講義の専門性を踏まえ、研究科事務所と支援室の連携によって、研究科内で支援学生を募集しています。

障がい学生支援の啓発

パンフレットやホームページの作成、学内広報誌への記事の掲載、学内のイベントへの協力などによって、障がい学生支援の啓発を行っています。

【2011年度取組の一例】早稲田大学国際コミュニティセンターのテーマ・ランチ「障がい学生支援」に協力



早稲田大学 障がい学生支援室
Disabled Student Services Office, WASEDA University

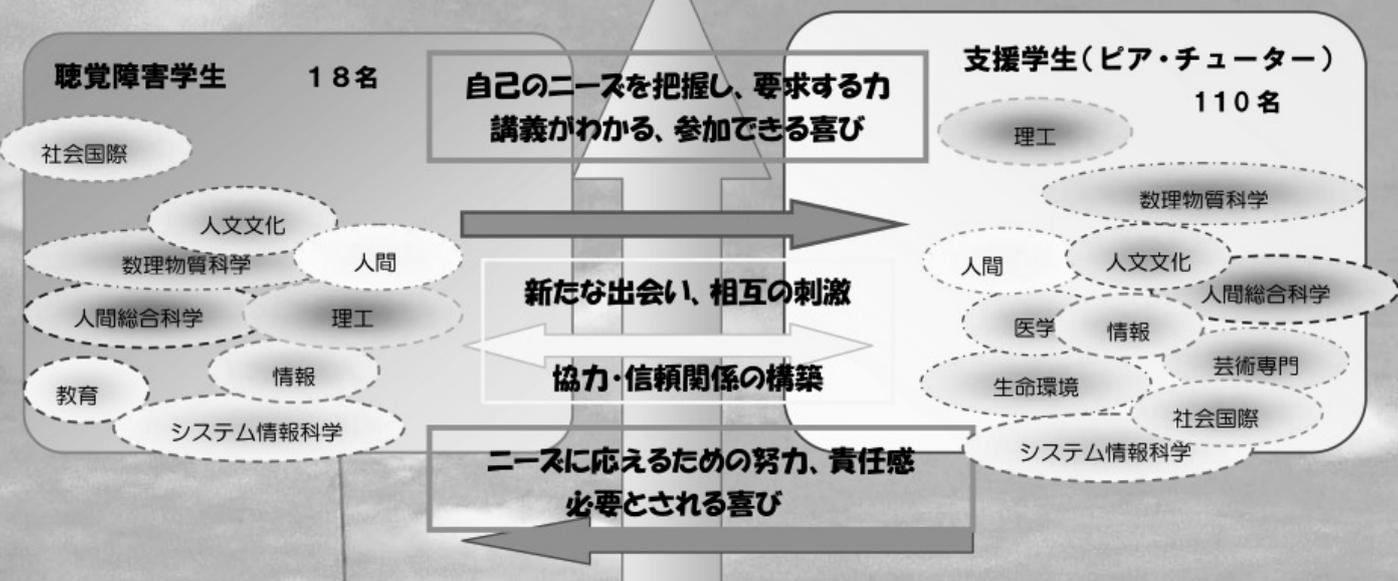
E-mail shienshitsu@list.waseda.jp FAX: 03-5286-0642 TEL: 03-5286-3747
<http://www.waseda.jp/student/shienshitsu/index.html>

筑波大学障害学生支援室 聴覚障害学生支援チーム

筑波大学の支援概念と聴覚障害学生支援チーム

〈障害学生と支援学生が共に成長〉

誰もが輝く 共生キャンパス



〈大学は学生を育てる植木鉢〉 ～筑波大学障害学生支援室を中心に～

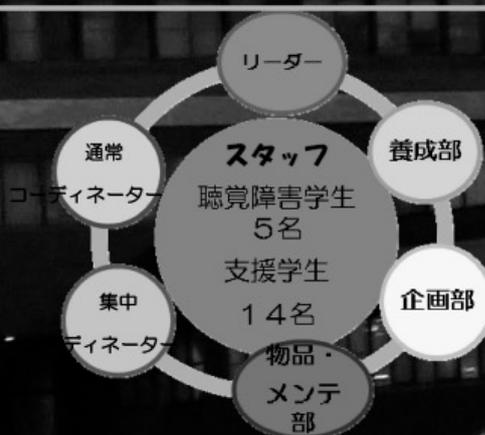
障害学生の支援に関する全ての相談窓口を担当。

各教育組織および事務組織と連携し、全学に平等にいきわたる支援体制を整備。

すべての学生への総合科目や養成講座の開設により、障害学生支援を知るきっかけや技術習得の機会を提供し、共生の心を育てることをめざしている。

責任感、信頼・協力の輪

学生を主体とした運営

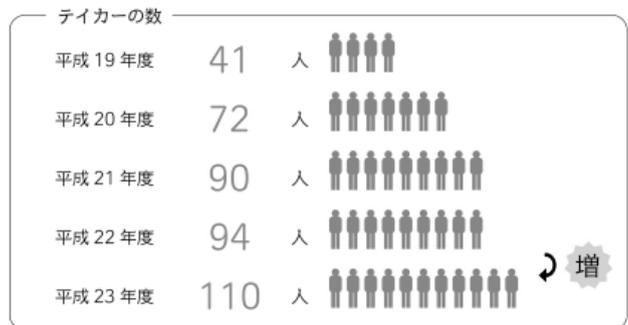
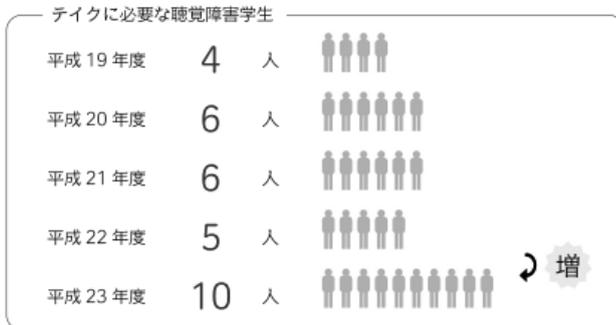


問い合わせ先

本ポスター内容についての問い合わせ hi-support@human.tsukuba.ac.jp (聴覚障害学生支援チーム)

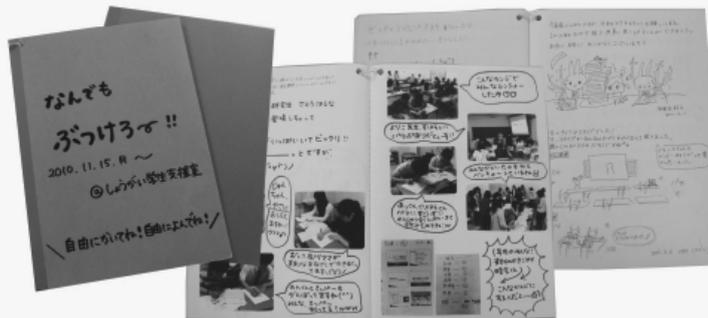
筑波大学障害学生支援室についての問い合わせ shougai-shien@un.tsukuba.ac.jp (障害学生支援室)

わたしたち、宮城教育大学しょうがい学生支援室・聴覚しょうがい部会の学生運営スタッフは主に、テイカー養成・スキルアップのための練習会、困ったことの相談や解決を図るための反省会を設け、情報保障の更なる向上を目指しています。



みんなのかお

テイカー・聴覚障害学生の顔写真付きメンバー紹介です。宮城教育大学にはたくさんのテイカーさんがいます。「みんなのかお」で所属や学年などを提示し、どんなテイカーさんがいるのかひと目で知る事ができます。はじめてのテイクでも顔が見えると安心です。テイカー自身も講義やバイトなど多忙なため、なかなか支援室に立ち寄れないメンバーもいますが、まだまだ写真を増やしていきたいと思っています！

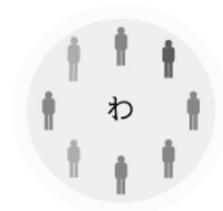


なんでもぶつけろノート

昨年度後半から導入し、2冊目に突入しました！しょうがい学生支援室に来た学生が、通訳の様子や最近の出来事などなんでも好きなことを書き合い、普段なかなか顔を合わせない学生ともノートの中で交流を深められます。また運営スタッフが練習会の様子をまとめ、練習会に来れなかった学生に情報を提供できるように工夫しています。



ひとりひとりの「かお」や「ことば」が交流や情報交換の場となります。みんなの「わ」がどんどん大きくなるように今後も引き続き取り組んでいきたいと思っています。



iPhone 遠隔通訳をしていただいた、愛知教育大学、関西学院大学、群馬大学、札幌学院大学、筑波技術大学、同志社大学、日本社会事業大学、日本福祉大学、広島大学、フェリス学院大学、立命館大学、早稲田大学のみなさん、ご支援に感謝いたします。ありがとうございました。

宮城教育大学 しょうがい学生支援室 一同

問い合わせ先

宮城教育大学 しょうがい学生支援室 聴覚しょうがい部会 学生運営スタッフ
TEL・FAX 022-214-3651 / E-mail Support-Coordinator@ml.miyakyo.ac.jp

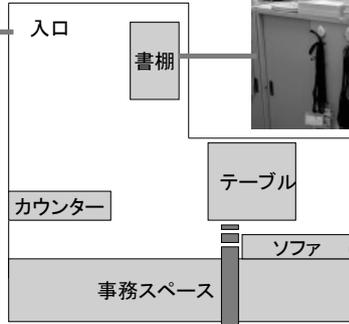
東北福祉大学 障がい学生支援室

今年度は、聴覚障がい学生7名、肢体不自由学生9名(うち重複1名)、視覚障がい学生1名、サポート学生(ノートテイク含む)140名、さまざまな人たちが障がい学生支援室を利用しています。キャンパス内では目立たない場所にひっそり存在していますが、実はすごく熱くにぎわっているんです！東北福祉大学の障がい学生支援室の紹介をします！



薄暗い廊下の突き当たりに障がい学生支援室はあります。(節電のため学内、どこも暗めです)

サポーター養成

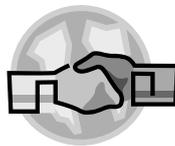


書棚の上にはテイク用品、中にはパソコンなどを保管しています。

肢体不自由学生の休憩スペース
日当たり良くポカポカで気持ちいいんです♪

ミーティングスペースは活動の拠点！

学生交流



ノートテイク、ガイドヘルパー希望があれば養成講習会を随時開催します。今年度は30回ほど開催しました。

スタッフミーティング、学生同士の語らいの場としてにぎわっています。今年は事務室のエアコンが使えず暑い夏でした。時にはカキ氷を食べながらミーティング♪

ガイダンス



先輩から後輩へ、実習や就職活動の体験報告会をしたり、キャリアセンターによる就職活動のアドバイスも行っています。

サポート活動



今年度、視覚障がい学生に対するテキストデータ資料の作成を、肢体不自由学生が行っています。自分のできるサポート活動に障がい学生自身も参加しています。

お楽しみ企画



お好み焼をしたり、時々お楽しみイベントを企画しています♪
こちらは、昨年の忘年会の様子。

問い合わせ先

東北福祉大学 学生生活支援センター 障がい学生支援室
連絡先 TEL 022-301-1291 E-mail support@tfu-mail.tfu.ac.jp

PR・啓発グッズ部門 応募団体紹介

東京大学バリアフリー支援室

◇東京大学バリアフリー支援室リーフレット
等

<問い合わせ先>バリアフリー支援室
Spds-staff@mm.itc.u-tokyo.ac.jp

関西学院大学総合支援センター キャンパス自立支援課

◇サポート学生募集ポスター 2種類

<問い合わせ先>総合支援センターキャンパス自立支援課
jiritsu-nuc@kwansei.ac.jp

宮城教育大学

しょうがい学生支援室

- ◇教職員の手引き
- ◇支援学生の手引き

<問い合わせ先>しょうがい学生支援室
Support-Coordinator@ml.miyakyo-u.ac.jp



第7回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

発行日：2011年11月6日

発行：第7回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム実行委員会

表紙デザイン：山本美樹（筑波技術大学産業技術学部総合デザイン学科）

日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）事務局

〒305-8520 茨城県つくば市天久保4-3-15

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター

※本事業は、文部科学省特別教育研究経費による
拠点形成プロジェクト（筑波技術大学）の活動の一部です。





PEPNet-Japan
ペブニネット